

門川南町遺跡

一般国道10号門川拡幅南町地区事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

宮崎県教育委員会

序

宮崎県教育委員会では、建設省延岡工事事務所の依頼を受け、平成4年度から平成6年度にかけて、一般国道10号門川拡幅南町地区に所在する門川南町遺跡の発掘調査を実施してまいりました。

いずれも狭小な面積での調査の積み重ねでしたが、縄文時代後晩期及び中世の遺構と遺物が検出され、その中で縄文後期の土器群の中に瀬戸内地方との交流をうかがい知ることができますなど、それぞれに日向の砂丘地帯の歴史解明のうえで貴重な成果となっております。

これらの成果が、学術関係者のみならず生涯学習の中で役立てられ、文化財保護行政の一層の発展の一助となることを期待します。

なお、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、並びに地元の方々に心からの謝意を表します。

平成8年3月

宮崎県教育委員会

教育長 田 原 直 廣

例　　言

1. 本書は建設省延岡工事事務所が行なった一般国道10号門川拡幅南町地区事業に伴い、宮崎県教育委員会が実施した門川町南町遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は平成4年度が、県文化課埋蔵文化財係主事山田洋一郎、調査員松林豊樹の担当・平成5年度は、主事飯田博之の担当、平成6年度は、埋蔵文化財第一係主事久木田浩子の担当で実施した。
3. 門川南町遺跡は門川町大字門川尾末に所在する。
4. 本書に使用した、遺跡周辺分布図は国土地理院発行の5万分の1の地図を使用し、調査区設定図は、門川町都市計画図の2500分の1を使用した。
5. 造構の実測等は、各調査員で行なった。また、遺物の整理作業については宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで行い、遺物の分類・トレース等については、飯田博之、久木田浩子、山田洋一郎のほか整理作業員の協力を得た。編集は、山田が行なった。
6. 本書に使用した造構及び遺物写真は、各調査員が行なった。
7. 遺物については現在、県埋蔵文化財センターで保管している。
8. SA1は、1号住居跡 SCは、土塙を記号化したものである。
9. 土器等の遺物については、松永幸男氏（北九州市立考古博物館）、今田英樹氏（天ヶ瀬町教育委員会）、金丸武士氏（田野町教育委員会）に御教示いただいた。

本文目次

序 文	
例 言	
第1章 はじめに	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の組織	1
3 遺跡の位置と環境	2
第2章 調査の成果	4
1 調査の概要	4
2 土 層	6
第3章 各時代の遺構と遺物	7
1 縄文時代	7
遺構と遺物	7
SA1	7
SA1出土の遺物	8
包含層出土の遺物	9
(1) 土器	9
(2) 石器	29
2 中世	53
(1) 中世の遺構と遺物	53
3 時期不明の遺構	54
第4章 まとめ	56
第5章 門川南町遺跡の植物珪酸体分析	57
報告書抄録	67

挿図目次

第1章 はじめに	1
第1図 遺跡周辺分布図	3
第2章 調査の成果	4
第2図 調査区設定図	5
第3図 土層図	6
第3章 各時代の遺構と遺物	7
第4図 遺構分布図	7

第5図	SA1・出土縄文土器実測図	8
第6図	縄文土器実測図(1)	12
第7図	縄文土器実測図(2)	13
第8図	縄文土器実測図(3)	14
第9図	縄文土器実測図(4)	15
第10図	縄文土器実測図(5)	16
第11図	縄文土器実測図(6)	17
第12図	縄文土器実測図(7)	18
第13図	縄文土器実測図(8)	19
第14図	縄文土器実測図(9)	20
第15図	縄文土器実測図(10)	21
第16図	縄文土器実測図(11)	22
第17図	縄文土器実測図(12)	23
第18図	縄文土器実測図(13)	24
第19図	縄文土器実測図(14)	25
第20図	縄文土器実測図(15)	26
第21図	縄文土器実測図(16)	27
第22図	縄文土器実測図(17)	28
第23図	縄文土器実測図(18)	29
第24図	石器実測図(1)	30
第25図	石器実測図(2)	31
第26図	石器実測図(3)	32
第27図	石器実測図(4)	33
第28図	石器実測図(5)	34
第29図	石器実測図(6)	35
第30図	石器実測図(7)	36
第31図	SC1・出土土器実測図	54
第32図	SC2～SC10実測図	55

表 目 次

表1	縄文土器観察表	37
表2	縄文土器観察表	38
表3	縄文土器観察表	39
表4	縄文土器観察表	40
表5	縄文土器観察表	41

表 6 繩文土器観察表	42
表 7 繩文土器観察表	43
表 8 繩文土器観察表	44
表 9 繩文土器観察表	45
表10 繩文土器観察表	46
表11 繩文土器観察表	47
表12 石器計測表	48
表13 石器計測表	49
表14 石器計測表	50
表15 石器計測表	51
表16 石器計測表	52
表17 土師質土器観察表	53
表18 石鍾度数分布表	56

図版目次

図 1 遺跡A地点における植物珪酸体分析結果	61
図 2 遺跡C地点における植物珪酸体分析結果	62
図 3 遺跡D地点における植物珪酸体分析結果	63
表(1) 遺跡の植物珪酸体分析結果	64
表(2) 遺跡における主な分類群の推定生産量	66
図版 1	68
図版 2	69
図版 3	70
図版 4	71
図版 5	72
図版 6	73
図版 7	74
図版 8	75
図版 9	76
図版10	77

第1章 はじめに

1 調査に至る経緯

建設省九州地方建設局延岡工事事務所は、日向・延岡間の交通網整備の一員として一般国道10号の拡幅を計画し、それに伴い工事区内における文化財の有無について照会がなされた。県文化課では、工事区内に門川町の南端に位置する砂丘遺跡として周知されていた南町遺跡が含まれるため、その取り扱いの協議をすすめてきた。その結果、工事施工上、計画変更等は、困難であることから、遺跡に影響を及ぼす箇所約5710m²について、用地買収および路線区内建物移転等の完了した区域から順次発掘調査を行なうことになった。

調査は、平成4～6年度の三ヵ年にわたり実施し、報告書については調査がすべて終了した次年度（平成7年度）にまとめて作成した。調査期間は以下のとおりである。

1次調査 平成4年10月12日～平成5年2月1日 (3250m²)

2次調査 平成6年1月5日～平成6年2月8日 (518m²)

3次調査 平成6年6月6日～平成6年6月17日 (1970m²)

2 調査の組織

調査主体 宮崎県教育委員会

教育長	高山義孝（平成4・5年度）
	田原直廣（平成6・7年度）
教育次長	宮路幸雄 安田天祥（平成4年度）
	八木洋 中田忠（平成5年度～）
文化課長	甲斐教雄（平成4・5年度）
	江崎富治（平成6・7年度）
同課長補佐	串間安國（平成4年度）
	田中雅文（平成5～7年度）
庶務係長	税田輝彦（平成4・5年度）
	高山恵元（平成6年度～）
同 主査	巻庄次郎（平成4年度）
	宮越尊（平成5年度～）
埋蔵文化財係長	岩永哲夫（平成4年度）
主幹兼埋蔵文化財	岩永哲夫（平成5・6年度）
第一係長	
主幹兼埋蔵文化財	岩永哲夫（平成7年度）
第二係長	
調査担当	
主事	山田洋一郎・調査員 松林豊樹（平成4年度）
主事	飯田博之（平成5年度）
主事	久木田浩子（平成6年度）

3 遺跡の位置と環境

門川南町遺跡は、宮崎県東臼杵郡門川町大字門川尾末字中原1068番地2他に所在する。

門川町は宮崎県の北部に位置し、北は延岡、南は日向、西は北郷村に隣接しており、東は日向灘を臨んでいる。北から西、南と山岳に囲まれ、その間を流れる五十鈴川が町内を東流して日向灘に注ぎ込む。沿岸部には狭小な平野があり、海岸は北にリアス式海岸、南に門川湾が形成されている。

遺跡は門川湾に面する海岸から約200～300mの距離にある砂地の平野部、標高約7mに位置する。

本遺跡では縄文後期・晩期の遺物がかなり多く出土している。また、弥生や中世の遺物もわずかではあるが出土している。

門川町では現在知られている縄文時代の遺跡は、ほとんどが遺物散布地である。本遺跡周辺でも確認されている例は少なく、平成4年度に行なわれた門川南町遺跡(32)と土橋遺跡(21)の2例のみである。

弥生時代の遺跡も少なく、追ノ前遺跡(5)がある。一部調査が行なわれ、弥生時代の遺物のほか古墳時代や近世の遺物も出土している。平成6年度に県が行なった枝遺跡(追ノ前遺跡の範囲にあたる)では弥生時代前期の抉り入り片刃石斧が出土している。

古墳時代の遺跡は丸山遺跡(9)、コモ田遺跡(17)、深坪遺跡(14)、落郷遺跡(24)、城屋敷遺跡(23)、花畠遺跡(22)、門川南町遺跡(32)で、それぞれ遺物散布地である。

中世の遺跡は山城がその多くを占めている。竹名遺跡(1)、江田城跡(3)、松尾城跡(4)、佐々宇津城跡(6)、城山遺跡(13)、門川城跡(25)、新城跡(30)がある。江田城跡だけ一部調査が行なわれている。また、中世の寺院、福寿寺跡(28)もある。

近世の遺跡は竹名石塔群(2)、追ノ前第2遺跡(7)、森ノ前遺跡(11)、分藏遺跡(29)、古川関所跡(31)がある。

また、門川南町遺跡の南側にある日向市の中屋敷遺跡は弥生から中世の遺物散布地となっており、寺院跡でもある。

参考文献

- 1 「門川町史」宮崎県東臼杵郡門川町 1974年
- 2 「東九州自動車道関連遺跡詳細分布調査報告書2（西都～延岡・延岡道路）」
宮崎県教育委員会 1995年



第1図 周辺の遺跡分布図 (1/50,000)

1. 竹名遺跡
2. 竹名石塔群
3. 江田城跡
4. 松尾城跡
5. 迫ノ前遺跡
6. 佐々宇津城跡
7. 迫ノ前第2遺跡
8. 加草遺跡
9. 丸山遺跡
10. 宮ヶ原遺跡
11. 森ノ前遺跡
12. 宮田遺跡
13. 城山遺跡
14. 深坪遺跡
15. アゼ地遺跡
16. 其田遺跡
17. コモ田遺跡
18. 門川町古墳第1号墳
19. 門川町古墳第4～5号墳
20. 門川町古墳第2号墳
21. 土橋遺跡
22. 花畠遺跡
23. 城屋敷遺跡
24. 落郷遺跡
25. 門川城跡
26. 中山古墳
27. 平田遺跡
28. 福寿寺跡
29. 分藏遺跡
30. 新城跡
31. 古川関所跡
32. 南町遺跡
33. 中屋敷遺跡

第2章 調査の成果

1 調査の概要

本遺跡は、3ヵ年にわって調査を行なった。初年度の平成4年度は、1区・2区・4区・7区の部分の調査を行なった。調査期間は平成4年10月12日から平成5年2月1日の約4ヵ月を費やした。

調査の段取りの関係で1つの区を2地区に分割して時期をずらして調査を行なった。1区は、調査の関係で3地区に分割して行なった。最初に中央の部分から作業を開始した。重機でまず表土を掘削してから作業員で掘り下げていった。表土の下に褐色砂層があり、そこから土器群が出土した。土器は砂で洗われていて風化気味のもののが多かった。土器は後期のものが中心で晩期も出土している。

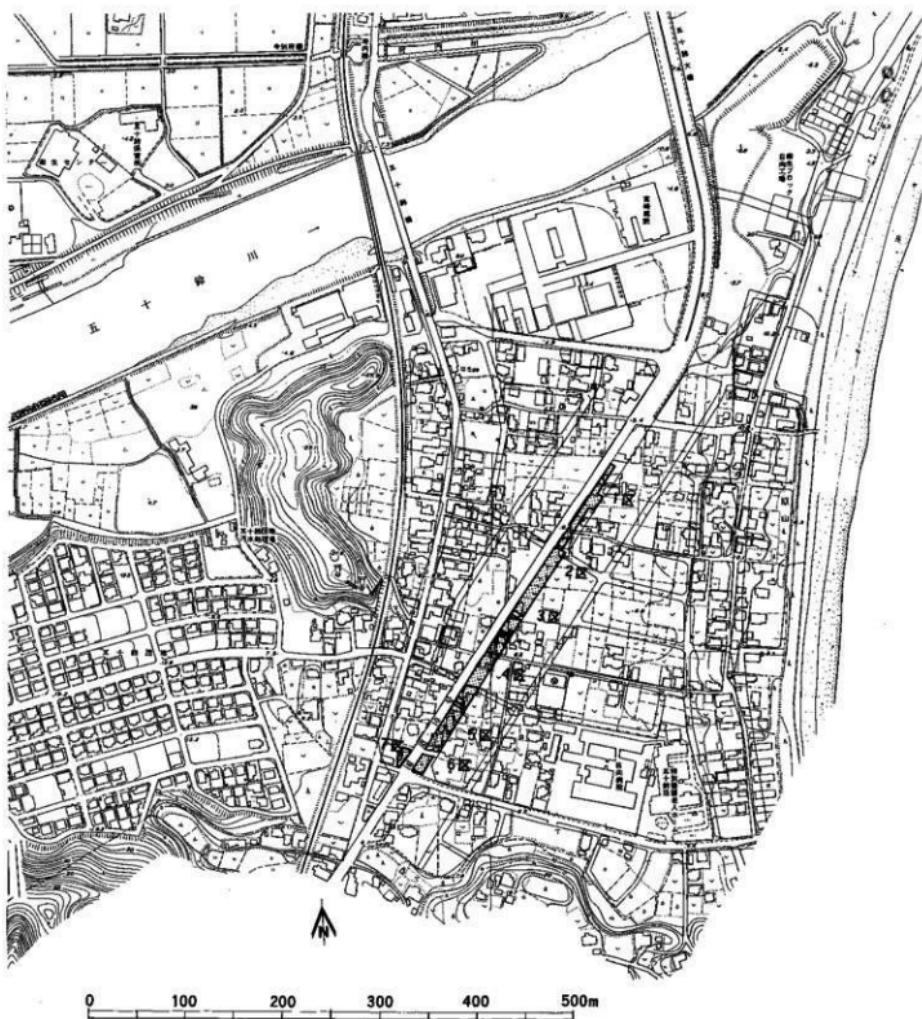
国道沿いの部分で人家が近いことと、水道管や攪乱部分もあって調査不能の場所もいくつかあった。7区は、縄文後晩期の土器のほかに土器類が出土している。

平成5年度は、5区と6区の部分の調査を行なった。調査期間は、平成6年1月5日～2月8日迄の約1ヵ月を費やした。調査の段取りの関係で、5区は、4地区に分割して時期をずらして作業を行なった。土層の状況は、ほぼ前年の第1次調査のときと同じで特別な変化はなかった。調査地は、砂層であるため、遺構の検出は困難な状況であり、わずかに土埴を2基検出しただけで他の遺構の検出はない。5区の南側の部分では、遺物が集中して出土し、縄文時代後期の土器を中心として石鍬や磨石等も出土している。ただ、石器の中では圧倒的に石鍬のしめる割合が多く、遺跡周辺の立地と環境の影響をうけているためでないかと考えられる。6区は、攪乱をうけて遺物包含層はなく、遺構の検出もなかった。

平成6年度は、平成6年6月6日から着手し、518m²を対象に調査を行なった。調査区には以前民家があつたため、建物の基礎を重機で除去し、50～60cmほど全体を掘り下げ、包含層を手掘りする方法で作業を行なった。

基本層序は、第1層が表土で第2層が暗褐色砂層で第3層は、第4層に第2層が交ざる層である。第4層が赤褐色砂層で第5層がオリーブ色砂層である。第6層は、青灰色砂層である。第4・5層が縄文後晩期の遺物包含層となっている。第4層に遺物が集中し、第5層になると希薄になる。遺物は無文土器や突蒂文土器等の縄文後期のものと、黒色磨研土器等の縄文晩期のものが出土しているが、層位による遺物の時代差は見られなかった。本調査区では、全体的に他の区に比べて遺物の出土が希薄になっているが、南側になるにつれて遺物分布の密度が高くなっている。遺構が検出されなかつたために調査は2週間で終了した。

以上が三ヵ年にわたる概要であるが、調査地が国道の沿線であるため水道管が張りめぐっているため掘れない部分があったり、攪乱があったりと色々な制約がありすべての面積は掘れなかつた。しかし出土土器は、縄文時代の土器群を中心に鹿児島の市来系の土器や指宿系の土器も検出されているほか、福田K2や彦崎K1などの瀬戸内系の土器などが検出されている。しかしその土器群の層位的共範関係は確認することはできなかつた。



第2図 調査区設定図

2 土層

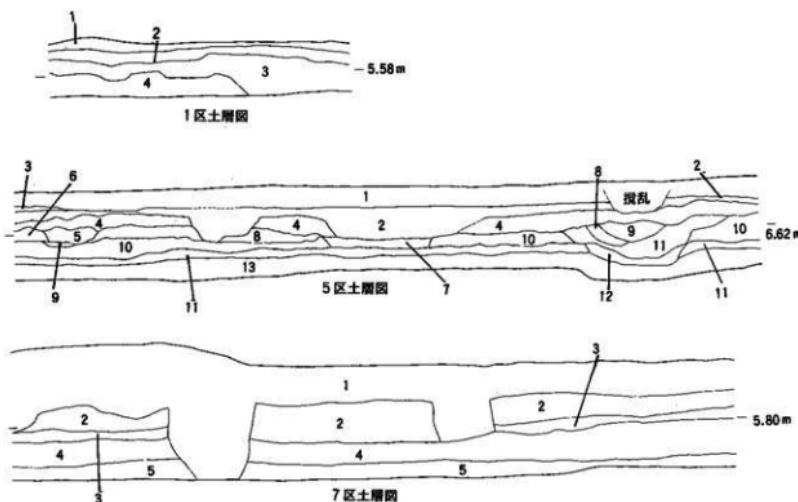
本遺跡の土層は、場所によって多少違うので3つの地区を取り上げてみた。

1区の基本土層は、1層が表土で攪乱等を含んでいる。2層は褐色砂層で粒は粗く粘性がある。3層は小石を含む褐色砂層である。4層は小石を含む茶褐色砂層である。5層は茶褐色土層である。この内、遺物の包含層は2~3層で、この中に縄文後晩期の遺物が含まれる。

5区の基本土層は1層が客土で現地の表土である。2層は粘質の強い客土でこの中に瓦や陶磁器片が含まれている。3層が黄褐色の砂層である。4層は、黒褐色砂層で炭化粒や礫を含んでいる。5層にはい黄褐色砂層である。6層は褐色砂層で1区の2層にあたると考えられる。7層は黒色砂層である。8層は暗赤褐色砂層である。9層は褐色砂層である。10層は暗褐色砂層である。11層は黒褐色砂層で、12層は10層と13層の折移層である。13層はオリーブ灰色砂層である。

7区の基本土層は1層は表土及び攪乱層である。2層は褐色砂層で粒は粗く粘性がある。第3層は褐色砂層である。第4層は茶褐色砂層である。

以上3地点の土層を取り上げてみたが遺物を包含しているのは褐色砂層である。この層に縄文後晩期の遺物を包含している。



第3図 土層図

第3章 各時代の遺構と遺物

1 繩文時代

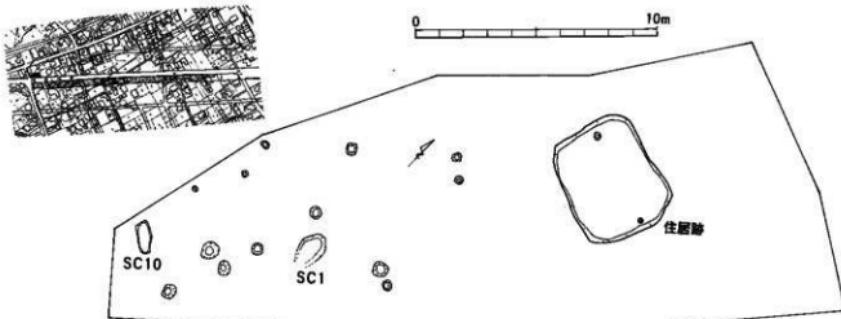
遺構と遺物

繩文時代の遺構は、検出面が砂地なので検出が困難であったが竪穴住居跡が1軒検出された。他に土塁等も検出されたが遺構内に遺物等がなかったために時期不明の遺構として報告するものとする。

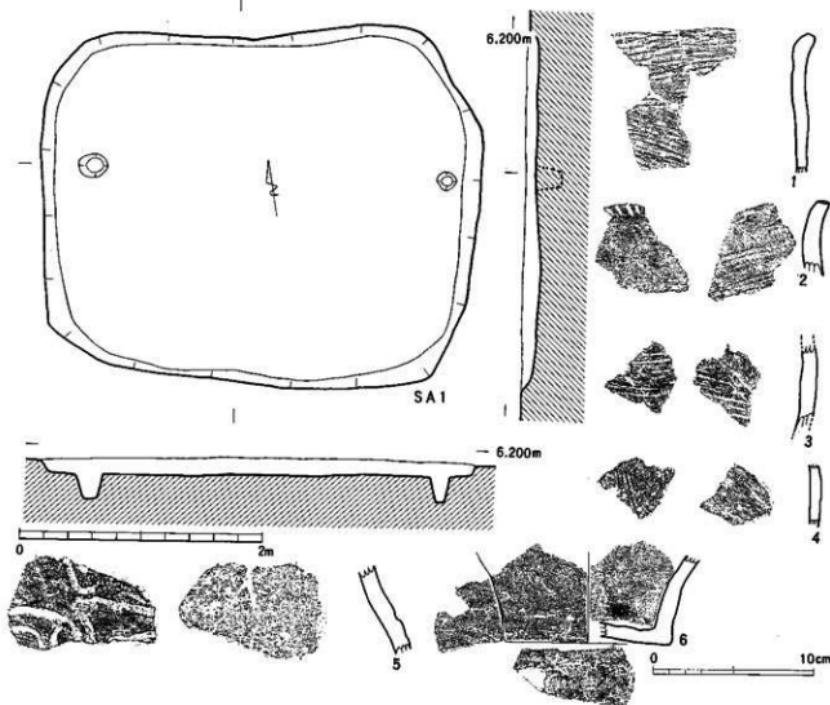
本遺跡の遺物の大部分は繩文土器と石器であり、繩文時代後期が中心である。詳しくは後で細分したものと、まとめたかたちで後述するがここでは簡単に触れてみたい。繩文土器の大部分は後期の土器群で繩文晚期の土器群がそれにつづいている。ここではI類からXIX類まで分類している。I類は口縁部が内湾して外側に縦・斜め・格子目状の沈線を施すタイプで、II類は断面が蒲鉾状で幅広の沈線と擬似繩文あるいは繩文とで構成された磨消系の土器である。第III類は、蒲鉾状の断面を呈する割りと深めの沈線によって構成され、文様はII類と似通った部分を呈する土器である。IV類は後期中葉の土器群である。第V類は貝殻及び竹管による刺突を施す土器群（市来系）と考えられる。VI類はいわゆる磨研土器である。VII類は突帯文土器である。VIII類は、無文で調整に貝殻条痕を施す土器群のことである。IX類は無文土器である。X類は沈線による施文を施すもので後期初頭に位置付けられるものである。XI類は口縁部文様態に半弧状の沈線を施すタイプである。XII類は脣部から口縁部にかけて緩やかなS字状の断面をなし、脣部のはり出した部位に斜め、あるいは縦方向の押圧が施文されるタイプである。XIII類は口唇部に刻みあるいは押圧を施すタイプである。XIV類は、頸部以外は口縁部及び脣部に擬似繩文を施すタイプである。XV類は幅の狭い断面U字形の沈線を施すタイプである。XVI類は、口縁部から脣部にかけてS字状の断面をなし、口縁部に沈線による文様帶をもつタイプである。XVII類は、内・外側とも丁寧に研磨され、口縁部に沈線及び擬似繩文を施すタイプである。XVIII類は後期前葉の土器群である。XIX類は後期前葉の鉢型土器である。石器については、石錐がもっと多く、これはこの遺跡が海岸に近いことに関係すると思われる。

SA1

SA1は7区に位置する竪穴住居跡である。長径3.6m×短径2.82mの方形プランで、検出面が深さ11cmである。主柱穴は2本柱で柱穴の深さは20cm前後の浅いものである。検出面は第IV層の茶褐色砂質層である。住居跡内土塁や焼土・壁帶溝等は見られなかった。



第4図 遺構分布図



第5図 SA1・出土縄文土器実測図

SA1出土の遺物

1は、鉢型土器の口縁部で口縁部がやや外反し外面に斜め方向の貝殻条痕を施している。内面は横方向と斜め方向の貝殻条痕を施している。胎土は1mm以下の淡黄色・無色透明に光る微砂粒を含んでいる。焼成は良好で、色調は外面が橙で内面が灰褐・鈍い赤褐色である。2は、口唇部に刻目のある鉢の口縁部で外面はナデ調整で内面は横ナデ調整を施している。胎土は2.5mm位の灰白色・褐色砂粒を含んでいる。焼成は良好で、色調は外面が橙である。内面は明黄褐色である。深鉢の脛部で外面は横方向の貝殻条痕の後ナデを施してある。内面は横・斜め方向の貝殻条痕の後ナデを施してある。胎土は、3.5mm位の茶褐色・灰褐色粒を含んでいる。焼成は良好で、色調は外面が灰褐色で内面が鈍い赤褐色である。4は、鉢の脣部で外面に貝殻条痕の後ナデを施している。内面はナデ調整である。胎土は1mm以下の茶褐色と光る砂粒を含み3mmの茶褐色の粒を含む。焼成は良好で、色調は内外面とともに橙である。5は、鉢の脣部から脣部で沈線が施されている。調整は少し風化気味ではあるが内外面ともにナデ調整である。焼成は良好で、色調は内外面ともに橙である。6は、深鉢の底部が平底である。外面に斜め方向のナデ調整を施してあり、焼成は良好であり、色調は外面が橙であり内面が鈍い赤褐色である。いずれも、SA1の床面近くで検出されたものである。中には5・6のように風化の見られるものもあった。

包含層出土の遺物

(I) 土器

土器は、縄文時代後期初頭から晩期にかけての時期が見られ、前葉から中葉にかけてピークがある。出土状況としては、後期や晩期の各時期の土器が混在した状況で、層序関係は認めなかった。

出土した土器を各時期ごとに大別し、以下文様、形態について少しばかりの分類を試みた。

I 類 後期初頭の土器 (1~10)

1はタテ方向の沈線、2は横位の沈線を施す。4~7は口唇部に押圧を施す。8は胴部で深く粗い沈線を施す。

II 類 後期前葉の土器 (11~)

A 鉢形土器 (55~57)

いずれの資料とも内外面とも、丁寧なミガキが施されている。

B 緑帶文土器 (58・59)

58は内外面に、59は内面に丁寧なミガキが施されている。

C 頸部以外の部位に擬似縄文を施す土器 (60~64)

62・63・64は口縁部に擬似縄文を施すが、62は巻き貝による擬似縄文である。そして、胴部の60・61も巻き貝による施文となる。

D 内外面とも丁寧に研磨され、口唇部付近に沈線あるいは擬似縄文を施す。彦崎1系の土器群と考えられる。(64~67) 64は口縁部外面に巻き貝による擬似縄文を施す。67は内外面ともに丁寧なミガキを施す。

E 口縁部がキャリバー状に内湾し、外面にタテ・斜め・格子目状の沈線を施す。(68~155)

このタイプの土器が、非常に多く出土している。68~113は、口縁部の断面の形態が丸みをおびる。89・93・96・99・105は瘤状突起をもつ。109は瘤状突起に押圧を施す。114~124は断面がやや平坦か、くぼみをもつ。134~137は口唇部がやや外反するタイプである。139~141は、口唇部に刺突およびキザミを施す。142~155は頸部から胴部。E類の中では、103・138・155の無文のタイプと107・155の工具による調整痕が残るタイプが特異な存在である。

F 福田K II式系の土器 (156~158・161)

158は、内湾する口縁部と穿孔をもち、内面には明瞭な段をもつ。外面は研磨縄文で飾られ、3本単位の沈線を施文する。内外面とも丁寧に研磨されている。161は口唇部に押圧、外面は磨消縄文と沈線で施文している。

G 口唇部にキザミを施す土器 (159~160・162~179)

キザミは棒状の工具で施文した土器がほとんどで、口縁部の形態は外に直口するタイプが、(159~160・

162・166・169～170・174～176) と、やや内湾する (163・165・167～168・171・173・177～179) タイプ、外反する (164・172・174) タイプが見られる。165は口唇部に凹線を施す。164は口唇部に鋭い沈線をもち、貝殻複縁による連続刺突を施す。175は二重丸の沈線を、172はV字状の沈線を外面に施文する。

H 幅が狭く、断面U字状の沈線をもつ土器 (180～186)

口縁部は180～183で181・183は外反する。185・186は研削繩文を施文する。184は丁寧なナデをほどこしてある。

I その他の前葉と考えられる土器群

11～16・18は円形の沈線をモチーフとしており、11・12は波頂部に凹をもつ。15は円形の沈線の中央に刺突を施す。17・19～21・29は磨削繩文を施す。24・25は横方向の沈線と斜方向の短沈線をもつ。22・26・27・28・48は口唇部に刻みをもつ。26の文様は、37・44の資料と同じである。31は瘤状突起と刺突をもつ。45は波状になる口縁で、磨消繩文をもつ中津式系の土器と考えられる。51は口唇部を肥厚させ、刺突を施す。47はやや内湾する口縁部に斜方向の短沈線を施す。

III類 後期中葉の土器

A 指宿系の土器 (251・252)

251は、2本単位の横方向の沈線を折り返しながら施文する。252は波状口縁で、横方向の幅広の沈線を折り返しながら施文し、口唇部近くに斜方向の短沈線を施す。

B 脊部が膨らみ、頭部から口縁部にかけて外反する土器 (253～259)

253～257は脣部に連続する棒状の工具による凹圧を施し、内外面ともナデ調整が見られる。258は、脣部外面に工具によるナデが、259は口縁部外面に、沈線を施す文様帶を持つ。

C 断面U字状の幅広の沈線と擬似繩文あるいは繩文で構成された磨消系の土器群 (260～300)

小池原上層式と考えられる。

①沈線の幅と深さが大きく外反する口縁部をもつ。

266は波状口縁で擬似繩文が施文されている。265・267・289は平口縁。261～264・268は脣部で繩文が施文されている。

②沈線の幅と深さが①より小さく外反する口縁部をもつ。

270～273は緩やかな波状口縁で、271と272は穿孔をもつ。274～276は平口縁で275・276は丁寧な研磨が施されており、丹塗りも一部見られる。胎土が異なっており搬入品の可能性がある。278・280・283は鉢形の土器で、丁寧なナデ調整のされた繩文による磨削系の土器である。283は脣部の283とともに搬入品と考えられる。279は橋状取っ手のつく鉢である。風化が著しく調整ははっきりとしない。277・281・282・284～288・290～298は脣部片である。292は丹塗り。282・285・287・291・297は巻き貝による擬似繩文を施文している。

③内湾ぎみに立ち上がる口縁をもつ

299・300いずれも巻き貝による擬似繩文を施す。299は内面に貝殻による調整痕を残す。

D 割と浅めの断面U字状の沈線を施し、脇部文様が沈線のみで施文されている土器。鐘ヶ崎式。

1 外反する口縁部 (301～309)

301～307は、肥厚した口唇部の上部と側部に、沈線あるいは凹線をもつタイプで、303は凹線の他に刺突も施す。309は風化が著しいが、口唇部付近に凹線をめぐらしているのが見える。

2 脇部片 (310～320)

E 無文で調整に貝殻条痕を施す (321～344)

口縁部の形態で、内湾ぎみのタイプ (327・329・333・335・340・342) と、外反するタイプ (321～326・328・330～332・338・341・343・344) とに分類できる。327は口唇部が肥厚し、338は波状口縁で波頂部に押圧が施してある。

F その他の中葉の土器群 (187～250)

189は口唇部を肥厚させ、沈線を施文するタイプ。190は口唇部上端に鋭い沈線を施文する。196・203・206・207・208・209は外面に巻き貝による擬似繩文を施文する。201～205は口縁部外面に2本単位の沈線をもつ。210～214は口唇部付近に斜めのキザミをもつ。215は直口する口縁部の外面に、4本単位の半円形の沈線を施文する。216・218～220は口唇部付近に沈線を絡ませるタイプ。222は波状口縁で波頂部に向かって沈線がのびる。巻き貝による擬似繩文を施す。226～238は横方向の沈線を基調として、ほとんどが内湾ぎみである。235は巻き貝による擬似繩文を施す。239～244は、タテ方向の沈線を半弧状の沈線で囲む文様をもつ。247・248は外面に巻き貝による擬似繩文を施す。

G 貝殻刺突文や工具による刺突で構成される土器群 (345～356) 市来系の土器。

345・346は屈曲する外面に貝殻複縁による刺突・347・348・349・353は工具による刺突が施される。354は口唇部上面に貝殻複縁による刺突が、355は口唇部直下に突帯を巡らせ、連点状の刺突を施す。356は波状になる口縁部外面に、大きな梢円形の刺突を施し、内面に貝殻複縁による刺突を施文する。

IV類 晩期の土器

A 磨研土器 (357～385)

- 1 鉢・浅鉢 (357～368・380・381)
- 2 鉢形土器 (369～379・382～385)

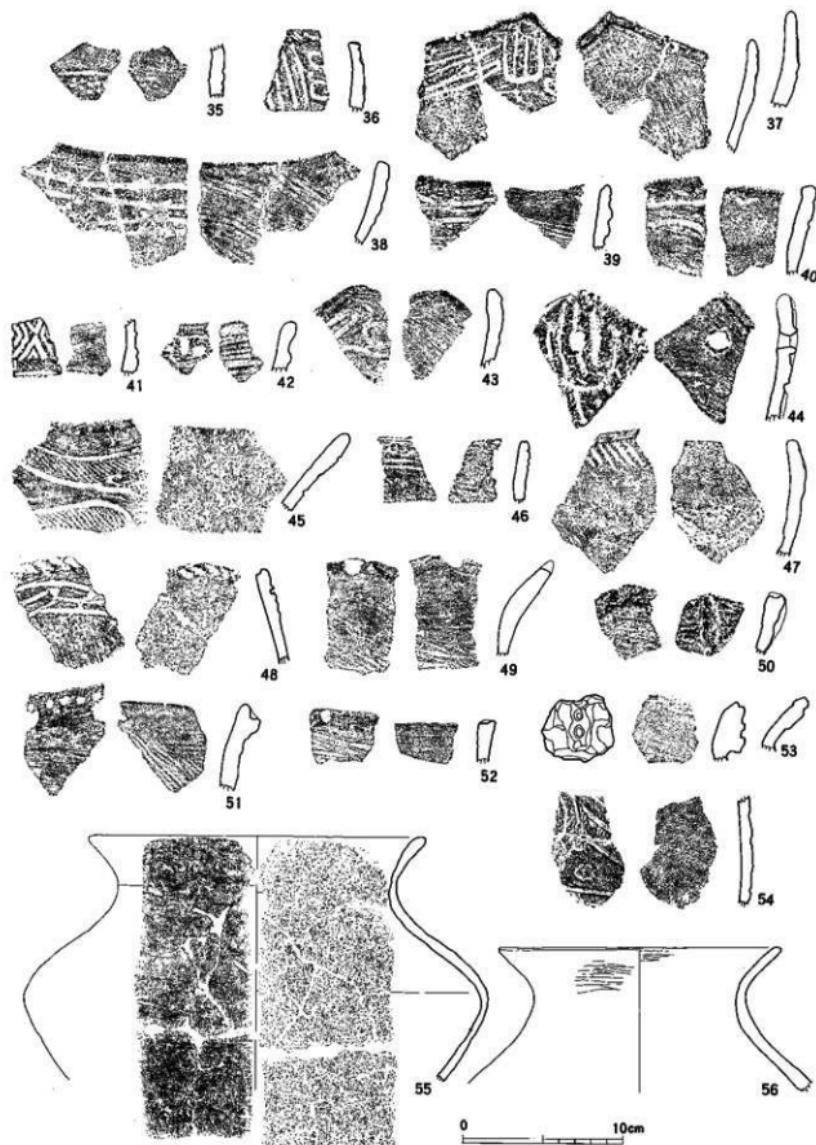
B 突帯文土器 (386～414)

V類 底部 (416～434)

416～426は上げ底で、427～434は平坦である。



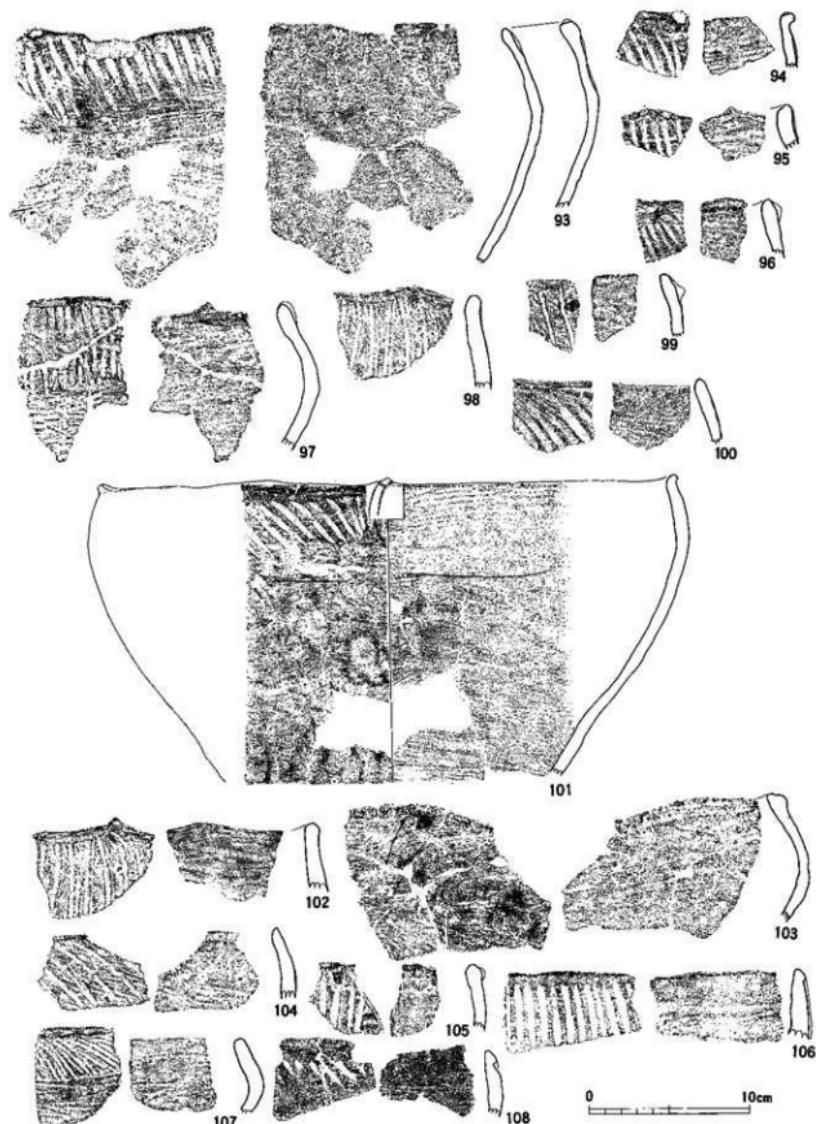
第6図 繩文土器実測図（1）



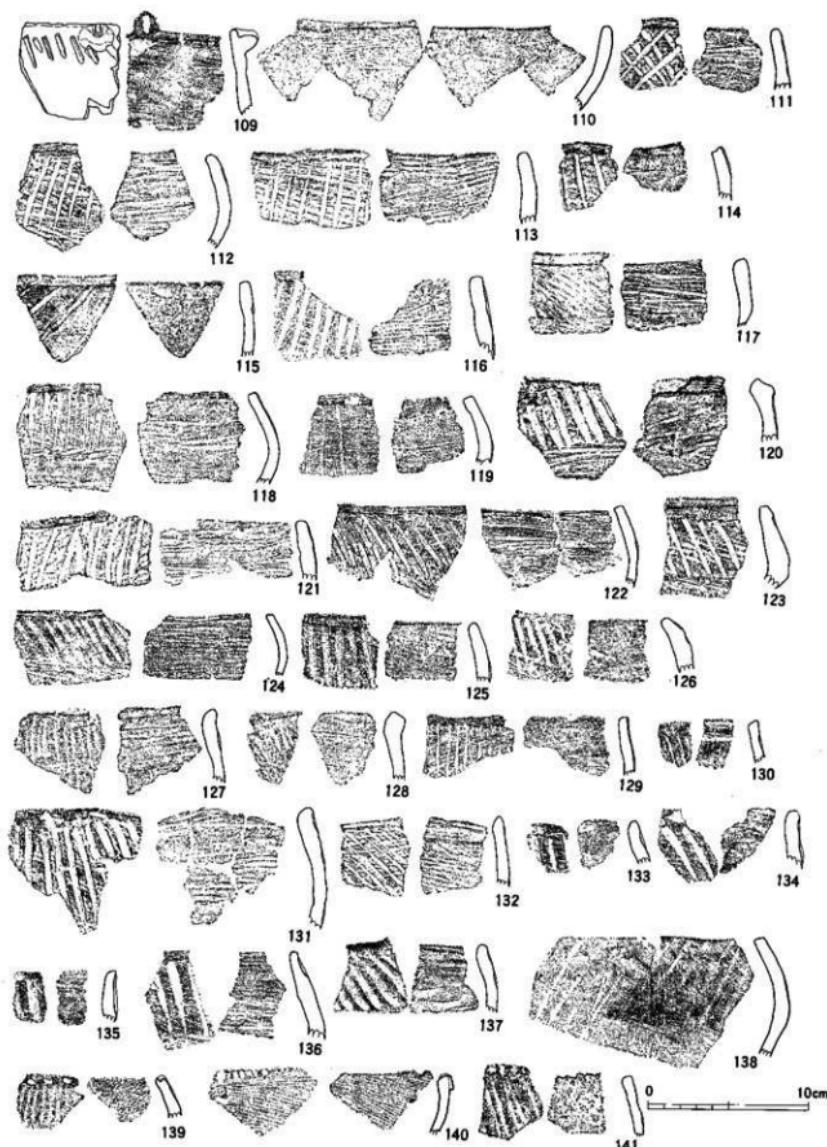
第7図 縄文土器実測図(2)



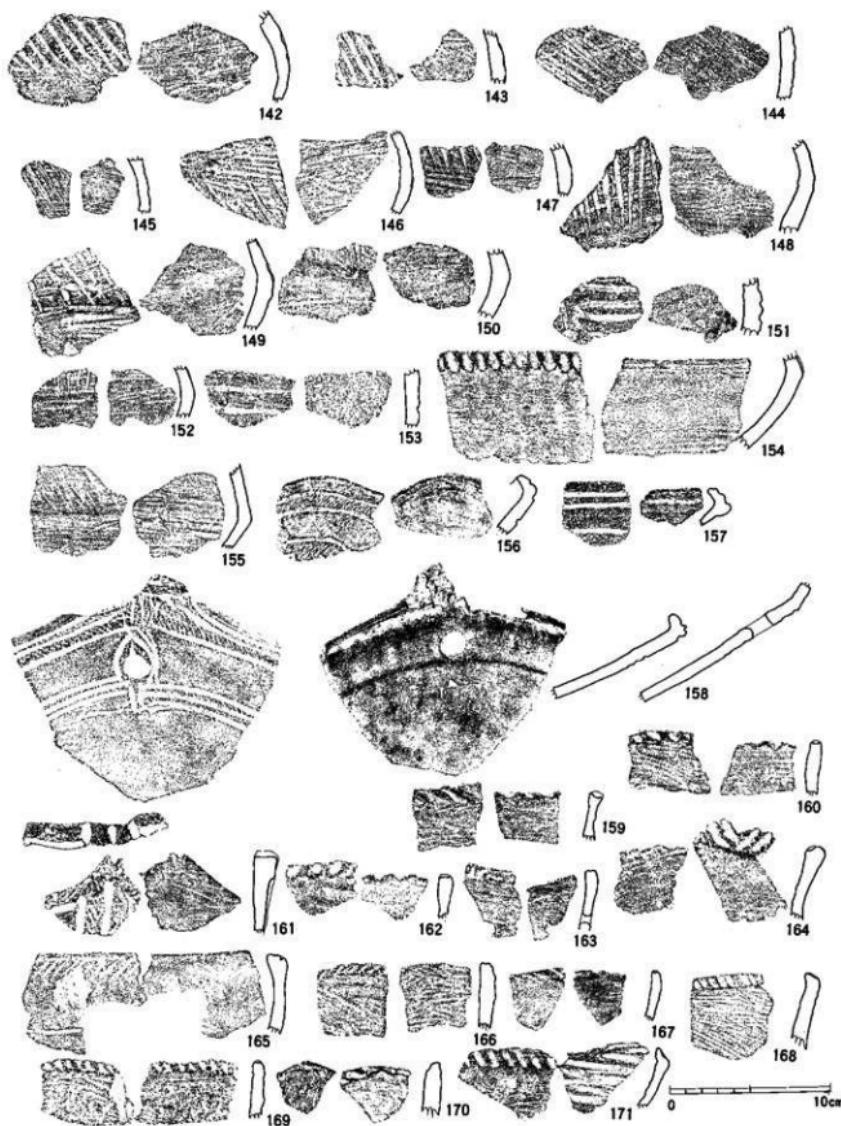
第8図 繩文土器実測図（3）



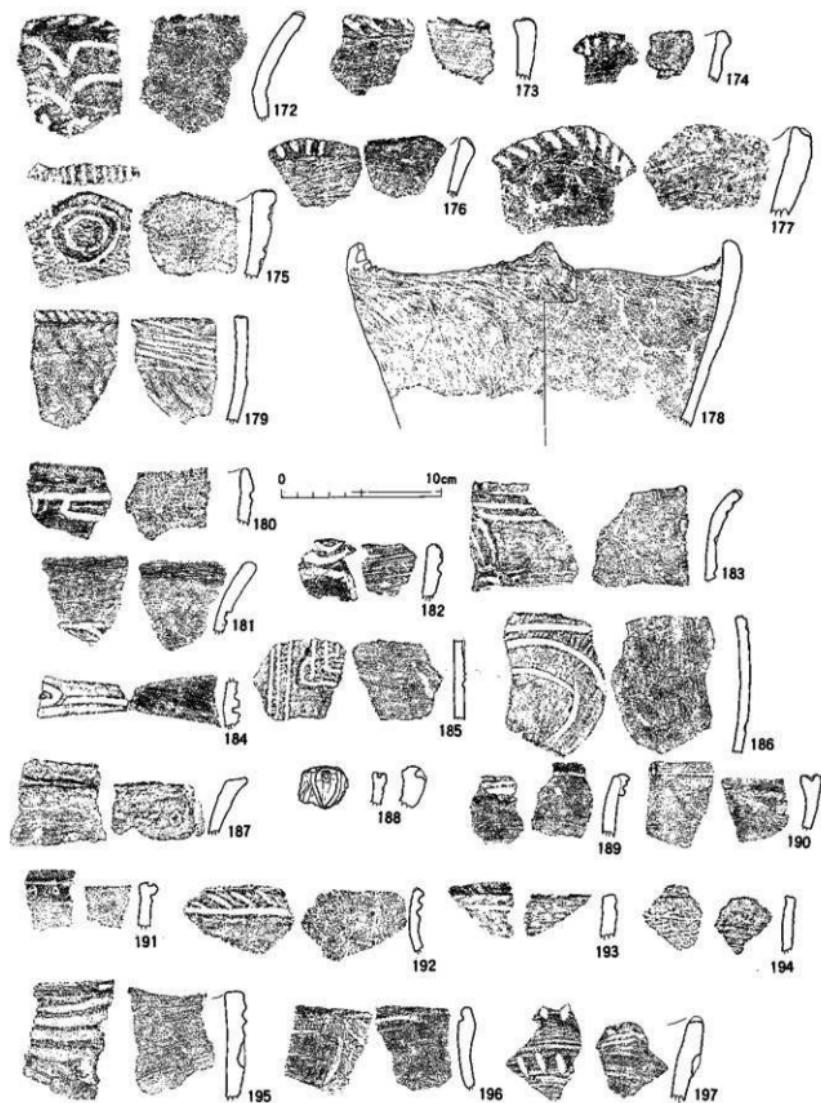
第9図 繩文土器実測図（4）



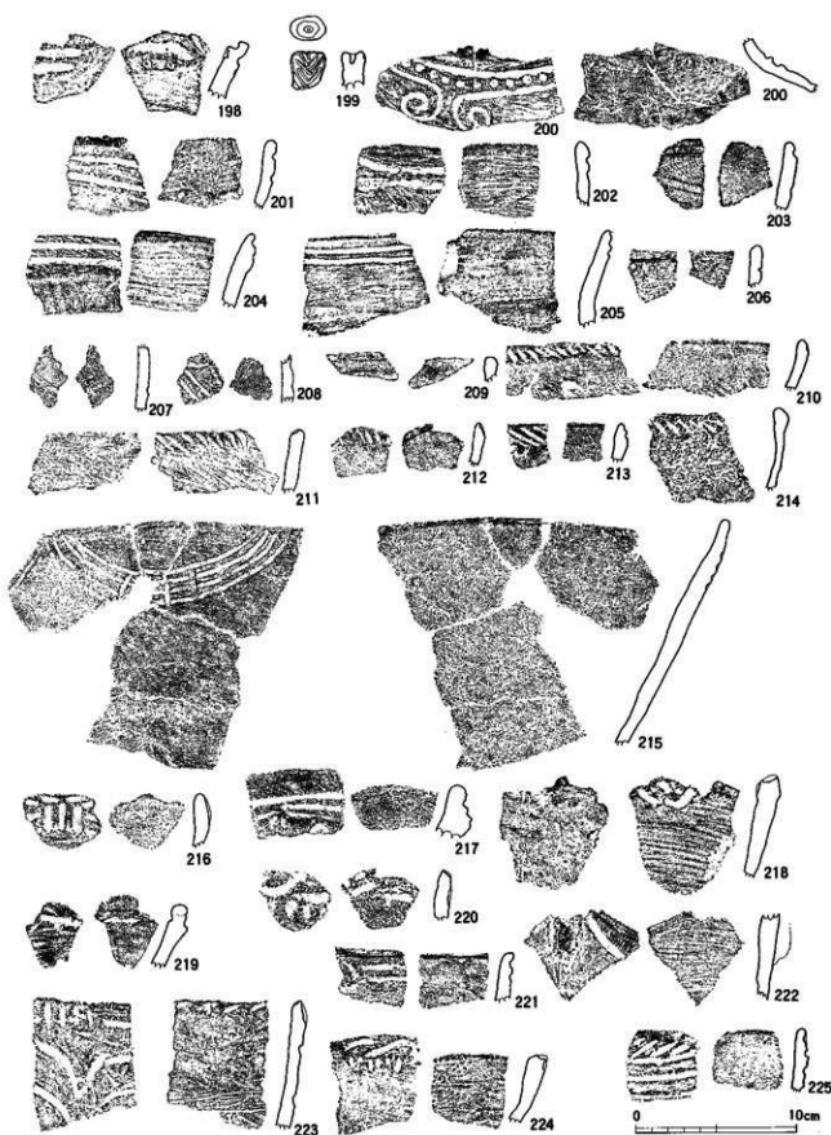
第10図 繩文土器実測図（5）



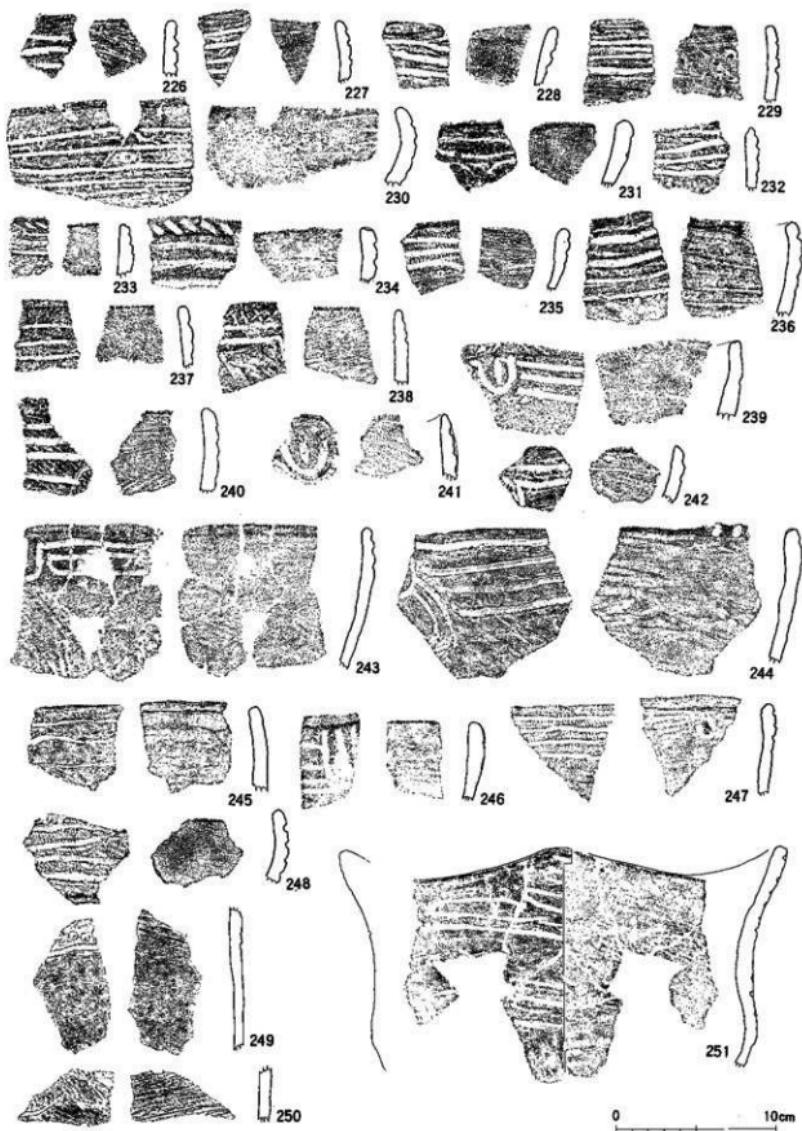
第11図 繩文土器実測図（6）



第12図 繩文土器実測図（7）



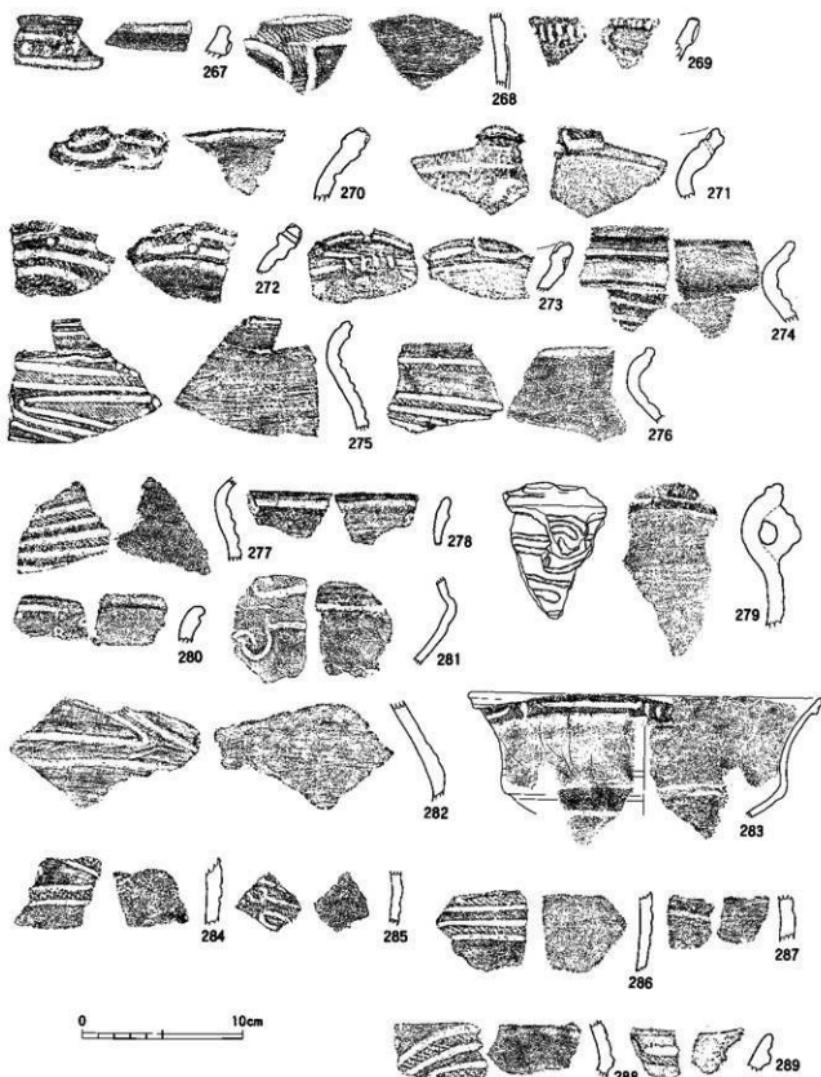
第13図 繩文土器実測図（8）



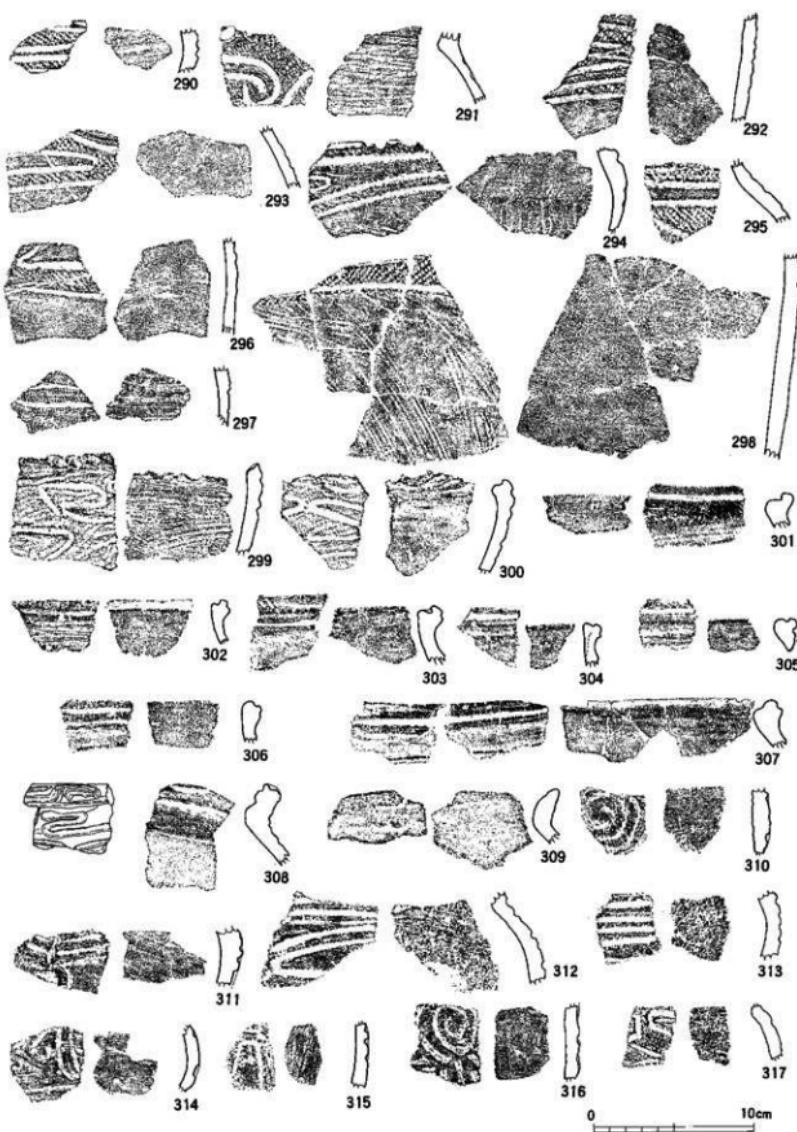
第14図 繩文土器実測図（9）



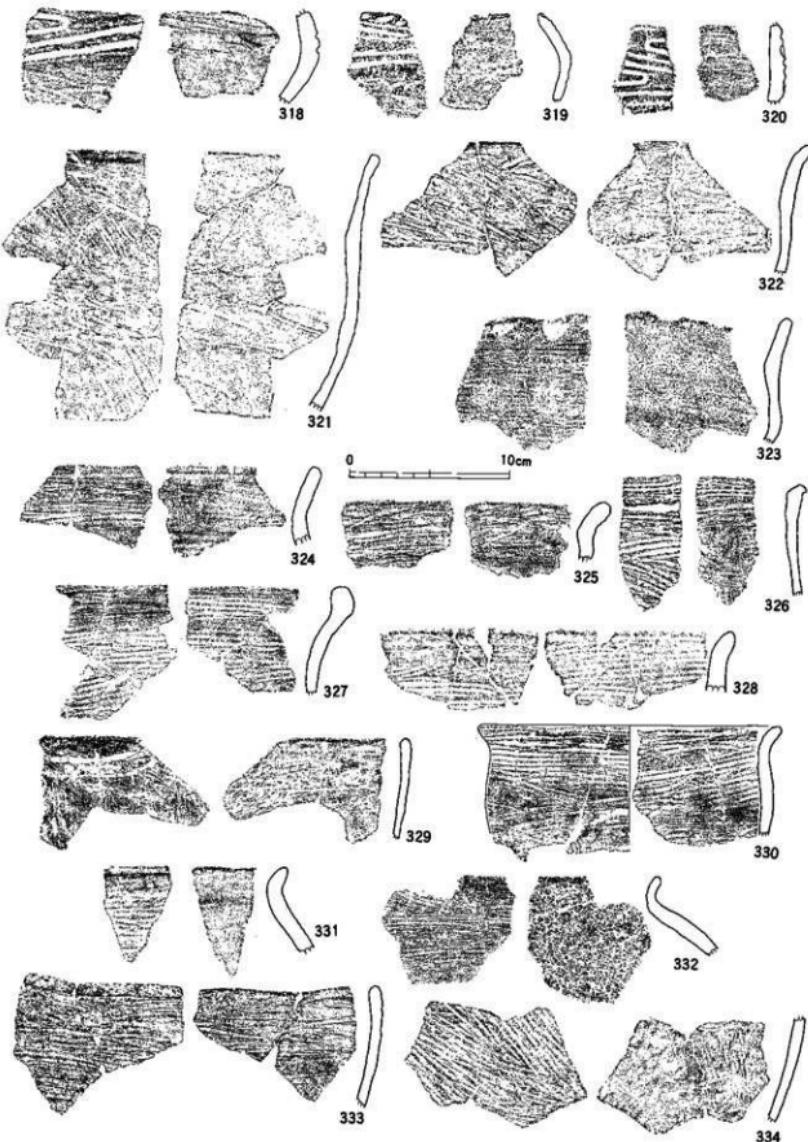
第15図 繩文土器実測図 (10)



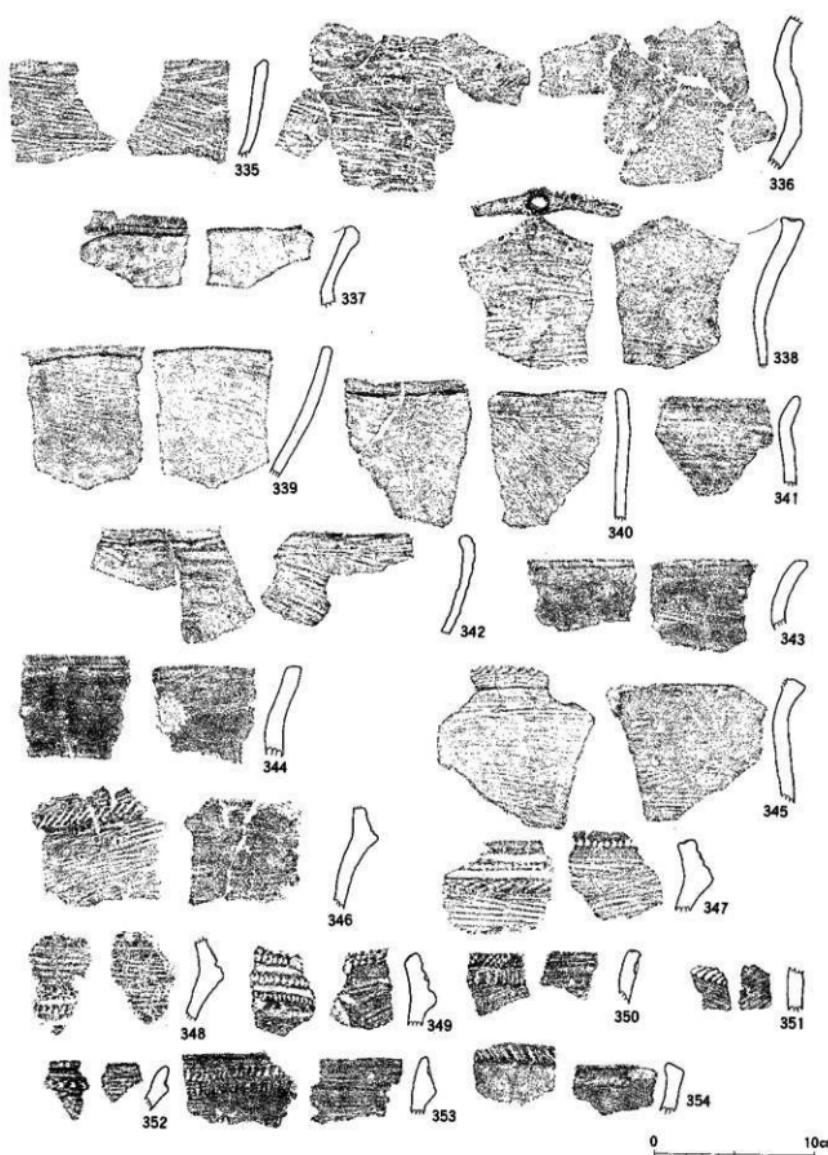
第16図 繩文土器実測図 (11)



第17図 繩文土器実測図 (12)



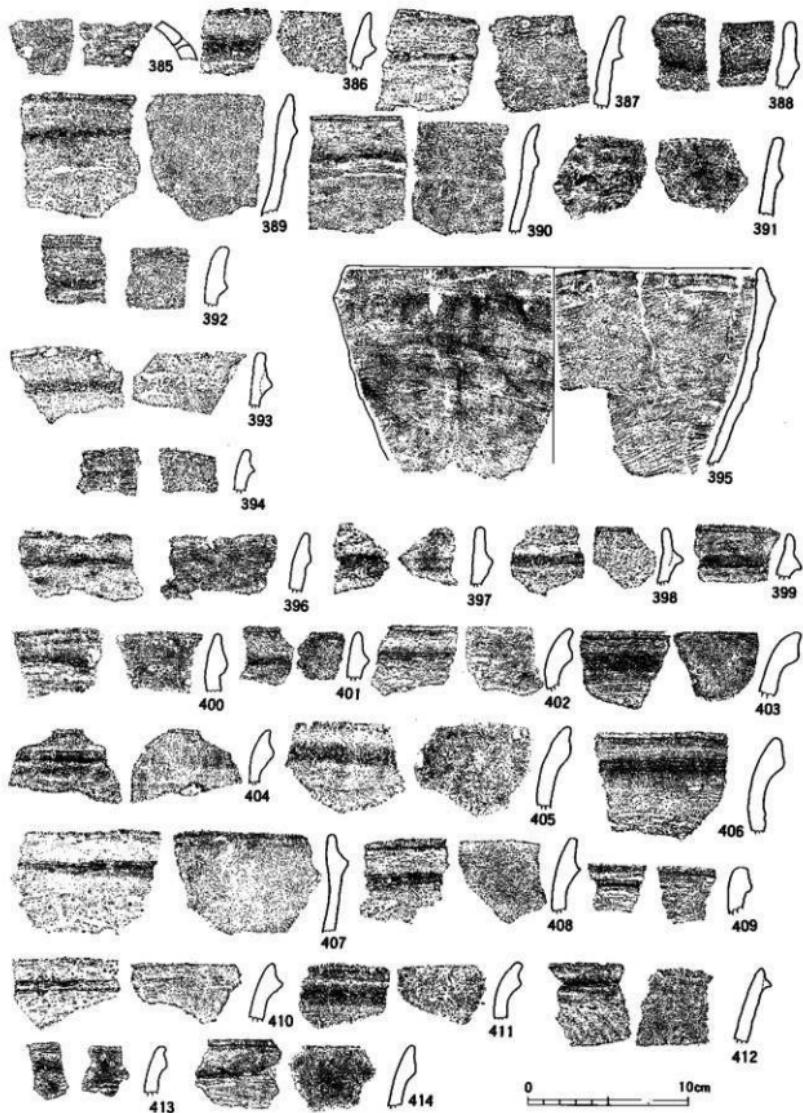
第18図 繩文土器実測図 (13)



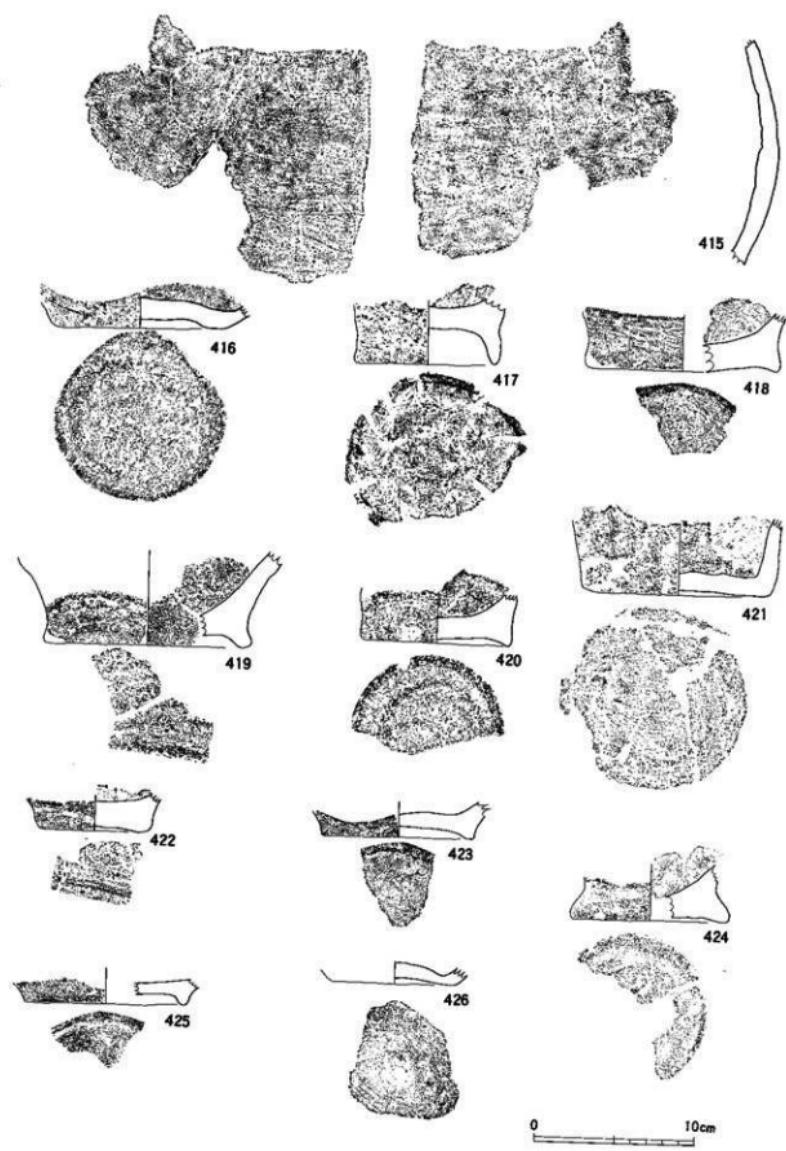
第19図 縄文土器実測図 (14)



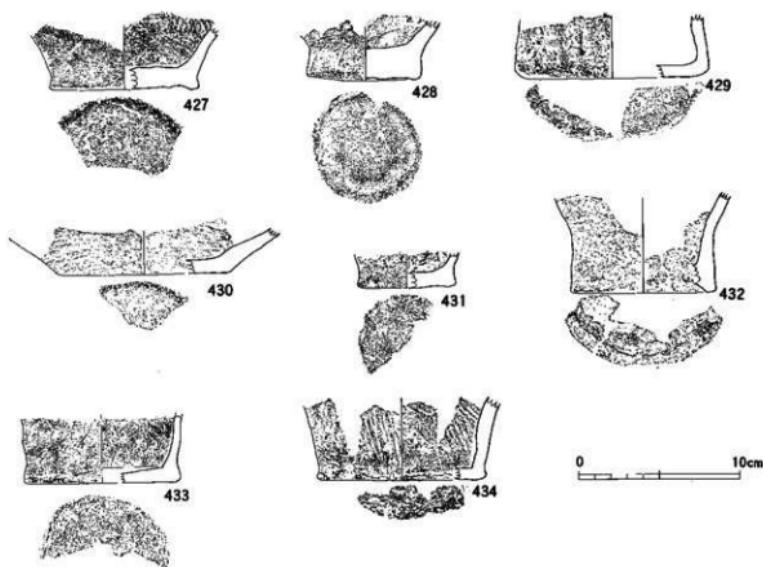
第20図 繩文土器実測図 (15)



第21図 縄文土器実測図 (16)



第22図 繩文土器実測図 (17)



第23図 繩文土器実測図 (18)

(2) 石器

本遺跡では第1次から3次までの調査で石器が約500点出土している。石器の種類は石錐、磨石、敲石、石斧、石皿、凹石、使用痕剥片である。このうち石錐が全体の57%を占める。

(1) 石錐 (第24~26図、第27図…77~90)

出土した石錐は総数285個である。1~76は長軸を両方から打ち欠いた両端打欠石錐で、77~79は切目石錐である。81・83・85・86は三方向に打欠、82・84・88・89は長軸・短軸に打欠がある。80・87は一方だけ打ち欠かれており未製品の可能性もある。90は凹石の転用と思われる。

(2) 磨石 (第27図…91~96、第28図…97~103・105~107)

91~95・97・99・102・103・106は尾鈴山酸性岩で磨石のほとんどを占める。100・105・107は砂岩製である。96・98は尾鈴山酸性岩類の石材と思われる。

(3) 敲石 (第28図…104~108・110~112、第29図…113~115・118)

104・108~111・113・114・118は砂岩、112は尾鈴山酸性岩類製の敲石である。114は石錐の未製品の可能性がある。

(4) 石斧 (第29図…116・117・119・120)

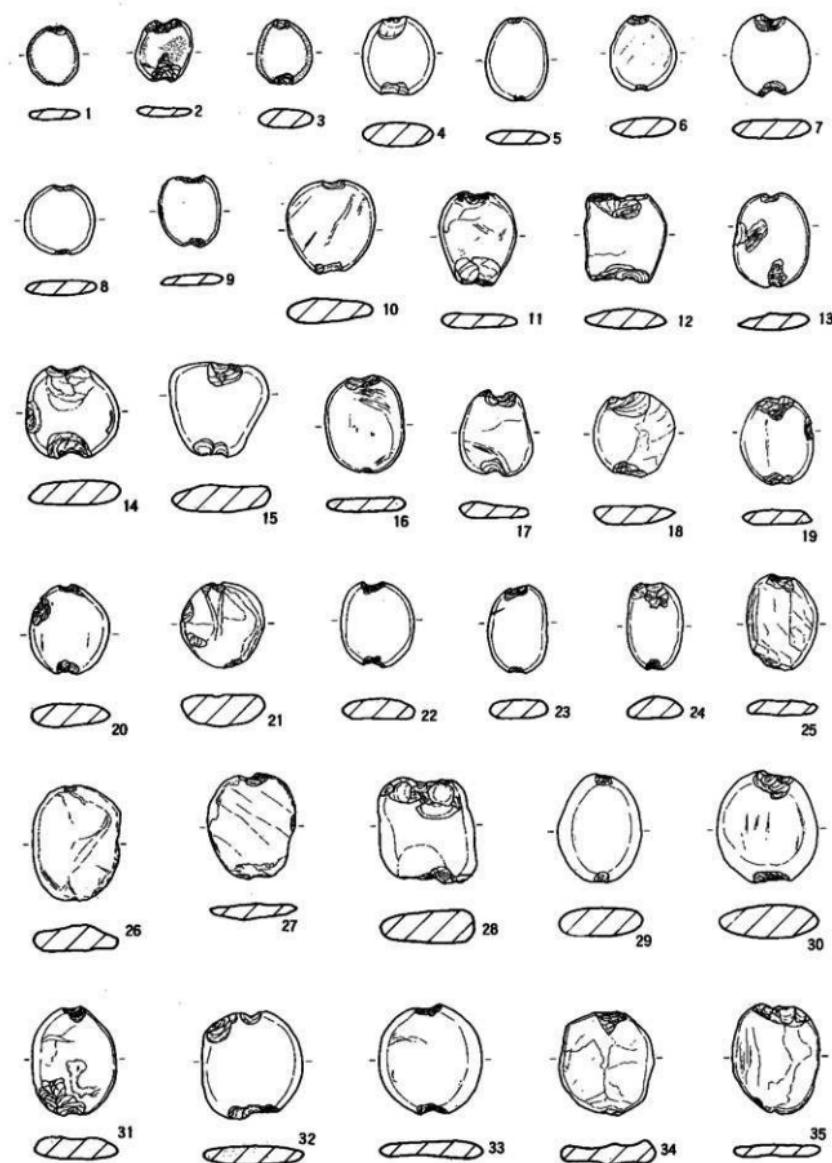
116と117は砂岩の磨製石斧、119は砂岩の石斧であるが表面に擦痕が観察されず、未製品の可能性がある。120は頁岩製の磨製石斧である。

(5) 石皿 (第30図…121・122・123)

121と122は尾鈴山酸性岩類、123は砂岩製の石皿である。

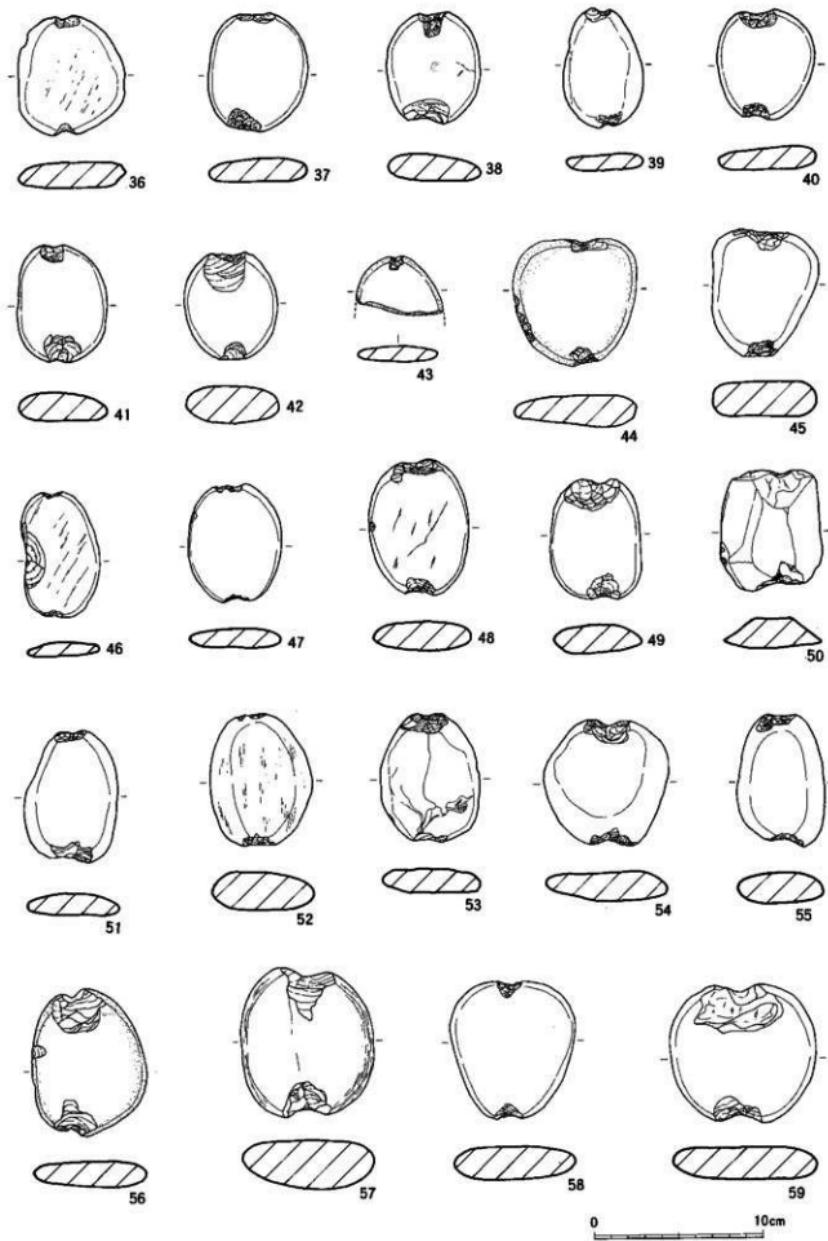
(6) 使用痕剥片 (第30図…124~126)

安山岩の剥片で、124と126は横長剥片、125は縦長剥片である。

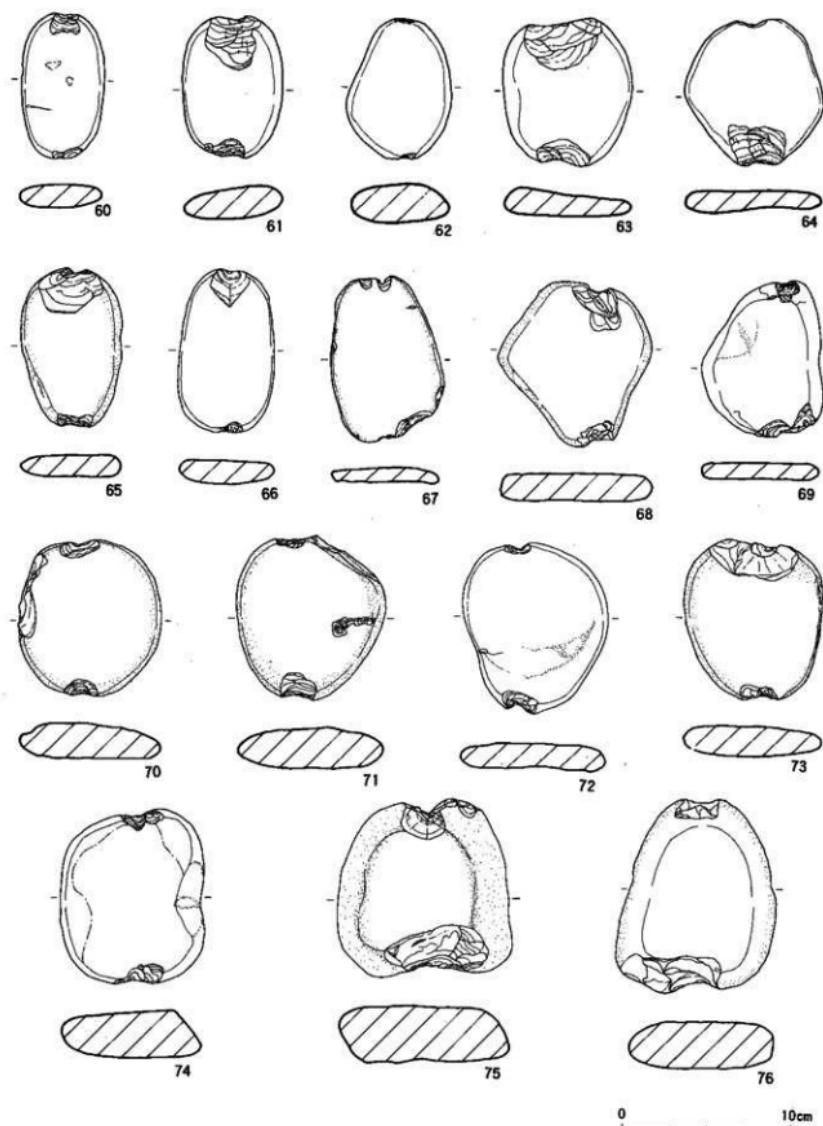


第24図 石器実測図 (1)

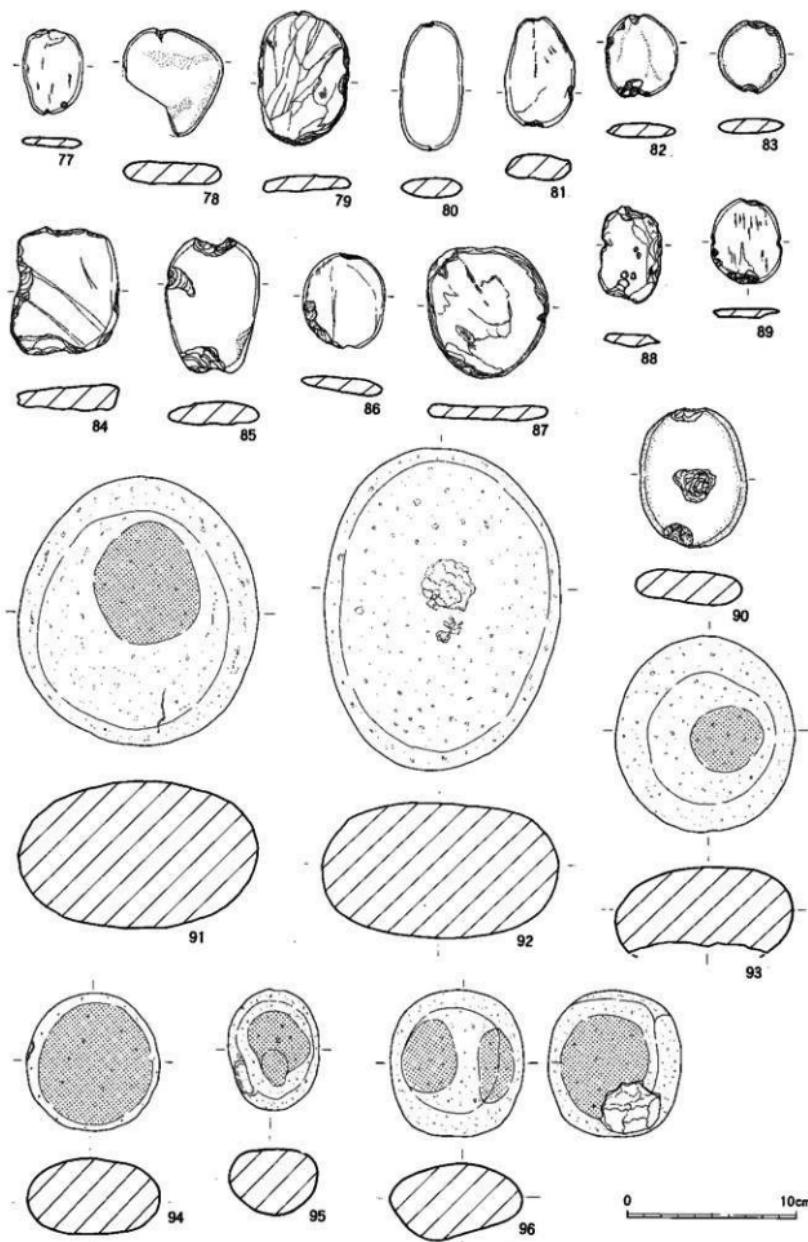
0 10cm



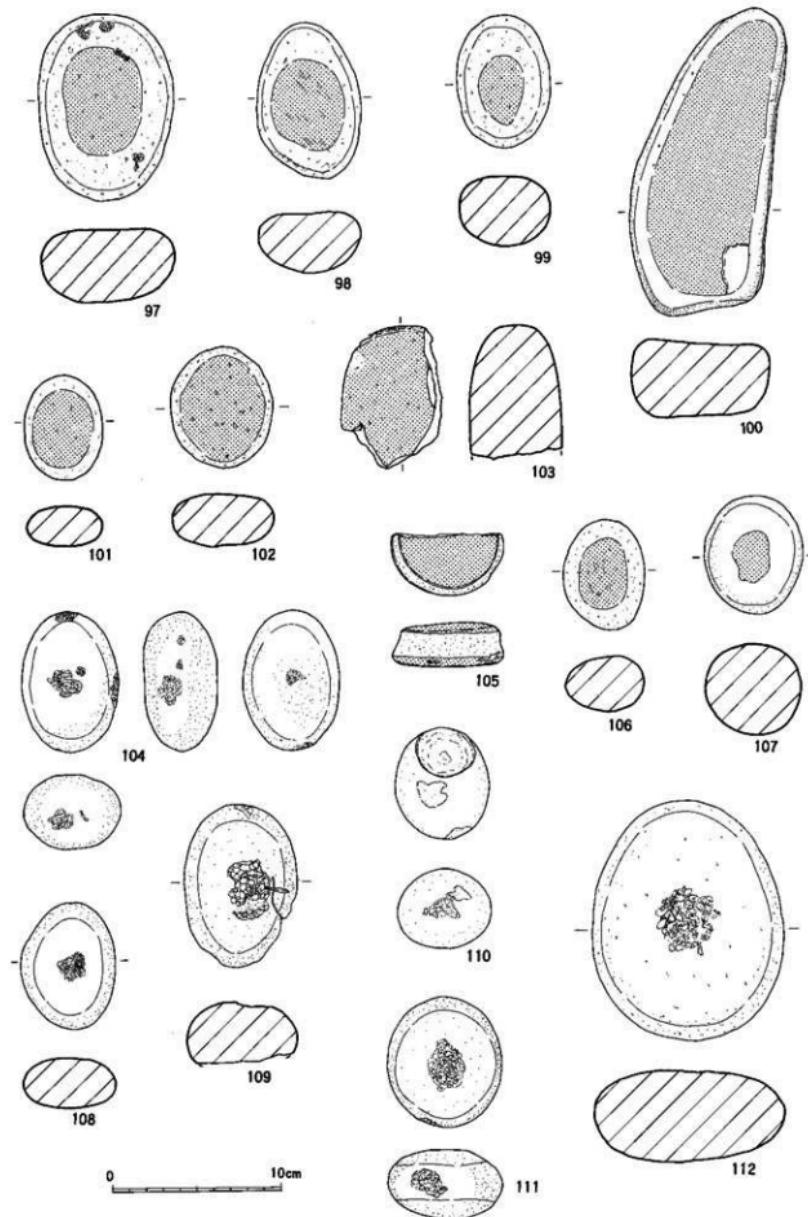
第25図 石器実測図（2）



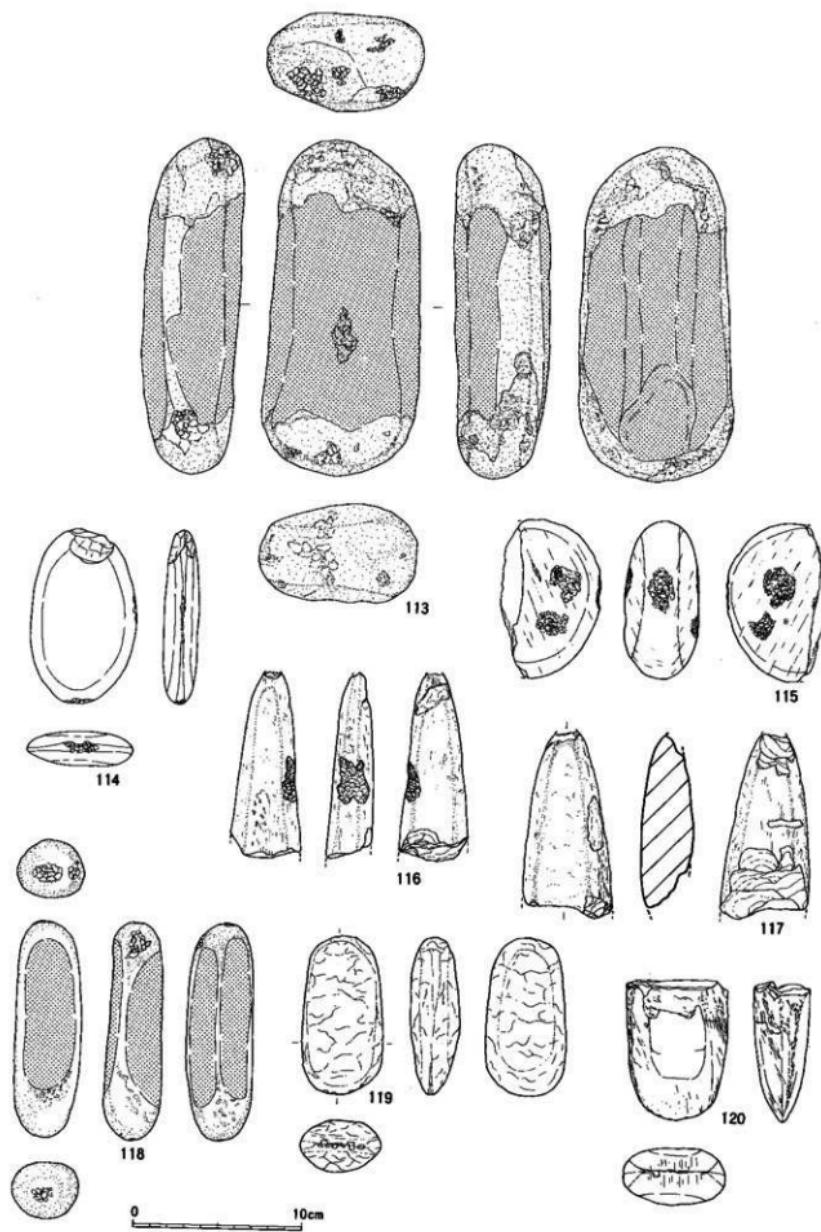
第26図 石器実測図 (3)



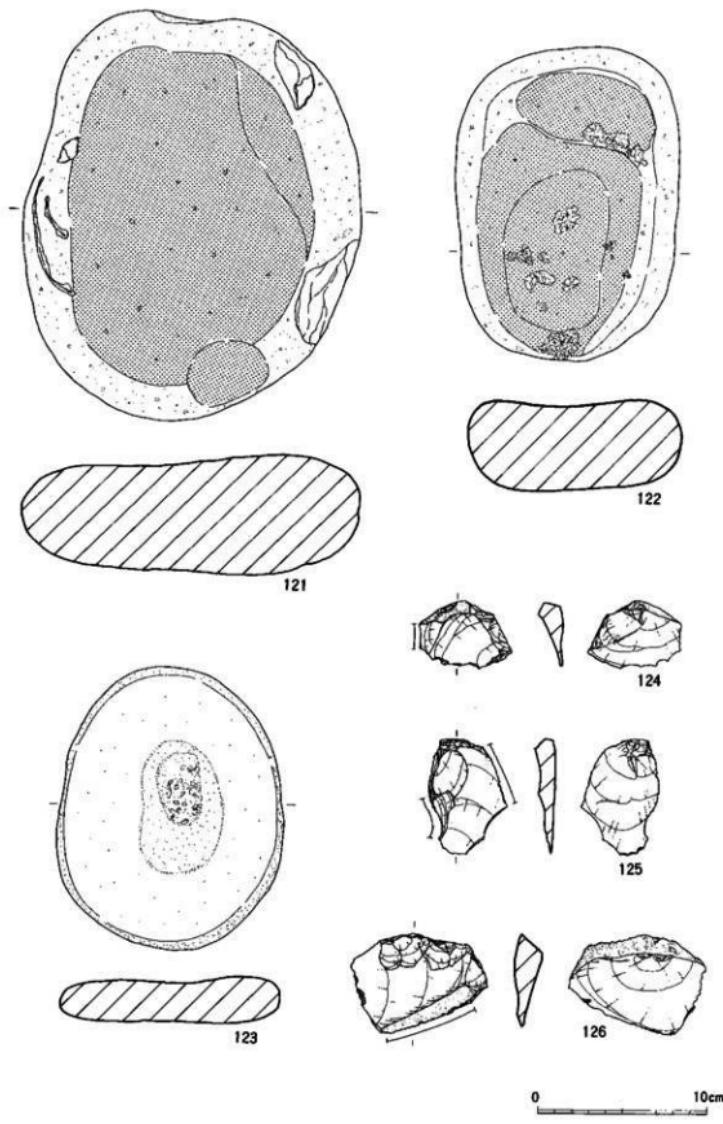
第27図 石器実測図 (4)



第28図 石器実測図(5)



第29図 石器実測図（6）



第30圖 石器實測圖 (7)

表1 縄文土器観察表

図面番号	留標	器部	文 横		調 整		焼成	色 製		備考
			外 面	内 面	外 面	内 面		外 面	内 面	
1	深鉢	口縁	口唇部 押圧刻み目 沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい檻 にぶい檻	檻	外面 粘土のたるみ
2	深鉢	口縁	口唇部 押圧 沈縁		ヨコナデ	条痕の後ナデ	良好	にぶい檻 にぶい檻	檻	
3	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	檻	檻	
4	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		工具ナデ	ナデ	良好	檻	檻	
5	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		ナデ	工具ナデ	良好	檻 にぶい黄檻	檻	波状口縁
6	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		ナデ	ナデ	良好	檻	檻	
7	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		ナデ	ナデ	良好	檻	褐灰	
8	深鉢	割部	沈縁		ナデ	ナデ	良好	檻	檻	
9	深鉢	口縁	口唇部 刻み目 沈縁		ナデ	ナデ	良好	灰褐 檻	にぶい檻	外面 スス付着
10	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ミガキ	良好	にぶい檻	にぶい檻	
11	深鉢	口縁	口唇部 押圧 沈縁		ナデ	ナデ	良好	檻	檻	
12	深鉢	口縁	口唇部 押圧 沈縁		ナデ	指印痕	良好	檻 黄檻	檻	
13	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄檻	檻	
14	深鉢	口縁	口唇部 押圧刻み目 沈縁		ナデ	ナデ	良好	檻 にぶい檻	檻	
15	深鉢	口縁	口唇部 刻み目 沈縁		ナデ	ナデ	良好	檻 にぶい黄檻	檻	
16	深鉢	口縁	押圧正 沈縁		ナデ	工具抜	良好	にぶい黄檻	にぶい黄檻	
17	深鉢	口縁	沈縁 指印		ナデ	ナデ	良好	にぶい檻	にぶい檻	外面 スス付着
18	深鉢	胴部	沈縁 すり消し擬似縄文		ナデ	工具ナデ	良好	檻	檻	
19	深鉢	口縁	沈縁 沈縁		ナデ消し	ナデ	良好	にぶい檻	にぶい檻	
20	深鉢	口縁	沈縁 指印縄文(巻貝)			ナデ	良好	にぶい檻	にぶい檻	
21	深鉢	口縁	貝殻連續刻突文 工具抜		ナデ 工具抜	ナデ	良好	檻	にぶい檻	
22	深鉢	口縁	口唇部 押圧刻み目 沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい檻	にぶい檻	
23	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐	明褐	
24	深鉢	口縁	押圧刻み目 沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐	にぶい赤褐	
25	深鉢	口縁	沈縁		工具ナデ	ナデ	良好	檻	にぶい檻	波状口縁
26	深鉢	口縁	口唇部 押圧文 沈縁		ナデ	貝殻条痕の後 ナデ	良好	檻 灰褐	檻	
27	深鉢	口縁	口唇部 押圧刻み目 沈縁		工具ナデ	ナデ	良好	檻 にぶい赤褐	檻	
28	深鉢	口縁	口唇部 刻み目 貝殻文 沈縁		貝殻条痕	ナデ	良好	檻 にぶい檻	檻	
29	深鉢	口縁	口唇部 沈縁 押圧正 沈縁 指印縄文		ナデ消し	ナデ	良好	にぶい檻	にぶい檻	
30	深鉢	口縁	沈縁		ナデ 工具ナデ	ナデ	良好	にぶい檻 浅黄檻	檻	
31	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	檻	檻	
32	深鉢	口縁	竹皮文 沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄檻	にぶい黄檻	
33	深鉢	口縁	口唇部 刻み目 沈縁		ナデ	ナデ	良好	檻	檻	
34	深鉢	口縁	口唇部 刻み目 沈縁 刻突文		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄檻	にぶい檻	
35	深鉢	胴部	沈縁 刻突文		ナデ	ナデ	良好	にぶい檻	にぶい檻	
36	深鉢	口縁	口唇部 キザミ 沈縁		貝殻条痕の後 ナデ	良好	にぶい檻	にぶい赤褐	にぶい檻 にぶい檻	
37	深鉢	口縁	沈縁		貝殻条痕 ナデ	良好	にぶい檻	にぶい檻	内面 炭化物付着	
38	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	貝殻条痕	良好	灰褐 明黄褐	灰黄褐	
39	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	貝殻条痕	良好	明黄褐 にぶい黄檻	灰黄褐	
40	深鉢	口縁	沈縁		貝殻条痕ナデ	ナデ	良好	にぶい檻	にぶい檻	

表2 繩文土器観察表

面番号	器種	器形	文様		調査		焼成	色調		備考		
			外面		内面			外面				
			外面	内面	外面	内面		外面	内面			
41	深鉢	刷毛	縄文 花瓶			ナデ	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色			
42	深鉢	口縁	沈線 押正文		ナデ	貝殻条痕 ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい橙			
43	深鉢	口縁	沈線 擬似縄文			ヨコナデ 貝殻条痕	良好	にぶい黄褐色	にぶい褐色			
44	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	橙	波状口縁		
45	深鉢	口縁	摩利縄文 沈線		ナデ	風化著しい	良好	にぶい褐色	橙	外面 スス付着		
46	深鉢	口縁	口唇部 沈綴文 連続縦文 実綴文		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	灰褐色			
47	深鉢	口縁	刻み目		ナデ	ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい黄褐色	外面 スス付着		
48	深鉢	口縁	口唇部 円正丸み目 横縞 連続縦の横紋		貝殻条痕 ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	波状口縁		
49	深鉢	口縁	口唇部 押正文		ナデ	貝殻条痕ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい橙	外面 スス付着		
50	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		ナデ 工具ナデ	ナデ	良好	灰褐色	橙			
51	深鉢	口縁	口唇部 刺突文		貝殻条痕	貝殻条痕の後ナデ	良好	明赤褐色				
52	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		工具ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい黄褐色			
53	深鉢	口縁	口唇部 工口による押正文 沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色			
54	深鉢	刷毛	沈線 前縫縦似縄文		ナデ	ナデ	良好	灰褐色	にぶい褐色			
55	鉢形 土器	口縁	～解説		ナデ	風化著しい	良好	にぶい橙	明赤褐色			
56	鉢形 土器	口縁	～解説		ナデ	ヘラミガキ	良好	橙	にぶい橙			
57	鉢形 土器	口縁	沈線		ヘラミガキ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色			
58	深鉢	口縁	沈線		ミガキ	工具ナデ	良好	にぶい褐色	灰褐色			
59	深鉢	口縁	沈線		ミガキ	ミガキ	良好	にぶい黄褐色	にぶい橙			
60	深鉢	刷毛	擬似縄文(巻き貝)			ヘラミガキ	良好	にぶい橙	にぶい褐色			
61	深鉢	刷毛	擬似縄文(巻き貝)		ヘラミガキ	ナデ 指揮痕	良好	にぶい赤褐色	橙			
62	深鉢	口縁	擬似縄文(巻き貝)	沈縄文 擬似縄文(巻き貝)		ヘラミガキ	ナデ ヘラミガキ	良好	にぶい褐色	明赤褐色		
63	深鉢	口縁	口唇部 押正文		ナデ	ヨコナデ	良好	にぶい褐色	橙			
64	深鉢	口縁			工具ナデ 押引目	ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい橙			
65	深鉢	口縁	口唇部 沈縄文 縄文		ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐色	橙			
66	深鉢	口縁		沈縄文	風化著しい	ナデ	良好	橙	にぶい橙			
67	深鉢	口縁	口唇部 沈縄文		ナデ	ミガキ	良好	にぶい赤褐色	にぶい褐色	彦崎 K I		
68	深鉢	口縁	沈縄文		ナデ 条痕	ナデ	良好	にぶい赤褐色	にぶい橙			
69	深鉢	口縁	沈縄文	沈縄文	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	橙			
70	深鉢	口縁	沈縄文		ナデ	工具ナデ	良好	橙	にぶい橙			
71	深鉢	口縁	条痕の後沈縄文	条痕	ナデ		良好	橙	橙			
72	深鉢	口縁	沈縄文		ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい橙	外面 スス付着		
73	深鉢	口縁	沈縄文		ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐色	灰褐色			
74	深鉢	口縁	沈縄文		ナデ	貝殻条痕	良好	橙	にぶい橙			
75	深鉢	口縁	沈縄文		ナデ	ナデ	良好	にぶい褐色	褐色			
76	深鉢	口縁	沈縄文		ナデ 工具痕	工具ナデ	良好	にぶい褐色	橙			
77	深鉢	口縁	沈縄文		ナデ	ナデ	良好	にぶい褐色	淡赤褐色			
78	深鉢	口縁	沈縄文		ナデ	ナデ	良好	明褐色	橙	暗状突起		
79	深鉢	口縁	沈縄文		ナデ	ナデ	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	外面 スス付着		

表3 繩文土器観察表

回面 番号	器種	器部	文 樣		調 整		焼成	色 調		備 考
			外 面	内 面	外 面	内 面		外 面	内 面	
81	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	工具痕 ヘラ押え	良好	橙	にぶい橙	
82	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	褐灰	にぶい黄褐色	
83	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい褐	
84	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	工具ナデ	良好	赤褐色	明暗褐	
85	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	工具ナデ	良好	赤橙	にぶい橙	
86	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ 朱灰	良好	にぶい赤褐色 褐灰	褐灰	
87	深鉢	口縁	キャリバー状沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
88	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
89	深鉢	口縁	瘤状突起		ナデ	ナデ	良好	橙	反黄褐色	
90	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	工具ナデ	良好	にぶい橙 褐灰	にぶい褐	
91	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	工具ナデ	良好	橙	にぶい橙	
92	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	貝殻条痕	良好	にぶい赤褐色	明赤褐色	
93	深鉢	口縁	沈縁		ナデ 朱灰	ナデ	良好	明黄褐色	暗灰黄	波状口縁 口唇部黒変
94	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ 朱灰	良好	明褐色	にぶい褐	
95	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄褐色	
96	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	橙	
97	深鉢	口縁	沈縁		ナデ 工具ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
98	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	波状口縁	
99	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	橙	外表面ス付着	
100	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄	にぶい黄	
101	深鉢	口縁 肩部	沈縁		工具ナデ 指痕痕	貝殻条痕	良好	橙 淡黄褐色	にぶい黄褐色	外表面ス付着
102	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	工具ナデ	良好	にぶい黄褐色	波状口縁	
103	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	外表面ス付着	
104	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	褐 褐灰	橙	
105	深鉢	口縁	瘤状突起		ナデ	ナデ	良好	橙	瘤状突起	
106	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	工具ナデ	良好	にぶい橙	黄褐色	
107	深鉢	口縁			ナデ 朱灰	ヨコナデ	良好	橙 褐灰	暗灰 暗褐色	外表面ス付着 内表面炭化物付着
108	深鉢	口縁	貝殻条痕(複数)の後工 具による削突		ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
109	深鉢	口縁	口唇部 刺文文		貝殻条痕 ナデ	貝殻条痕 ナデ	良好	にぶい黄褐色 黄褐色	にぶい黄褐色	
110	深鉢	口縁			工具ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
111	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	工具ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
112	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	工具ナデ	良好	橙	波状口縁	
113	深鉢	口縁	沈縁		工具ナデ	工具ナデ	良好	明暗褐色	にぶい赤褐色	外表面ス付着
114	深鉢	口縁	沈縁		工具ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐色	にぶい橙	
115	深鉢	口縁	沈縁		ナデ 朱灰	ナデ	良好	にぶい褐 褐灰	にぶい橙	
116	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	工具ナデ	良好	橙	褐灰	
117	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	良好	橙	反褐	
118	深鉢	口縁	沈縁		ナデ 貝殻条痕	貝殻条痕	良好	灰黄褐色	赤褐色	
119	深鉢	口縁	沈縁		ナデ 朱灰	ナデ 朱灰	良好	橙 灰褐色	にぶい橙 灰褐色	
120	深鉢	口縁	沈縁		ナデ 工具ナデ	工具ナデ	良好	粒	橙	瘤状突起

表4 繩文土器観察表

表4

図面番号	器種	文 横		調 变		焼成	色 調		備考
		外 面	内 面	外 面	内 面		外 面	内 面	
121	深鉢	口縁	沈線	工具ナデ ナデ	工具ナデ	良好	橙 褐灰	明赤褐色 にぶい赤褐色	
122	深鉢	口縁	沈線	ナデ	工具条痕	良好	橙 褐灰	明赤褐色	
123	深鉢	口縁	沈線	ナデ	ナデ	良好	橙 褐灰	橙	
124	深鉢	口縁	沈線	工具ナデ	工具ナデ	良好	橙 褐灰	橙 にぶい赤褐色	外面スス付着
125	深鉢	口縁	沈線	ナデ	ナデ	良好	淡赤橙	淡赤橙	
126	深鉢	口縁	沈線	ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
127	深鉢	口縁	沈線	ナデ	工具ナデ	良好	にぶい黄橙 褐灰		
128	深鉢	口縁		ナデ	工具ナデ	良好	にぶい黄 褐灰	にぶい黄 褐灰	
129	深鉢	口縁	沈線	工具ナデ	工具ナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙 外面スス付着	
130	深鉢	口縁	沈線	ナデ	条痕の上をナデ	良好	にぶい橙 にぶい黄橙		
131	深鉢	口縁	沈線	工具ナデ	工具ナデ	良好	橙 にぶい赤褐色	橙	
132	深鉢	口縁	沈線	工具ナデ	工具ナデ	良好	にぶい橙 褐灰	にぶい赤褐色 褐灰	
133	深鉢	口縁	沈線	ナデ	ナデ	良好	淡赤橙	橙	
134	深鉢	口縁	沈線	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 にぶい黄		
135	深鉢	口縁	沈線	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 にぶい黄		
136	深鉢	口縁	沈線	工具底 ナデ	工具底 ナデ	良好	暗灰黄	にぶい黄褐色	
137	深鉢	口縁	沈線	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 にぶい黄橙		
138	深鉢	口縁	沈線	ナデ	条痕	良好	橙 にぶい橙		
139	深鉢	口唇部 刺突		鄭状痕	ナデ	良好	にぶい橙 褐灰 灰黄褐色		
140	深鉢	口唇部 刺み目		条痕	条痕	良好	橙	橙	
141	深鉢	口縁	沈線	ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
142	深鉢	肩部	沈線	ナデ	工具ナデ	良好	橙 淡黄橙 橙、黒褐色		
143	深鉢	肩部	沈線	ナデ	条痕 ナデ	良好	橙	橙	
144	深鉢	肩部	沈線	ナデ	工具痕	良好	にぶい赤褐色 にぶい橙		
145	鉢	肩部	沈線	条痕	工具ナデ	良好	橙 にぶい橙		
146	深鉢	肩部	沈線	工具ナデ	工具ナデ	良好	橙 褐灰 橙		
147	深鉢	肩部	沈線	条痕	条痕 ナデ	良好	にぶい橙 にぶい橙		
148	深鉢	肩部	沈線	条痕	条痕	良好	にぶい橙 褐灰 橙		
149	深鉢	肩部	沈線	工具底 ナデ	条痕	良好	明赤褐色 赤灰		
150	深鉢	肩部		工具条痕 ナデ	工具ナデ	良好	にぶい橙 橙 褐灰		
151	深鉢	肩部	沈線	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 暗灰黄		
152	深鉢	肩部	沈線	条痕	条痕	良好	にぶい赤褐色 灰黄褐色		
153	深鉢	肩部	沈線	ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
154	深鉢	肩部	沈線	工具ナデ ナデ	条痕 ナデ	良好	にぶい黄橙 橙	外面スス付着	
155	深鉢	肩部		工具ナデ	工具痕 ナデ	良好	橙 灰黄褐色		
156	深鉢	口縁	沈線 斜削 纏文	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良好	灰褐色 褐灰		
157	深鉢	口縁	沈線 斜削纏文	風化気味	ナデ	良好	にぶい黄橙 にぶい黄橙		
158	深鉢	口縁	口唇部 (鑿型 沈線 織文)	ナデ	ミガキ	良好	明赤褐色 黒褐色	暗赤褐色 黒褐色	福田K II
159	深鉢	口縁	口唇部 刺み目	条痕の上をナデ	ナデ	良好	橙 にぶい黄橙	にぶい橙	
160	深鉢	口縁	口唇部 刺み目	工具条痕	ナデ	良好	橙 橙		

表5 繩文土器観察表

回面 番号	器種	器部	文 様		調 整		燒成	色 調		備 考	
			外 面	内 面	外 面	内 面		外 面	内 面		
161	深鉢	口縁	口唇部 壁压 磨擦繩文 凹線文				貝殻条痕	良好	にぶい赤褐	にぶい褐	口唇部 黒変 網目KII
162	深鉢	口縁	口唇部 壁压 磨擦繩文 刻み目		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
163	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		工具ナデ	工具ナデ	工具ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄褐	波状口縁 穿孔
164	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		工具ナデ ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 淡黄	にぶい橙	波状口縁
165	深鉢	口縁	口唇部 刻み目 波狀		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐 暗赤褐	橙	
166	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		ナデ	ナデ	ナデ	良好	褐灰	橙	
167	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		ナデ	ナデ	ナデ	良好	褐灰	にぶい赤褐 暗赤褐	
168	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		条痕	条痕	条痕	良好	にぶい褐	褐灰	内底黒変
169	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	黄褐	
170	深鉢	口縁	口唇部 刻み目	凹線	工具ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	にぶい黄褐	外面黒変
171	深鉢	口縁	口唇部 押圧		ナデ	ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
172	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
173	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		ナデ	ナデ	ナデ	良好	灰褐	にぶい黄褐	波状口縁 外曲スス付着
174	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		ナデ	ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
175	深鉢	口縁	口唇部 押圧刻み 沈縁		貝殻条痕の後ナデ	貝殻条痕の後ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	灰褐	
176	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		工具ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい褐	波状口縁
177	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		ナデ	ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい黄褐	
178	深鉢	口縫 ~脣部			ナデ 工具の組いミガキ	ナデ	ナデ	良好	明黄褐 褐	橙	波状口縁
179	深鉢	口縁	口唇部 押江刺み	貝殻条痕文	工具ナデ	ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい黄褐	
180	深鉢	口縁	沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	波状口縁 外面 黒変
181	深鉢	口縫	沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄	黑褐	
182	深鉢	口縫	沈縁		ナデ	ナデ	貝殻条痕	良好	にぶい褐	にぶい橙	
183	深鉢	口縫	沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	にぶい黄褐	波状口縁 外曲スス付着
184	深鉢	肩部	沈縁 刺突文		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	褐灰	
185	深鉢	肩部	沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	灰黃褐	
186	深鉢	肩部	沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	褐灰	
187	深鉢	口縫			ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
188	深鉢	口縫	口唇部連続刺突文 沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	灰黃褐	灰褐	
189	深鉢	口縫	沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい褐	灰褐	貼付突起
190	深鉢	口縫	口唇部刺突沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい黄褐	
191	深鉢	口縫	口唇部 沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
192	深鉢	肩部	沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
193	深鉢	口縫	斜め方向の沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
194	深鉢	口縫	沈縁		凹線による押江 工具ナデ	ナデ	ナデ	良好	明赤褐	明赤褐	
195	深鉢	口縫	沈縁 押江		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい褐	波状口縁
196	深鉢	口縫	沈縁 振擬開文	沈縁	ナデ	ナデ	ナデ	良好	明赤褐	灰褐	波状口縁
197	深鉢	口縫	口唇部刻み 連続刺突文		貝殻条痕	貝殻条痕	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
198	深鉢	口縫	沈縁		ナデ	ナデ	ナデ	良好	にぶい褐	にぶい褐	
199	深鉢	口縫	口唇部刻文定	沈縁	ナデ	ナデ	ナデ	良好	明黄褐	にぶい橙	波状口縁の波頂部の先端部
200	鉢形 土器	肩部	沈縁 振擬開文 連続刺突文		ナデ	ナデ	ナデ	良好	赤褐	橙	

表6 繩文土器觀察表

函番 番号	器種	器部	文様		調整		色調		備考
			外面	内面	外面	内面	焼成	外面	
201	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙	橙
202	深鉢	口縁	沈線		ナデ	工具ナデ	良好	にぶい赤褐	にぶい赤褐
203	深鉢	口縁	彦根形擬文 沈線 貝貝による擬似繩文		ナデ	ナデ	良好	明赤褐	明赤褐
204	深鉢	口縁	擬似繩文 沈線		ナデ	貝殻条痕	良好	明赤褐	明赤褐
205	深鉢	口縁	沈線		ナデ	朱絵の後ナデ	良好	橙	にぶい黄橙
206	深鉢	口縁	彦根 擬似繩文(巻貝)		ナデ	ナデ	良好	にぶい褐	にぶい橙
207	深鉢	肩部	彦根 擬似繩文(巻貝) 沈線		ナデ	ナデ	良好	明赤褐	にぶい褐
208	深鉢	肩部	彦根 擬似繩文 沈線			ナデ	良好	橙	にぶい褐
209	深鉢	口縁	押引き		工具ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい褐
210	深鉢	口縁	工具による彫跡突文		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 灰黃褐	にぶい黄褐
211	深鉢	口縁	連続刺突文 押庄		工具ナデ	工具ナデ	良好	にぶい赤褐	橙
212	深鉢	口縁	連続刺突文		ナデ	貝殻条痕の後ナデ	良好	にぶい褐	にぶい褐
213	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	橙	橙
214	深鉢	口縁	口唇部 刻み目		風化者しい 粗面窓	ミガキ 粗面窓	良好	橙	橙
215	深鉢	口縁	~削削	沈線	ナデ	工具痕	ナデ	にぶい橙	にぶい橙
216	深鉢	口縁	口唇部 押庄	彦根形目	貝殻条痕の後ナデ	ナデ	良好	灰褐 にぶい黄褐	にぶい黄褐
217	深鉢	口縁	沈線		貝殻条痕の後ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	にぶい黄褐
218	深鉢	口縁	口唇部 押庄	沈線	ナデ	貝殻条痕	良好	にぶい黄褐	明黄褐 橙
219	深鉢	口縁	沈線	沈線	貝殻条痕 ナデ	貝殻条痕の後ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙 外周ス付省
220	深鉢	口縁	口唇部 沈線	沈線	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄褐
221	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄褐
222	深鉢	肩部			ヨコ	ヨコ	良好	にぶい赤褐 灰褐	にぶい赤褐 山形口縁 貼付窓
223	深鉢	口縁	口唇部 押庄 彦根形目	沈線 連続刺突文	ナデ	ヨコナデ ヘラミガキ	良好	橙 にぶい橙	にぶい橙 にぶい赤褐
224	深鉢	口縁	口唇部 刻み目	彦根形目	貝殻条痕の後ナデ	ナデ	良好	灰褐	にぶい橙
225	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 にぶい褐	にぶい赤褐
226	深鉢	口縁	彦根形 擬似繩文		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙
227	深鉢	口縁	彦根形 擬似繩文			ナデ	良好	にぶい赤褐	橙
228	深鉢	口縁	彦根形 擬似繩文		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	波状口縁
229	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	橙	橙
230	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	橙	橙
231	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙
232	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙
233	深鉢	口縁	口唇部 押庄刻み目 沈線		ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい橙
234	深鉢	口縁	口唇部 刻み目 彦根形 擬似繩文	沈線	ナデ 工具痕	ナデ 工具痕	良好	にぶい橙	橙
235	深鉢	口縁	口唇部 貝殻条痕 彦根形 擬似繩文			ナデ	良好	橙	にぶい橙
236	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい赤褐 灰褐
237	深鉢	口縁	彦根 彦根形 擬似繩文			ナデ	良好	橙	橙
238	深鉢	口縁	沈線		ナデ ヘラミガキ	ナデ	良好	明黄褐	橙
239	深鉢	口縁	口唇部 押庄 沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙 波状口縁
240	深鉢	口縁	沈線		朱絵	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄橙

表7 繩文土器観察表

図面番号	器種	器部	文様		調査		焼成	色調		備考
			外面	内面	外面	内面		外面	内面	
241	深鉢	口縁	刺突文 沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 灰黄褐		
242	深鉢	口縁	沈線 押引		ナデ	貝殻条痕	良好	橙	橙	
243	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
244	深鉢	口縁	沈線		ナデ	工具ナデ	良好	にぶい赤褐	にぶい橙	
245	深鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐	にぶい赤褐	
246	深鉢	口縁	沈線		ナデ	貝殻条痕	良好	橙	灰褐	内面 壁化物付着
247	深鉢	口縁	擬似透溝文 沈線		ナデ	貝殻条痕ナデ ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄褐	
248	深鉢	口縁	擬似透溝文(巻き貝) 沈線		ナデ	ナデ	良好	黒褐	褐	
249	深鉢	側部	沈線 竹縄文			ミガキ	ミガキ	褐 にぶい黄褐	黒褐 灰黄褐	
250	深鉢	側部	刺突文 沈線		ナデ	条痕の上をナデ	良好	灰黄褐	にぶい橙	
251	深鉢	口縁	~側部	沈線	ナデ	ナデ	良好	橙	橙	波状口縁
252	深鉢	口縁	沈線 連続押引		貝殻条痕の後ナデ ナデ	貝殻条痕の後ナデ	良好	にぶい赤褐	にぶい赤褐	
253	深鉢	口縁	押引きざみ		ナデ	工具ナデ ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
254	深鉢	口縁			ナデ 条痕	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄 灰	
255	深鉢	口縁	押伝		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	褐	
256	深鉢	脇部	押引き		ヘラミガキ	ヘラミガキ	良好	にぶい黄褐 にぶい橙	にぶい橙 褐	
257	深鉢	口縁部	刺み目 押引き	貝殻による押伝文 (巻貝)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良好	橙	橙	
258	深鉢	口縁			ナデ 条痕	ナデ	良好	明褐色	橙	
259	深鉢	口縁	~側部	沈線文	ナデ	貝殻条痕	良好	橙 にぶい橙	橙	
260	鉢	口縁	沈線	沈線	ナデ	ナデ	良好	浅黃褐 にぶい橙	浅黃褐	
261	鉢	脇部	刺突文 押伝文			ナデ	良好	橙	にぶい黄褐	
262	鉢	脇部	アリケシ擬似透溝文 沈線		工具ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙		
263	鉢	側部	刺突文 透溝文			ナデ	良好	橙 にぶい橙	橙	小池原
264	鉢	側部	刺突文 沈線		貝殻条痕の後ナデ	貝殻条痕の後ナデ	良好	にぶい橙	にぶい赤褐	小池原
265	鉢	口縁	沈線 透溝文		ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい橙	小池原上層
266	鉢	口縁	口唇部沈線、沈線 押伝文 脊消溝文	沈線 脊消溝文		ナデ	良好	にぶい橙	にぶい褐	小池原上層
267	鉢	口縁	刺突文 沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
268	鉢	脇部	刺突文 沈線			ナデ	良好	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
269	鉢	口縁	口唇部 刺み目 透溝文		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄褐	
270	鉢	口縁	沈線	沈線	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	にぶい褐	
271	鉢	口縁	口唇部 沈線	沈線	指順度	ナデ	良好	浅黃褐	明黃褐	穿孔
272	鉢	口縁	刺突文 沈線	沈線		ナデ	良好	にぶい橙	にぶい褐	
273	鉢	口縁	口唇部 沈線		ナデ 貝殻条痕	ナデ	良好	にぶい黄褐 浅黃褐	波状口縁	
274	鉢	口縁	沈線 透溝文		ナデ	ナデ	良好	明黃褐	明黃褐	
275	鉢	口縁	刺突文 透溝文		ていねいなナデ	貝殻条痕	良好	にぶい黄褐	橙 灰褐	
276	鉢	口縁	沈線 透溝文		ていねいなナデ	ナデ	良好	灰褐 にぶい橙	にぶい黄褐	丹塗り
277	鉢	脇部	沈線 透溝文			ナデ	良好	明黃褐	にぶい黄褐	
278	鉢形土器	口縁	沈線		ナデ	工具痕	良好	褐	にぶい赤褐	
279	鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	明黃褐	
280	鉢	口縁	沈線		ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい橙	

表8 繩文土器観察表

図面 番号	器種	部	文		模		焼成	色		備考
			外	内	外	内		外	内	
281	鉢形 土器	脇部	沈縄 磨消縄文		ナデ	ナデ	良好	灰黄褐	灰黄褐	
282	鉢	脇部	沈縄 擬似縄文(巻貝)		ヘラミガキ	ヘラミガキ	良好	帶 にぶい褐	灰黄褐	内面風変
283	鉢形 土器	口縁 ～削跡	沈縄 磨消縄文		ナデ ミガキ	ナデ	良好	褐色 灰褐	黒褐	
284	鉢	脇部	沈縄 磨消縄文			ナデ	良好	にぶい褐	にぶい褐	丹塗り
285	鉢	脇部	沈縄 擬似縄文(巻貝)			ナデ	良好	にぶい赤褐	にぶい褐	
286	鉢	脇部	磨消縄文 沈縄		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
287	鉢	脇部	沈縄 貝殻擬似(巻貝)			ナデ	良好	褐	褐	
288	鉢	脇部	沈縄 磨消縄文		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい褐	
289	鉢	口縁	沈縄 磨消縄文		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
290	鉢	脇部	磨消縄文 沈縄			ナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
291	鉢	脇部	沈縄 擬似縄文(巻貝)			ヘラミガキ	良好	褐	にぶい黄褐	内面風変
292	鉢	脇部	沈縄 磨消縄文		ミガキ	ナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	丹塗り
293	鉢	脇部	沈縄 磨消縄文		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
294	鉢	脇部	沈縄		ナデ 工具ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	橙	
295	鉢	脇部	磨消縄文 沈縄			ナデ	良好	にぶい橙	にぶい褐	
296	鉢	脇部	磨消縄文 沈縄			ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
297	鉢	脇部	沈縄 擬似縄文(巻貝) 沈縄		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 にぶい赤褐	にぶい褐	小池原
298	鉢	脇部	沈縄 化粧		貝殻条痕	ナデ	良好	にぶい褐	褐	
299	鉢	口縁	口唇部 オザミ 沈縄 擬似縄文(巻貝)		貝殻条痕	ナデ	良好	褐	橙	
300	鉢	口縁	沈縄 擬似縄文(巻貝)		磨り消し	ナデ	良好	にぶい褐	明黄褐	
301	鉢	口縁	口唇部 沈縄		ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
302	鉢	口縁	口唇部刺線 沈縄		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
303	鉢	口縁	口唇部刺突点 沈縄		ナデ	工具ナデ	良好	橙	橙	
304	鉢	口縁	口唇部刺線 沈縄		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	鏡ヶ崎
305	鉢	口縁	口唇部刺線		ヘラミガキ	ナデ	良好	橙	にぶい橙	
306	鉢	口縁	口唇部刺線 沈縄		ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい橙	鏡ヶ崎
307	鉢	口縁	沈縄		工具ナデ	工具ナデ	良好	にぶい橙	橙	鏡ヶ崎
308	鉢	口縁	口唇部刺線 沈縄		ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい橙	
309	鉢	口縁部	沈縄		ナデ 工具痕	ナデ	良好	橙	にぶい褐	波状口縁
310	鉢	脇部	沈縄			ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄橙	
311	鉢	脇部	沈縄		ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
312	鉢	脇部	沈縄		ナデ	ナデ	良好	橙 にぶい黄橙	明黄褐	
313	鉢	脇部	沈縄		ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい橙	
314	鉢	脇部	沈縄		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄橙	
315	鉢	脇部	沈縄 工具による刺突		ナデ	工具ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄橙	
316	鉢	脇部	沈縄		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい褐	
317	鉢	脇部	沈縄		ナデ	ナデ	良好	橙	明黄褐	
318	鉢	脇部	沈縄		工具ナデ	工具ナデ	良好	にぶい橙	橙	
319	鉢	口縁	沈縄 押印文		ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	明黄褐	
320	鉢	脇部	沈縄		ナデ	ナデ	良好	橙	橙	

表9 繩文土器観察表

図面番号	種類	断部	文様		調整		焼成	色調		備考
			外面	内面	外面	内面		外面	内面	
321	深鉢	口縁 ～肩部			工具ナデ ナデ	工具ナデ	良好	にぶい桜 にぶい赤褐色	桜 明赤褐色	
322	深鉢	口縁			ハラミガキ	工具ナデ	良好	にぶい桜	明赤褐色	外面スス付着
323	深鉢	山根			指彫痕 貝殻条痕	ナデ	良好	にぶい桜	にぶい桜	
324	深鉢	口縁			ナデ 工具ナデ	工具ナデ	良好	桜 にぶい桜	にぶい桜	
325	深鉢	口縁			貝殻条痕	貝殻条痕	良好	桜	にぶい桜	
326	深鉢	口縁			貝殻条痕	貝殻条痕	良好	にぶい桜	桜	
327	深鉢	口縁			貝殻条痕	貝殻条痕	良好	桜 にぶい赤褐色	桜 にぶい赤褐色	
328	深鉢	肩部			工具ナデ ナデ	工具ナデ ナデ	良好	桜	桜	
329	深鉢	肩部			貝殻条痕の後ナデ	貝殻条痕の後ナデ	良好	桜 にぶい赤褐色	赤褐色	
330	深鉢	口縁 ～肩部			貝殻条痕 指彫痕	貝殻条痕	良好	にぶい赤褐色	桜	外面黒斑 内面炭化物付着
331	深鉢	肩部			ナデ	貝殻条痕の後ナデ	ナデ	良好	桜	桜
332	深浅	口縁 ～肩部			ナデ	風化著しい	良好	桜	桜	
333	深鉢	山根部			工具ナデ ナデ	工具ナデ	良好	にぶい褐色 灰褐色	にぶい桜	外面馬糞 内面付着物付着
334	深鉢	肩部			貝殻条痕の後ナデ	工具ナデ	良好	にぶい赤褐色 桜にぶい桜	桜	
335	深鉢	口縁部			貝殻条痕	貝殻条痕	良好	桜	にぶい桜	外面スス付着
336	深鉢	肩部 ～肩部	沈線		貝殻条痕の後ナデ	ナデ 工具ナデ	良好	桜 明赤褐色	桜 にぶい桜	
337	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい黄桜	にぶい黄桜	
338	深鉢	口縁 ～肩部	工具押圧		工具ナデ 工具板	ナデ 工具板	良好	にぶい桜 にぶい桜	にぶい桜	外面スス付着 波状口縁
339	深鉢	口縁			ナデ 工具板	工具ナデ 工具板	良好	にぶい黄桜	にぶい黄桜	
340	深鉢	口縁			ナデ	工具ナデ	良好	にぶい桜	にぶい桜	(外面)スス付着
341	深鉢	口縁			ナデ 貝殻条痕	ナデ	良好	にぶい黄桜	にぶい黄桜	(内面)黒変
342	深鉢	口縁 ～肩部			ナデ 工具板	貝殻条痕の後ナデ	良好	にぶい桜 にぶい桜	にぶい桜	
343	深鉢	口縁			ナデ	工具ナデ	良好	桜	にぶい桜	
344	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	明赤褐色 灰褐色	灰褐色 にぶい黄桜	
345	深鉢	山根	貝殻痕縦溝刻突文		ナデ 工具ナデ	ナデ 工具ナデ	良好	にぶい黄桜	桜	
346	深鉢	肩部	貝殻痕縦溝刻突文 文化		ナデ 貝殻条痕の後ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐色	桜	市木系
347	深鉢	口縁	中腹は貝殻痕縦溝刻突文 工具は貝殻痕縦溝刻突文		ナデ 貝殻条痕	ナデ 貝殻条痕	良好	桜 にぶい桜	桜	
348	深鉢	肩部	連続刺突文 貝殻痕突文	凹線	ナデ 貝殻条痕	ナデ 貝殻条痕	良好	桜 にぶい桜	桜	
349	深鉢	口縁	口縁部連続刺突文 連続刺突文	凹線	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄桜	桜	突帯
350	深鉢	口縁	口縁部連続刺突文 貝殻痕突文	凹線	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄桜	にぶい黄桜	市木系
351	深鉢	肩部	連続刺突文		ナデ	ナデ	良好	にぶい桜	にぶい桜	
352	深鉢	口縁	管状工具連続刺突文		工具ナデ	工具ナデ	良好	桜	桜	市木系
353	深鉢	口縁	口縁部沈線 連続刺突文		ナデ	T.工具ナデ	良好	にぶい桜	にぶい桜	市木系
354	深鉢	口縁	口縁部 貝殻痕縦による崩み		ナデ	ナデ	良好	にぶい桜	桜	
355	深鉢	口縁	貝京部による刺突文		ナデ 貝殻条痕	ナデ 貝殻条痕の後ナデ	良好	にぶい桜	にぶい桜	市木系
356	深鉢	口縁	口縁部貝殻痕縦刺突 貝殻痕突文	凹線	ナデ	ナデ	良好	桜	にぶい桜	山形口縁
357	鉢	口縁			ミガキ	ミガキ	良好	灰黃	淡黃	
358	鉢	口縁	沈線		ミガキ	ミガキ	良好	淡黃	灰黃	
359	鉢	口縁			ミガキ	ミガキ	良好	淡黃	灰黃	
360	鉢	口縁			ミガキ	ミガキ	良好	淡黃	淡黃	

表10 繩文土器観察表

表面 番号	器種	器部	文様		調査		焼成	色調		備考
			外面	内面	外面	内面		外面	内面	
361	鉢	口縁			ミガキ	ミガキ	良好	にぶい黄橙	淡黄褐	
362	浅鉢	口縁	沈線		ミガキ	ミガキ	良好	褐色	褐色	
363	浅鉢	口縁			ミガキ	ミガキ	良好	浅黄	淡黄	粘土のつなぎめ 粘土のたるみ
364	鉢	口縁			ミガキ	ミガキ	良好	浅黄橙	褐色	
365	鉢	口縁	沈線	沈線	ミガキ	ミガキ	良好	浅黄	褐色	
366	鉢	口縁	沈線		ミガキ	ミガキ	良好	褐色	淡黄	
367	鉢	口縁			ミガキ	ミガキ	良好	にぶい黄 褐色	浅黄	
368	鉢	口縁			ミガキ	ミガキ	良好	淡黄	褐色	外縁にスス付着
369	鉢形 土器	口縁			ミガキ	ミガキ	良好	淡黄橙	褐色	
370	鉢形 土器	口縁			ミガキ	ミガキ	良好	にぶい橙	にぶい黄橙	
371	鉢形 土器	口縁		沈線	ミガキ	ミガキ	良好	浅黄橙	淡黄	
372	鉢形 土器	口縁		沈線	ミガキ	ミガキ	良好	浅黄橙	淡黄	
373	鉢形 土器	口縁		沈線	ミガキ	ミガキ	良好	橙	橙	
374	鉢形 土器	口縁	沈線		ミガキ	ミガキ	良好	橙	にぶい黄橙	
375	鉢形 土器	口縁	沈線	沈線	ミガキ	ミガキ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
376	鉢形 土器	口縁	沈線		ミガキ	ミガキ	良好	にぶい黄橙	にぶい褐	
377	鉢形 土器	口縁	沈線		ミガキ	ミガキ	良好	淡黄	浅黄	
378	鉢形 土器	肩部	沈線		ミガキ		良好	橙	にぶい橙	
379	鉢形 土器	肩部			ミガキ	ミガキ	良好	橙	黄橙	
380	鉢形 土器	肩部			ミガキ	ミガキ	良好	にぶい黄橙	褐色	
381	鉢形 土器	肩部			ミガキ	ミガキ	良好	浅黄橙	明黄褐	
382	鉢形 土器	肩部			ミガキ	ミガキ	良好	淡黄	淡黄	
383	鉢形 土器	肩部			ミガキ	ミガキ	良好	淡黄	灰白	内面黒変
384	鉢形 土器	肩部			ミガキ	ミガキ	良好	淡黄	淡黄	穿孔
385	鉢形 土器	肩部			ミガキ	ミガキ	良好	淡黄橙	にぶい黄橙	穿孔
386	鉢	口縁			ナデ 工具痕	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	貼付突帯
387	鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄橙	外縁スス付着 貼付突帯
388	鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	浅黄橙	浅黄橙	貼付突帯
389	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	貼付突帯
390	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 にぶい黄褐	浅黄橙	貼付突帯
391	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	明黄褐	にぶい橙	貼付突帯
392	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	浅黄橙	浅黄橙	貼付突帯
393	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙	褐色	貼付突帯
394	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	黄灰	黄灰	貼付突帯
395	深鉢	口縁	~肩部		ナデ 指痕跡	工具ナデ	良好	淡橙	にぶい橙	貼付突帯
396	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	貼付突帯
397	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい褐	にぶい橙	貼付突帯
398	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	貼付突帯
399	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	淡橙	貼付突帯
400	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	黑褐	橙	貼付突帯

表11 繩文土器観察表

表11

団面 番号	器種	器部	文様		圖案		焼成	色調		備考
			外面	内面	外面	内面		外面	内面	
401	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	浅黄褐	灰白	貼付突帯
402	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	にぶい黄褐	貼付突帯
403	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	貼付突帯
404	深鉢	口縁			ナデ	工具ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	貼付突帯
405	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	にぶい黄褐	外周黒変 突帯
406	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい橙	突帯
407	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐	橙	貼付突帯
408	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい黄褐	貼付突帯 外面スス付着
409	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	灰黄褐	にぶい橙	貼付突帯
410	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	浅黄褐	浅黄	外周 黒土のたるみ 貼付突帯 外周スス付着
411	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	橙	橙	貼付突帯
412	深鉢	口縁			工具ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	貼付突帯 外面 黒土のたるみ
413	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	貼付突帯
414	深鉢	口縁			ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐	にぶい橙	貼付突帯 外面スス付着
415	深鉢	脚部			ナデ	ナデ	良好	赤褐 黑褐	橙	にぶい黄褐
416	深鉢	底部			ナデ	指壓痕	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	
417	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
418	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
419	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい黄褐	
420	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	明黄褐	明黄褐	
421	深鉢	底部			ナデ	指压痕	良好	橙	明赤褐	にぶい黄褐
422	深鉢	底部			ナデ	工具ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
423	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
424	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	橙	にぶい黄褐	灰黄褐
425	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
426	深鉢	底部			ナデ	工具痕	ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	
427	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	月影朱痕の痕ナデ	橙	
428	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
429	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	橙	橙	
430	鉢	底部			ナデ	工具痕	良好	にぶい橙	にぶい橙	
431	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	
432	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	機	浅黄褐	
433	深鉢	底部			ナデ	ナデ	良好	にぶい橙	橙	
434	深鉢	底部			工具ナデ	ナデ	良好	赤褐	にぶい橙	

表12 石器計測表

図版番号	レジスト番号	器種	調査年度	種別	出土地区	出土層位	最大長	幅	長/幅	厚さ	重量	石 材	備考
28	108	敲石	5		III区		7.4	5.5	2.95	150	砂岩	完形	
29	114	敲石	5		III区		10.2	6.1	2	190	砂岩	完形	
28	110	敲石	5		III区		6.6	5.6	4.6	220	砂岩	完形	
29	118	敲石	5		II区		12.65	3.9	2.9	240	砂岩	完形	
29	115	敲石	5		III区		9.7	5.7	4.1	250		完形	
28	109	敲石	5		III区		9.5	6.3	3.95	260	砂岩	完形	
28	104	敲石	5		I区		8.2	5.5	4.3	270	砂岩	完形	
28	111	敲石	5		III区		7.6	6.7	4.1	280	砂岩	完形	
28	112	敲石	5		III区		14	11.1	5.4	1270	尾鈴山酸性岩類?	完形	
29	113	敲石	5		III区		19.6	9.1	5.9	1600	砂岩	完形	
30	123	石皿	4				16.4	13.1	2.25	920	砂岩	完形	
30	122	石皿	5		I区		18.35	13.1	5.35	2510	尾鈴山酸性岩類?	完形	
30	121	石皿	5		III区		23.65	19.6	6.9	5000	尾鈴山酸性岩類?	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	6.35	5.2	1.22	0.76	4.7	完形	
24	1	石錐	5	1	II区		3.6	3.15	1.14	0.66	11.3	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	4.1	3.6	1.14	0.75	12.3	完形	
24	2	石錐	5	1	III区	寄土	3.75	3.45	1.09	0.63	13	完形	
24	9	石錐	4	1	C区		4.35	3.6	1.21	0.61	15.5	砂岩	
		石錐	5	1	II区		4.45	3.65	1.22	0.59	16.5	完形	
24	3	石錐	5	1	III区	寄土	4.38	3.25	1.34	0.9	18.1	完形	
27	89	石錐	5	4	III区		3.8	3.65	1.04	1.12	19	砂岩	
		石錐	5	1	III区		5	4.15	1.20	0.55	19.1	完形	
27	77	石錐	5	2	IV区		4.5	3.4	1.32	0.83	20.2	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	4.7	3.6	1.31	0.79	20.7	完形	
27	88	石錐	5	4	II区		4.05	3.55	1.14	0.92	21.3	完形	
27	83	石錐	5	3	III区		5.65	3.65	1.55	0.83	21.5	砂岩	
		石錐	5	1	III区		4.2	3.85	1.09	0.91	21.6	完形	
		石錐	5	1	III区		3.45	5.15	0.67	0.95	22.1	完形	
24	5	石錐	5	1	III区		5.05	4.75	1.06	0.66	22.2	完形	
26	76	石錐	5	1	II区		4.95	3.7	1.34	0.78	22.5	砂岩	
		石錐	5	1	III区	寄土	4.5	3.65	1.23	0.97	23.6	完形	
24	8	石錐	4	1	D区		4.7	4.5	1.04	1.18	23	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	4.15	4.3	0.97	0.89	24.3	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	5.5	4.9	1.12	0.6	25.6	完形	
27	82	石錐	5	4	II区		5.25	4	1.31	0.7	26.1	完形	
24	17	石錐	5	1	III区		4.8	4.2	1.14	0.84	26.3	完形	
		石錐	5	1	III区		5.15	4.4	1.17	0.83	26.8	砂岩	
		石錐	5	1	III区	寄土	5.05	4.1	1.23	0.77	26.9	完形	
		石錐	4	1	B区		5.9	4.7	1.26	0.63	27	完形	
		石錐	5	1	II区		4.9	4.25	1.15	0.81	27	完形	
		石錐	5	1	III区		4.9	4.45	1.10	1.78	27.1	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	4.9	4.05	1.21	1.04	27.7	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	5.4	4.9	1.10	0.61	28	完形	
24	6	石錐	5	1	II区		4.4	4	1.10	1.2	28.3	完形	
		石錐	5	1	III区		4.55	3.9	1.17	1.08	29.3	完形	
		石錐	5	1	II区		5.45	3.75	1.45	0.88	30.6	完形	
24	19	石錐	5	1	III区	寄土	5.2	4.4	1.18	0.8	30.6	砂岩	
		石錐	5	1	III区		6.65	4.1	1.58	0.93	31.1	完形	
		石錐	5	1	III区		5.55	4.2	1.32	0.96	31.8	完形	
		石錐	4	1	D区		5.4	4.45	1.21	0.9	32.4	完形	
24	23	石錐	5	1	III区		5.2	3.6	1.44	1.12	32.6	砂岩	
		石錐	5	1	III区		5.5	3.85	1.43	0.98	32.8	完形	
		石錐	5	1	III区		5.5	4.55	1.21	0.99	32.9	完形	
		石錐	5	1	III区		4.51	4	1.13	1.35	33.2	欠損	
24	25	石錐	5	1	III区	寄土	5.7	4.25	1.34	0.86	33.6	完形	
24	24	石錐	4	1	D区		5.25	4.25	1.24	0.95	34.1	完形	
		石錐	5	1	IV区	搅乱	5.25	3.35	1.57	1.32	35	砂岩	
		石錐	5	1	III区		5.25	4.6	1.14	0.92	35.3	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	5.25	4.6	1.14	1.05	36	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	6.7	5.9	1.14	0.77	36	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	5.6	4.2	1.33	1.01	36.1	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	7.15	4.9	1.46	0.67	36.3	完形	
		石錐	5	1	III区	寄土	5	5.35	0.93	0.9	36.5	完形	

表13 石器計測表

頭面番号	リテラ外番号	器種	発表年度	種別	出土地区	出土層位	最大長	幅	共/幅	厚さ	重量	石 材	備考
24	7	石鏟	5	1	III区	客土	4.9	4.65	1.05	1.14	36.6		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.35	4.4	1.22	1.32	36.9		完形
24	11	石鏟	5	1	III区	客土	5.6	4.65	1.20	0.84	37.1		完形
24	27	石鏟	5	1	III区		6.2	5.3	1.17	0.91	37.3		完形
24	18	石鏟	5	1	III区		5.1	4.75	1.07	1.14	38.1	砂岩	完形
		石鏟	5	1	IV区		4.3	5.4	0.80	1.29	38.2		欠損
27	86	石鏟	5	3	II区	II層	5.5	4.85	1.13	0.95	38.4	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区		5.4	5.05	1.07	0.95	38.8		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.8	5.85	0.99	0.89	38.2		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.6	4.1	1.37	1.06	39.4		完形
		石鏟	5	1	III区		5.7	4.55	1.25	0.9	39.5		完形
		石鏟	5	1	III区		5.75	4.1	1.40	0.99	39.5		完形
		石鏟	5	1	III区		5.25	4.35	1.21	1.31	39.8		破損
24	35	石鏟	5	1	III区	客土	6.6	5.3	1.25	0.62	39.9		完形
24	13	石鏟	5	1	III区		5.55	4.55	1.22	1.17	40.9	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区		6.3	5.3	1.19	0.9	40.9		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.3	4.85	1.09	1.24	40.9		完形
		石鏟	5	1	I区		5.2	4.35	1.20	1.29	41.1		完形
24	16	石鏟	5	1	III区		5.7	4.6	1.24	0.82	41.1		完形
		石鏟	5	1	III区		5.8	4.85	1.20	1.05	41.1		完形
		石鏟	5	1	III区		6.1	4.15	1.47	1.07	42.6		完形
24	22	石鏟	5	1	III区		5.1	4.3	1.19	1.24	42.6		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.65	4.85	1.16	1	42.8		欠損
		石鏟	5	1	III区		7.35	3.9	1.68	0.88	43		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.9	4.85	1.22	0.84	43.5		完形
		石鏟	5	1	II区		5.8	4.5	1.29	1.12	43.6		完形
		石鏟	4	1	D区		6.9	5	1.38	0.88	43.7		完形
24	4	石鏟	5	1	II区		4.7	4.15	1.13	1.48	44.6	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.35	4.6	1.38	1.04	44.6		完形
24	12	石鏟	5	1	II区		5.45	4.95	1.10	1.22	44.8	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.5	4.4	1.48	0.92	44.9		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.55	4.8	1.16	1.13	44.9		完形
		石鏟	5	1	I区		5.4	4.7	1.15	1.11	45		完形
		石鏟	5	1	III区		5.1	4.1	1.24	1.37	45		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.85	4.75	1.23	0.96	45.6		完形
		石鏟	5	1	III区		5.7	5.15	1.11	1.2	46.2		完形
		石鏟	5	1	III区		5.1	4.9	1.04	1.25	46.4		完形
		石鏟	5	1	III区		5.3	4.3	1.23	1.49	47.8		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.1	4.7	1.09	1.24	47.9		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.4	6.4	1.06	7.5	48.5		完形
		石鏟	5	1	III区		6.5	4.8	1.35	0.94	48.6		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	7.4	4.95	1.49	0.93	48.9		完形
		石鏟	5	1	IV区	攪乱	5.8	5	1.16	1.14	48.9		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.05	5.35	1.13	0.99	49		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.75	4.7	1.44	0.95	49.2		完形
24	20	石鏟	5	1	IV区	擾亂	5.35	4.85	1.10	1.36	50.1		完形
		石鏟	5	1	III区		6.9	4.9	1.41	0.9	50.3		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.7	4.7	1.21	1.1	50.3		欠損
		石鏟	5	1	III区		4.9	4.7	1.04	1.37	50.5		完形
		石鏟	4	1	D区		5.3	4.8	1.10	1.24	50.9		完形
25	46	石鏟	5	1	III区		7.35	4.6	1.60	0.87	51.1		完形
		石鏟	5	1	II区		5.45	5.3	1.03	1.1	51.4		完形
27	81	石鏟	5	3	II区		5.75	4.05	1.42	1.39	51.4		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.95	5.5	1.08	1.05	52		完形
25	39	石鏟	5	1	III区		6.95	4.7	1.48	0.92	52.2		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.8	4.9	1.39	0.91	52.6		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	5.7	5.5	1.04	1.1	53		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	7.3	5.75	1.27	9	53.1		完形
		石鏟	5	1	III区		5.7	4.75	1.20	1.32	53.3		完形
27	80	石鏟	5	5	III区	客土	7.5	3.75	2.00	1.23	54.1	砂岩	欠損
		石鏟	5	1	III区	客土	6.1	4.8	1.27	1.30	54.8		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.2	5.65	1.10	1.43	55.3		完形
		石鏟	5	1	IV区		5.35	4.9	1.09	1.46	55.6		完形
24	21	石鏟	5	1	III区	客土	5.05	5.05	1.00	1.92	55.7		完形
		石鏟	4	1	D区		8.3	5.95	1.39	0.7	57.3		欠損

表14 石器計測表

図面番号	レア外番	器種	調査年度	種別	出土地区	出土層位	最大長	幅	長／幅	厚さ	重量	石 材	備考
		石錐	4	1	C区		6.6	5.6	1.18	1	57.4		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.3	6.25	1.01	1.24	57.5		完形
		石錐	5	1	IV区	攪乱	6.75	5.45	1.24	1	58.3		完形
		石錐	5	1	III区		5.95	6.6	0.90	0.9	58.9		完形
		石錐	5	1	IV区		5.6	5.65	0.99	1.32	58.9		完形
24	34	石錐	5	1	III区	客土	6.2	5.7	1.09	1.11	60.3		完形
		石錐	5	1	III区		7.2	5.2	1.38	1.23	60.4		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.9	5.7	1.21	1.08	60.7		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.5	5.8	1.12	0.99	60.8		完形
		石錐	5	2	III区		6.4	5.8	1.10	1.26	60.8		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.55	4.7	1.39	0.99	61.3		完形
24	10	石錐	5	1	II区		5.55	5.2	1.07	1.36	61.9		完形
		石錐	5	1	III区		6.65	4.1	1.62	1.52	62.9		完形
		石錐	5	1	III区		6.25	5.5	1.14	1.46	63.1		完形
27	79	石錐	5	2	II区		7.8	5.35	1.46	0.91	63.2		完形
		石錐	5	1	III区	客土	5.6	4.95	1.13	1.53	64.2		完形
		石錐	5	1	III区	客土	5.55	5.3	1.05	1.62	64.6		完形
24	33	石錐	5	1	III区	客土	6.55	6.2	1.06	0.89	65.2		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.65	6.9	0.96	0.88	66		完形
		石錐	5	1	III区		7.25	5.45	1.33	0.94	66.3		完形
24	14	石錐	5	1	IV区		5.5	5.6	0.98	1.3	66.5		完形
24	31	石錐	5	1	III区	客土	6.5	4.95	1.31	1.17	66.8		完形
		石錐	4	1	D区		6.45	5.1	1.26	1.32	67.4		完形
		石錐	5	1	IV区		6.75	5.45	1.24	1.14	67.6		完形
		石錐	6	1		攪乱	6.65	6.6	1.01	0.98	67.8		完形
		石錐	5	1	III区	客土	5.85	6	0.98	1.25	68.6		完形
		石錐	5	1	III区	客土	8.75	6.4	1.37	0.85	68.9		完形
		石錐	5	1	IV区		6.75	5.7	1.18	1.27	69.5		完形
		石錐	5	1	IV区		6.6	6.05	1.09	1	70.1		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.45	6	1.08	1.17	71.1		完形
		石錐	5	1	III区	客土	5.8	5.5	1.06	1.5	71.1		完形
		石錐	5	1	III区		6.75	5.6	1.21	1.36	71.5		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.6	6.15	1.07	1.24	72		完形
		石錐	5	1	III区		5.6	5.25	1.07	1.59	72.9		完形
		石錐	5	1	II区		7.05	6.05	1.17	1.1	73		完形
		石錐	5	1	II区		7.05	5.45	1.29	1.16	73		完形
		石錐	5	1	I区		5.1	6.2	0.82	1.62	73.2		欠損
		石錐	5	1	III区	客土	7.5	5.55	1.35	1.11	73.8		完形
25	47	石錐	5	1	III区		7	5.5	1.27	1.21	73.9		完形
		石錐	5	1	III区	客土	8	6.55	1.22	0.89	74.7		完形
25	40	石錐	4	1	D区		6.4	5.75	1.11	1.22	75.2	砂岩	完形
		石錐	5	1	II区		7.65	6.8	1.13	0.92	75.4		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.75	6.3	1.07	1.14	76.2		完形
		石錐	5	1	II区		6.6	5.85	1.13	1.37	76.5		完形
24	29	石錐	5	1	II区		6.45	5.05	1.28	1.64	76.5	砂岩	完形
		石錐	5	1	IV区		6.15	5.6	1.10	1.53	76.6		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6	5.5	1.09	1.71	77		完形
24	15	石錐	5	1	III区		5.6	5.85	0.96	1.57	77.1	尾鈴山酸性岩	完形
		石錐	5	1	III区	客土	7.4	6.7	1.10	1.05	78.5		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.55	6.85	0.96	1.24	78.8		完形
		石錐	5	1	III区		8	7.1	1.13	0.8	79.5		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.3	7.7	0.82	0.93	79.6		欠損
		石錐	5	1	III区		7.55	5.45	1.39	1.15	80		完形
		石錐	5	1	I区		6.05	4.65	1.30	1.87	80.2		完形
		石錐	5	1	IV区		6.15	6.1	1.01	1.29	80.6		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.05	5.55	1.09	1.9	80.7		完形
		石錐	5	1	III区		6.55	6.2	1.06	1.24	81.3		完形
		石錐	5	1	III区	客土	6.5	6.1	1.07	1.35	81.4		完形
		石錐	5	1	IV区		7.2	5.6	1.29	1.25	81.9		完形
		石錐	5	1	III区		6.6	6	1.10	1.4	82.2		完形
25	38	石錐	4	1	D区		6.6	5.5	1.20	1.5	83.6		完形
		石錐	5	1	III区		5.8	5.55	1.05	1.44	84.3		完形
26	60	石錐	5	1	III区	客土	8.45	4.8	1.76	1.38	84.4	砂岩	完形
		石錐	5	1	III区		7.3	5.9	1.24	1.59	84.8		完形
24	26	石錐	5	1	I区		6.85	5.35	1.28	1.59	84.9		完形

表15 石器計測表

番号	レジ番号	器種	発表年	種別	出土地区	出土層位	最大長	幅	長/幅	厚さ	重量	石 材	備考
27	78	石鏟	5	1	III区		5.7	5.65	1.01	1.83	85		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	7.45	5.25	1.42	1.33	85.3		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.85	6.3	1.09	1.19	85.4		完形
27	85	石鏟	5	3	1区		7.9	5.5	1.44	1.24	87		完形
		石鏟	4	1	A区		7.7	6.2	1.24	1.25	88.1		完形
		石鏟	4	1	D区		7.6	5.65	1.35	1.24	88.3		完形
25	37	石鏟	5	1	IV区		6.95	5.85	1.19	1.38	89.1	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区	客土	7.6	5.6	1.36	1.3	90.1		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.4	5.35	1.20	1.7	90.8		完形
25	49	石鏟	5	1	III区	客土	7.05	5.25	1.34	1.66	91	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区		6.2	5.95	1.04	1.61	91.1		完形
		石鏟	5	5	III区		7.65	7.1	1.08	0.8	92.1		完形
27	87	石鏟	5	1	II区		7.05	6.3	1.12	1.44	93		完形
		石鏟	5	1	IV区	擾乱	8.35	5.65	1.48	1.34	93.2		完形
		石鏟	5	1	III区		8.05	5.5	1.46	1.21	93.8		完形
26	67	石鏟	5	1	III区		9.65	6.65	1.45	0.92	94.1		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	7.6	5	1.52	1.7	94.4		完形
		石鏟	4	1	A区		6.85	6.05	1.13	1.5	94.5		完形
25	41	石鏟	5	1	IV区		6.9	5.25	1.31	1.72	95.5		完形
		石鏟	5	1	IV区		6.9	5.25	1.31	1.72	95.5		完形
		石鏟	5	1	III区		8.65	6.4	1.35	1.14	99.2		完形
25	51	石鏟	5	1	III区	客土	7.8	5.5	1.42	1.33	96	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.5	5.9	1.10	1.55	96.3		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	7.25	5.85	1.24	1.21	96.5		完形
25	53	石鏟	5	1	III区		7.75	5.6	1.38	1.68	98.5		完形
		石鏟	4	1	D区		7.4	5.9	1.25	1.38	98.6		完形
		石鏟	5	1	II区		7.7	6.7	1.15	1.22	99.1		完形
27	84	石鏟	5	1	III区		8.65	6.4	1.35	1.14	99.2		完形
		石鏟	5	1	III区		8.65	5.1	1.70	1.38	99.2		完形
		石鏟	5	1	III区		7.4	6.5	1.14	1.34	99.9		完形
26	69	石鏟	5	1	III区		7.5	6.6	1.14	1.26	100.1		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.55	6.55	1.00	1.7	101.8		完形
		石鏟	5	4	IV区	擾乱	7.4	6.3	1.17	1.81	102.5		完形
25	50	石鏟	5	1	III区		7.15	6.3	1.13	1.43	102.7		完形
		石鏟	4	1	B区		6.85	5.8	1.18	2.04	103.3		完形
		石鏟	5	1	III区		6.9	7	0.99	1.4	103.5		完形
25	42	石鏟	5	1	II区		9.1	7.1	1.28	1.05	104.1	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区		7.05	6	1.18	1.8	104.3	砂岩	完形
		石鏟	4	1	D区		6.2	5.5	1.13	2.16	104.5	砂岩	完形
24	28	石鏟	5	?	III区		6.9	5.5	1.25	1.73	105.6		完形
		石鏟	5	1	III区		7.05	5.9	1.19	1.97	105.9		完形
		石鏟	5	1	III区		5.7	6.45	0.88	1.59	106.6		完形
24	30	石鏟	5	1	II区		8	5.3	1.51	1.87	106.8		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	8.6	5.85	1.47	1.57	110.2		完形
		石鏟	5	1	III区		8.2	7.1	1.15	1.09	110.8		完形
25	36	石鏟	5	1	III区		6.6	5.85	1.13	1.96	111.9		完形
		石鏟	5	1	IV区		6.9	6.2	1.11	1.48	112.2		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	6.95	6.1	1.14	1.85	112.9		完形
24	32	石鏟	5	1	III区		7.9	4.4	1.80	2.56	113.6		完形
		石鏟	5	1	III区		8.05	5.95	1.33	1.52	113.6	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区		7.2	6.5	1.11	1.68	114.4		完形
25	55	石鏟	5	1	III区	客土	6.9	5.5	1.25	1.95	115.2		完形
		石鏟	4	1	D区		7.8	5.2	1.50	1.82	115.2	砂岩	完形
		石鏟	5	1	IV区	擾乱	7.15	6.3	1.15	1.81	115.3		完形
25	43	石鏟	5	1	IV区	擾乱	8.85	5.85	1.51	1.68	118.3		完形
		石鏟	5	1	III区		7.95	5.9	1.35	1.43	118.8		完形
		石鏟	4	1	D区		8.05	8.2	1.05	0.92	119.3	砂岩	完形
26	64	石鏟	5	1	III区		7.6	6.5	1.17	1.58	119.9	砂岩	完形
		石鏟	5	1	IV区		5.9	6.85	0.86	1.62	121.7		完形
		石鏟	5	1	III区		7.9	7	1.13	1.31	125.3		完形
25	43	石鏟	5	1	III区		8.95	8.8	1.02	0.95	125.3		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	8.05	6.5	1.33	1.35	125.3		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	7.55	6.9	1.09	1.5	125.3		完形
26	66	石鏟	4	1	D区		9.5	5.6	1.70	1.3	125.5	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区	客土	8.75	7.45	1.17	1.3	126.8		完形

表16 石器計測表

図面番号	レイヤ外番号	種類	調査年度	種別	出土地区	出土層位	最大長	幅	長/幅	厚さ	重量	石材	備考
		石鏟	5	1	III区	客土	6.8	6.15	1.11	2.13	127.2		完形
		石鏟	5	1	II区	II層	6.7	5.7	1.18	2.1	127.7		完形
26	65	石鏟	5	1	III区	客土	7.55	6.9	1.09	1.7	128		完形
25	48	石鏟	5	1	III区	客土	9.2	6	1.53	1.33	129.5		完形
26	61	石鏟	5	1	III区	客土	7.95	5.75	1.38	1.8	129.7		完形
		石鏟	5	1	IV区		8.4	5.85	1.44	1.74	132.3	砂岩	完形
		石鏟	5	1	D区		7.4	7.25	1.02	1.86	132.7		完形
		石鏟	4	1	D区		7.45	6.35	1.17	1.77	133.9		完形
		石鏟	5	1	III区		7.4	6	1.23	2.36	134.1		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	8.85	6.4	1.38	1.55	135.6		完形
		石鏟	5	1	IV区	擾乱	8.1	7.2	1.13	1.43	136.4		完形
25	54	石鏟	4	1	D区		7.4	7.4	1.00	1.71	138.7	砂岩	完形
		石鏟	5	1	III区		8.8	7.2	1.22	1.15	139.1		完形
		石鏟	5	1	IV区		8.65	6.85	1.26	1.48	139.1		完形
25	56	石鏟	5	1	III区		6.55	6.1	1.07	1.07	142.6		完形
25	52	石鏟	5	1	IV区	擾乱	7.55	5.95	1.27	2.25	142.6	尾鈴山酸性岩	完形
		石鏟	5	1	IV区		8.1	7.1	1.14	1.94	149		欠描
25	58	石鏟	4	1	D区		8.1	7.2	1.13	1.98	152	砂岩	完形
25	44	石鏟	5	1	III区		7.45	7.1	1.05	1.3	153.6	砂岩	完形
26	63	石鏟	4	1	B区		8.7	7.55	1.15	1.4	159.1	砂岩	完形
27	90	石鏟	5	5	III区	客土	8.2	6.4	1.28	1.89	159.9		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	8.35	7.1	1.18	1.82	160		完形
		石鏟	5	1	III区	客土	8.05	6.05	1.33	2.26	161.7		完形
26	62	石鏟	4	1			8.2	6.1	1.34	2.3	165.6	砂岩	完形
25	45	石鏟	5	1	II区		7.4	6.2	1.19	2.04	168.1	砂岩	完形
		石鏟	5	1	IV区		7.9	6.7	1.18	2.1	176		完形
26	72	石鏟	5	1	III区		9.95	8.55	1.16	1.56	190.3	砂岩	完形
25	59	石鏟	4	1	B区		8.1	8.5	0.95	1.85	193.9	砂岩	完形
26	68	石鏟	5	1	III区	客土	9.6	9	1.07	1.8	201.7	尾鈴山酸性岩	完形
26	73	石鏟	5	1	III区		9.4	8.05	1.17	1.79	210		完形
26	70	石鏟	4	1	D区		9.1	8.35	1.09	2.12	229.4		完形
25	57	石鏟	5	1	III区	客土	8.9	7.9	1.13	2.9	288.1	砂岩	完形
26	71	石鏟	5	31	III区	客土	9.5	8.7	1.09	2.34	299.8		完形
		石鏟	5	1	IV区		7.65	8.45	0.91	3.69	327.3		完形
26	74	石鏟	5	1	IV区		10.15	8.45	1.20	2.7	388.7	尾鈴山酸性岩	完形
		石鏟	4	1	A区		11.3	9.3	1.22	2.63	409.8		完形
26	75	石鏟	6	1		擾乱	10.02	10.01	1.00	3.2	480.7	砂岩	完形
29	116	石斧	5		III区		10.8	3.7		2.4	130	砂岩	完形
29	119	石斧	4				9.3	4.75		2.85	170	砂岩	完形
29	117	石斧	5		III区		10.9	5.1		2.9	200	砂岩	完形
29	120	石斧	6				8.2	5.9		3.05	251.4	頁岩	欠描
30	124	剥片	5		III区		—	5.5		1.45	20.5	安山岩	
30	125	剥片	5		III区		6.65	4.5		1.2	24.9	安山岩	
30	126	剥片	5		III区		5.8	7.9		1.6	58.6	安山岩	
28	105	磨石	5		III区		3.65	6.55		2.6	90	砂岩	完形
28	101	磨石	5		IV区		6.15	4.52		2.35	160		完形
28	106	磨石	5		II区		6.5	4.75		3.21	130	尾鈴山酸性岩	完形
28	102	磨石	6				—	5.95		3.1	191.5	尾鈴山酸性岩	完形
27	95	磨石	6				7.15	5.3		3.9	220	尾鈴山酸性岩	完形
28	98	磨石	5	田区			9.2	6.1		3.5	200	尾鈴山酸性岩	完形
28	99	磨石	5	田区			7.7	5.45		4.1	260	尾鈴山酸性岩	完形
28	107	磨石	5	I区			6.9	5.7		5.35	290	砂岩	完形
27	94	磨石	5	田区			8.1	7.8		4.5	400	尾鈴山酸性岩	完形
28	103	磨石	5	田区			8.3	5.9		5.2	400	尾鈴山酸性岩	完形
27	96	磨石	5	田区			8.55	7.8		4.1	420	尾鈴山酸性岩類	完形
28	97	磨石	5	IV区			10.9	7.9		4.3	580	尾鈴山酸性岩	完形
27	93	磨石	5	田区			6.25	10.3		4.6	930	尾鈴山酸性岩	完形
28	100	磨石	5	田区			17.8	9.2		4.25	1135	砂岩	完形
27	91	磨石	4				15.7	13.95		8.6	2600	尾鈴山酸性岩	完形
27	92	磨石	4				18.85	13.7		7.9	3180	尾鈴山酸性岩	完形

2 中世

(1) 中世の遺構と遺物

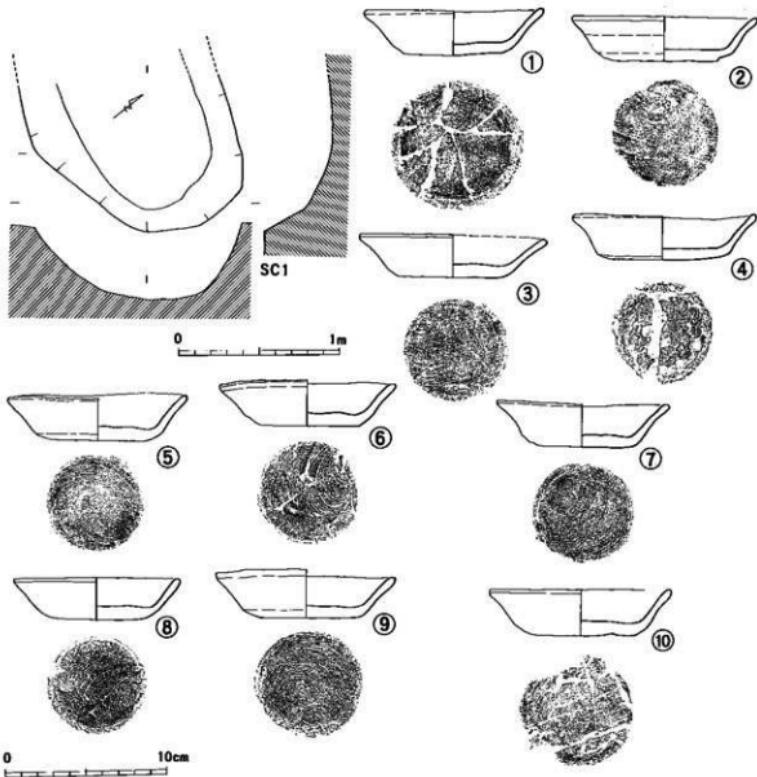
本遺跡の中世の遺構は土塁1基のみである。

SC1は、直径1.3mの楕円形プランと考えられる。掘り込みは、50cm程で遺構の3分の1くらいは搅乱で確認できなかった。遺構内に土師器の皿が7枚口縁部を伏せるような置き方をしてあった。しかも北方向にあつたので土塁墓の可能性が考えられたが、人骨等が検出できなかつたのでここでは土塁として報告する。

SC1出土の遺物 1は、器高が2.75cm、口径10.75cm、底径は6.2cmである。形態の特徴は底部からほぼ直線的に立ち上がるるものである。調整は内外面ともにナデや横ナデを施しており、色調は内外面とも橙である。焼成も良好である。また、底部は糸切り底である。2は、土師器皿で、器高は2.72cm、口径は11.25cm、底径は7.0cmである。形態の特徴は底部からやや内湾気味に立ち上がり口縁部近くでやや外反するものである。調整は内外面と齊に横ナデ・ナデ調整である。焼成も良好で色調は内外面ともに橙である。底部はヘラ切り底である。3は、土師器皿で、器高は2.7cm、口径は11.3cm、底径6.6cmで、形態の特徴は底部から口縁部にかけてはほぼ直線的に立ち上がるものである。調整は外面が横ナデとナデ調整で内面が横ナデ調整である。焼成・色調とも2と同じで底部は糸切り底である。4は、器高が2.7cm、口径11.05cm、底径8.05cmで形態の特徴は口縁部がやや外反するものである。5は、土師器皿で器高が2.9cm、口径が10.95cm、底辺が6.25cmで形態の底部から口縁部にほぼ直線的に立ち上がるものである。調整はナデや横ナデを施していくて焼成・色調は1と同じである。また、底部は糸切り底である。6は、土師器皿の糸切り底で器高が2.7cmである。7も土師器皿で器高が2.7cm、口径が10.45cm、底径5.3cmである。形態の特徴は底部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がるものである。調整は横ナデ・ナデの調整を施し色調は内外面ともに浅黄橙で底部は糸切り底である。以上はSC1出土の遺物である。8は、土師器皿で器高は2.6cm、口径は10.0cm、底径は6.4cmである。形態の特徴は底部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がるものである。調整は内外面とも横ナデ・ナデ調整を施している。焼成は良好で色調は内外面ともに純い橙である。底部には糸切り底がみられる。9は、土師器皿で器高が2.5cm、口径10.85cm、底径6.25cmである。形態の特徴は底部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がるものである。調整は4とほぼ同じで、色調・調整は3と同じである。10は、器高2.95cm、口径11.1cm、底径6.85cmで、形態の特徴として底部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がり、底部は9・10とも糸切り底である。

表17 土師質土器観察表

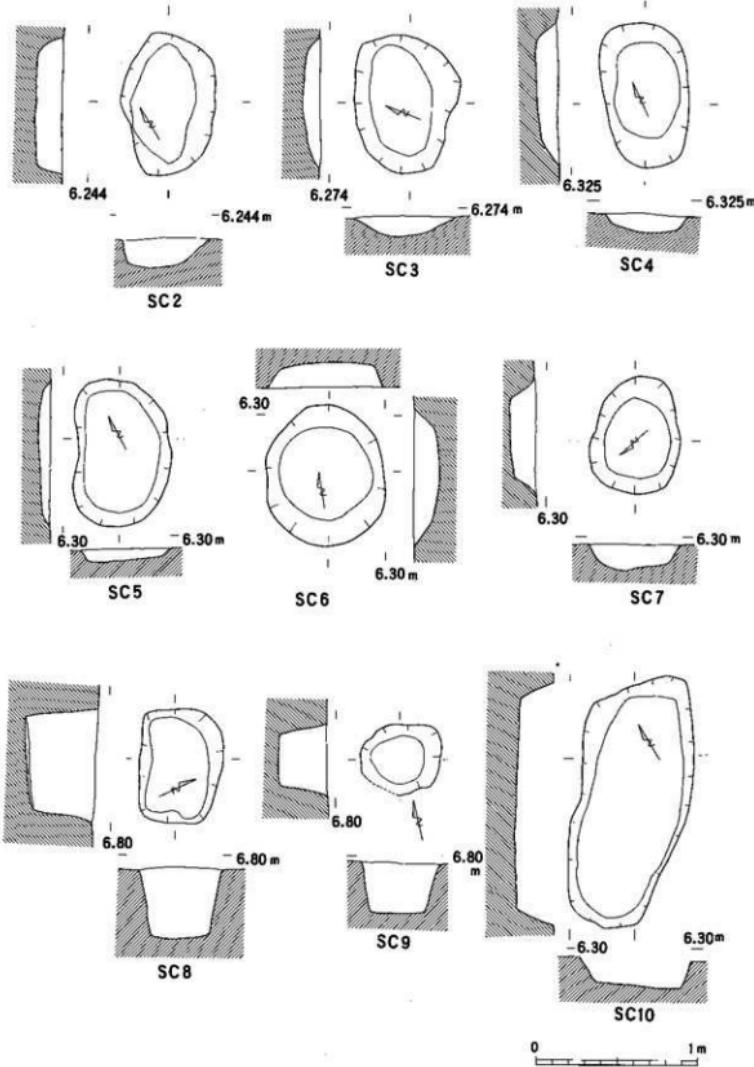
調査番号	形態	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色 調	焼成	形態の特徴	調 整	備考
1	皿	2.75	10.75	6.2	内面・横 外面・横	良好	#	内面…横ナデ、横ナデの後ナデ 外面…横ナデの後ナデ、横ナデ	糸切り底 内面…部分的に黒皮
2	皿	2.72	11.25	7.0	内面・横 外面・横	良好	#	内面…横ナデ、ナデ 外面…ナデ、横ナデ	ヘラ切り底
3	皿	2.7	11.3	6.6	内面…横 外面…横	良好	#	内面…横ナデ 外面…ナデ、横ナデ	糸切り底
4	皿	2.7	11.05	8.05	内面…横 外面…横	良好	#	内面…横ナデ 外面…横ナデの後ナデ、横ナデ	糸切り底
5	皿	2.9	10.95	6.25	内面…によい横 外面…によい横	良好	口縁部がやや外反するもの	内面…横ナデ、横ナデの後丁寧なナデ 外面…ナデ、横ナデ	糸切り底
6	皿	2.7	10.7	6.4	内面…赤褐色 外面…赤褐色	良好	#	内面…横ナデ 外面…ナデ、横ナデ	糸切り底
7	皿	2.7	10.45	5.3	内面…によい横 外面…によい横	良好	#	内面…横ナデ、横ナデの後ナデ 外面…ナデ、横ナデ	糸切り底
8	皿	2.6	10.0	6.4	内面…横 外面…によい横	良好	底面から、口縁部にかけて、 ほぼ直線的に立ち上がるものの 底面…横	内面…横ナデ、ナデ 外面…横ナデ、ナデ	糸切り底
9	皿	2.5	10.85	6.25	内面…横 外面…横	良好	底面から、口縁部にかけて、 ほぼ直線的に立ち上がるもの	内面…横ナデ、横ナデの後丁寧なナデ 外面…横ナデ、ナデ	糸切り底 外面…部分的に黒皮
10	皿	2.95	11.1	6.85	内面…横 外面…横	良好	#	内面…横ナデ、ナデ 外面…ナデ、横ナデ	糸切り底



第31図 SC1・出土土器実測図

3 時期不明の遺構

SC2は、長径88cm×短径60cmの楕円形プランで深さ20cm程度である。SC3は、長径88cm×短径62cmの楕円形プランで深さ14cmと浅い。SC4は、長径90cm×短径50cmの楕円形プランで深さが12cmとかなり浅い。SC5は、長軸90cm×短軸58cmの楕円形プランで深さは10cm程度の浅いものである。このSC2～SC5は、1区で検出されているものである。SC6は、直径70cm程度の円形プランで、直徑16cm程度である。SC7は、長軸74cm×短軸54cmで深さ14cmである。SC6～SC7は、2区で検出されたものである。SC8は、長軸70cm×短軸50cmの楕円形プランで深さが50cm程度である。SC9は、直径50cm程度の円形プランで深さは30cm程度である。SC8～9は、5区で検出している。SC10は、長径1.5m×短径70cmくらいの楕円形プランで深さは22cmでこの土壌は7区で検出されている。ここに記述している土壌は遺構内に明瞭な遺物はなく時代を特定できなかったためここで取り上げてみた。ほとんどのものが楕円形プランで規模的には小さいものが多い。埋土等については検出面の砂の色と埋土の色が明瞭でないために確認が困難であったので、遺構が想した段階で水をまきその渇き具合の差で検出をしている。(SC8・SC9を除く)



第32図 SC2～SC10実測図

第4章　まとめ

本遺跡の調査は三ヵ年にわたって調査をした結果をここにまとめてみたい。

縄文時代

土器

縄文時代の土器としては、縄文時代後期初頭から晩期にかけての時期がみられたが、前葉から中葉にかけてピークがみられる。遺物の系統としては、南九州系の土器・瀬戸内地方系の土器などに分けることができる。南九州系の土器には、指宿系や市木系の土器がみられる。瀬戸内系の土器には、福田KII式や彦崎K1系・小池原上層式等がみられる。本遺跡は、九州のほぼ中央に位置し、海岸部にあることから、当時瀬戸内地方との交流があったと考えられる。

石器

縄文時代の石器としては、約500点程出土しているが、その内の57パーセントが石錐であることからこの周辺の生活が漁労中心であったことを物語っている。下の表は、石錐の度数分布表である。縦軸が長幅で横軸が重さになる。この表からかなりのばらつきがあるが長幅は、1.0~1.5cmの幅で、重さが100グラムのものが多いということが読み取れる。石材は砂岩が多く、中には尾鷲山酸性岩などが多い。

中世

中世の遺構として土塙が検出されたが、土師器皿が7枚重ねられて出土したことから祭司的色彩が強いと思われる。調査中は、土塙墓の可能性も考えたが、人骨等が検出されなかったので、ここではあえて土塙墓とはせずに土塙としている。

最後に門川南町遺跡は、国土沿線で、かなりの攪乱部分があったが、瀬戸内地方との交流を示す土器が出土している。これは縄文時代の土器の交流を物語っているし、海岸部の遺跡の特徴も持ち合わせている。今回は、縄文時代の住居跡が1軒しか検出できなかったが、南町地区の調査が他の機会で行なわれれば縄文時代の南町遺跡の生活の痕跡がさらに解明されると思われる。

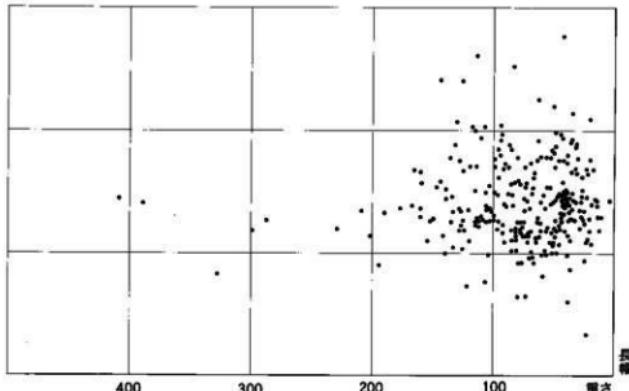


表18 石錐度数分布表

第5章 門川南町遺跡の植物珪酸体分析

古環境研究所

1.はじめに

植物珪酸体は、植物体内で形成されたガラス質の細胞であり、植物が枯れた後も微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定、および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、1987）。

門川南町遺跡の発掘調査では、土師器および縄文時代後晩期とされる遺物などが多数検出された。そこで、これらの遺物包含層を中心に植物珪酸体分析を実施し、本遺跡におけるイネ科栽培植物の検討、および遺跡周辺の古植生・古環境の推定を試みた。

2. 試料

調査地点は、A地点、C地点、D地点の3箇所である。調査区の土層は、1層～3層などに分層された。このうち、1層は現表土（攢乱層）であり、2層は土師器の包含層である。また、3層（赤褐色砂層）からは黒色磨研土器など縄文時代後期後半～晩期とされる遺物が検出され、その下位には砂層および疊層が厚く堆積している。

試料は、現表土からおよそ1.5m深までの層準について、各層ごとに5～10cm間隔で採取した。試料数は計34点である。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）をもとに、次の手順で行った。

- (1) 試料の絶乾（105°C・24時間）
- (2) 試料約1gを秤量、ガラスピーブ添加（直径約40μm、約0.02g）
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- (3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- (4) 超音波による分散（300W・42KHz・10分間）
- (5) 沈底法による微粒子（20μm以下）除去、乾燥
- (6) 封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成
- (7) 檢鏡・計数

同定は、機動細胞珪酸体に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピーブ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピーブ個数に、計数された植物珪酸体とガラスピーブ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-6} g ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、イネは赤米、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はススキの値を用いた。その値はそれぞれ2.94（種実重は1.03）、8.40、

6.31、1.24である。タケ亜科については数種の平均値を用いた。ネザサ節の値は0.48、クマザサ属は0.75である。

4. 分析結果および考察

(1) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめ、オオムギ族（ムギ類が含まれる）、キビ族（ヒエやアワ、キビなどが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、トウモロコシ属、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）などがある。本遺跡の試料からは、このうちのイネのみが検出された。以下に、各地点ごとにイネの植物珪酸体の検出状況を示し、稻作の可能性について検討を行った。

1) D地点

遺跡の南側に位置するD地点では、模式的な土壌断面を観察することができた。ここでは1層（現表土）から約1.4m深の礫層までの各層準について分析を行った。

その結果、1層から2b層上部までの層準でイネの植物珪酸体が検出された（図3）。このうち、土器を包含する2a層（試料4、5）では、植物珪酸体密度が10,000個/g前後となり高い値であり、稻作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを大きく上回っている。したがって、同層では稻作が行われていた可能性が高いと考えられる。現表土の1層（試料1～3）でも密度が5,000個/g前後と高い値であることから、同層でも稻作が行われていた可能性が高いと考えられる。2b層上部（黒褐色砂層、試料6）では、密度が1,400個/gと低いことから、直上の2a層から植物珪酸体が混入した可能性が考えられる。

2) A地点

1層（現表土）から約1.5m深の粗砂層までの各層準について分析を行った。その結果、1層から3層上部までの層準でイネの植物珪酸体が検出された（図1）。このうち、現表土の1層（試料1～3）では密度が2,200～4,300個/gと比較的高いことから、稻作が行われていた可能性が考えられる。縄文時代後晩期とされる3層上部（赤褐色砂層、試料4）では、密度が1,500個/gと低い値であることから、直上の1層から比較的最近の耕作に由来する植物珪酸体が混入した可能性が考えられる。

3) C地点

1層（現表土）から約1.5m深の砂層までの各層準について分析を行った。その結果、1層から3層上部までの層準でイネの植物珪酸体が検出された（図2）。このうち、現表土の1層上部（試料1）では、密度が6,700個/gと高い値である。したがって、同層では稻作が行われていた可能性が高いと考えられる。縄文時代後晩期とされる3層上部（赤褐色砂層、試料3）では、密度が2,300個/gと比較的低い値である。また、現地表面から約20cm深と浅いことから、直上の1層から比較的最近の耕作に由来する植物珪酸体が混入した可能性が考えられる。

以上のことから、本遺跡では少なくとも土器が含まれる2a層の時期には稻作が開始されていたものと考えられ、その後も比較的最近までおおむね継続して行われていたものと推定される。なお、縄文時代後晩期とされる3層でもイネの植物珪酸体が検出されたが、密度が低いことなどから、上層から後代の植物珪酸体が混入したものと判断された。

(2) 古植生および古環境の推定

3層（赤褐色砂層）より下位の砂層では、植物珪酸体はほとんど検出されず、その下位の礫層ではまったく検出されなかった。なお、一部の試料では海綿骨針が少量検出された。これらのことから、当時は海の影響を強く受ける堆積状況であり、イネ科植物の生育には適さない環境であったものと推定される。

縄文時代後晩期とされる3層（赤褐色砂層）および土師器を包含する2b層では、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）やウシクサ族（スキ属など）、ウシクサ族型、棒状珪酸体などが少量検出された。また、イネ科以外にもシノキ属やカガシ亞属（？）、イスノキ属（？）などの照葉樹に由来する植物珪酸体が検出された。樹木については葉身中で形成される珪酸体密度が低いことから、給源植物の量を推定する際には他の植物と比較してかなり過大に評価する必要がある。これらのことから、当時の遺跡周辺にはシイ類やカシ類、イスノキなどの照葉樹林が成立していたものと考えられ、その縁辺部などではネザサ節やスキ属なども見られたものと推定される。

土師器を包含する2a層では、イネが急激に増加しているが、照葉樹に由来する植物珪酸体はほとんど見られなくなっている。また、ネザサ節型や棒状珪酸体も増加しており、ウシクサ族（スキ属など）やメダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）も少量検出された。これらのことから、この時期には照葉樹林が人為的に開かれ、そこで稻作が開始されたものと推定される。ネザサ節やスキ属は比較的乾いた土壤条件を好むことから、同層の堆積当時は比較的乾いた土壤条件で推移したものと考えられる。このことから、本遺跡で行われていた稻作の様式は陸稻の系統であった可能性が考えられる。

1層（現表土）でもイネが継続して検出され、ウシクサ族（スキ属など）やネザサ節型、マダケ属なども少量検出された。このことから、1層でも2a層と同様に稻作が行われ、比較的最近まで継続されていたものと推定される。マダケ属にはマダケやモウソウチクなど有用なが多く、道具や生活用具、食用などとしての利用価値が高いが、これらの植物が現れるのは比較的最近のことと考えられる。

5.まとめ

門川南町遺跡のA地点、C地点、D地点において、現表土から約1.5m深の砂（礫）層までの層準について植物珪酸体分析を行った。その結果をまとめると次のようである。

3層より下位の砂層および礫層の堆積当時は、海の影響を強く受ける状況であり、イネ科植物の生育には適さない環境であったものと推定される。

縄文時代後晩期とされる3層（赤褐色砂層）の時期には、シイ類やカシ類、イスノキ属などの照葉樹林が成立していたものと考えられ、その縁辺などではスキ属やネザサ節なども見られたものと推定される。

その後、土師器を包含する2a層の時期には人為的に照葉樹林が開かれたものと考えられ、そこで稻作（陸稻）が開始されたものと推定される。稻作は、その後も比較的最近まで継続的に行われていたものと考えられる。

参考文献

- 杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点。植生史研究、第2号：27-37
杉山真二（1987）タケア科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告、第31号：70-83。
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析

法一。考古学と自然科学, 9:15-29.

藤原宏志 (1979) プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)-福岡・板付遺跡 (夜白式) 水田および群馬・日高遺跡 (弥生時代) 水田におけるイネ (*O. sativa L.*) 生産総量の推定一。考古学と自然科学, 12: 29-41.

藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探査一。考古学と自然科学, 17: 73-85.

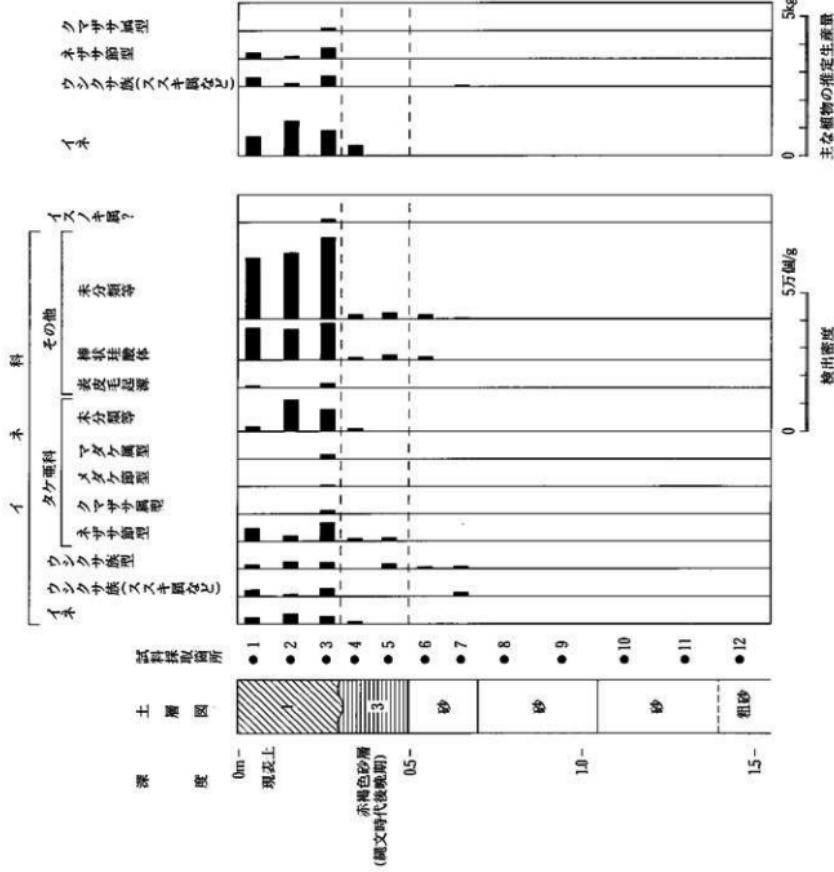


図1 遺跡A地点における植物遺骸分析結果

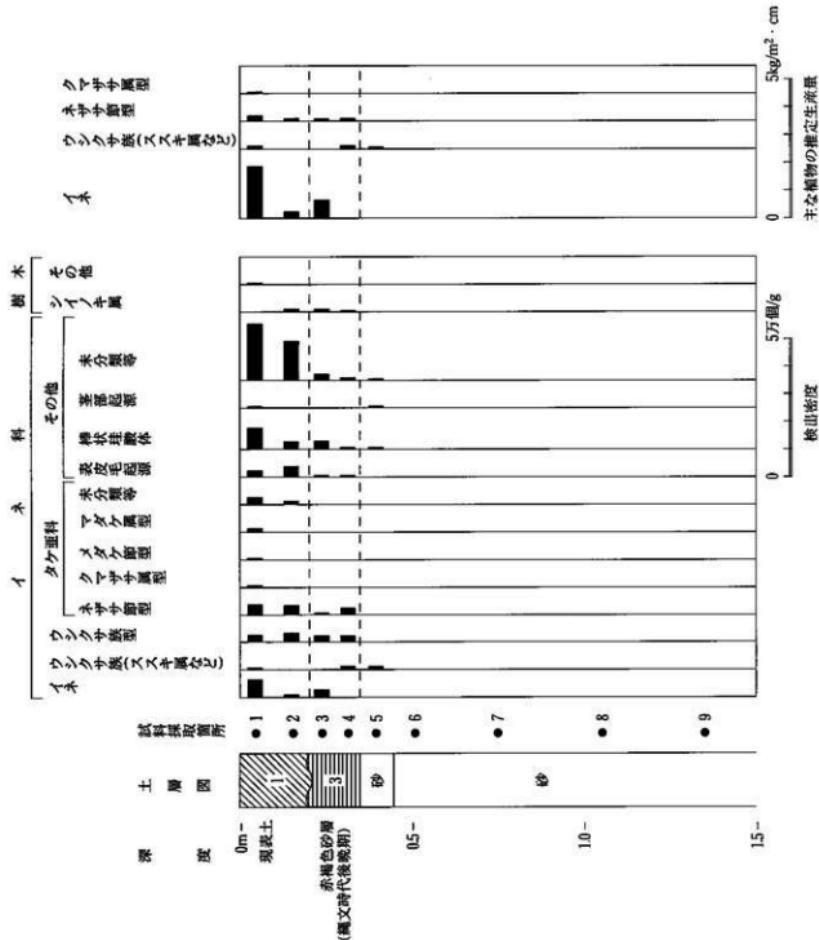


図2 遺跡C地点における植物遺体分析結果

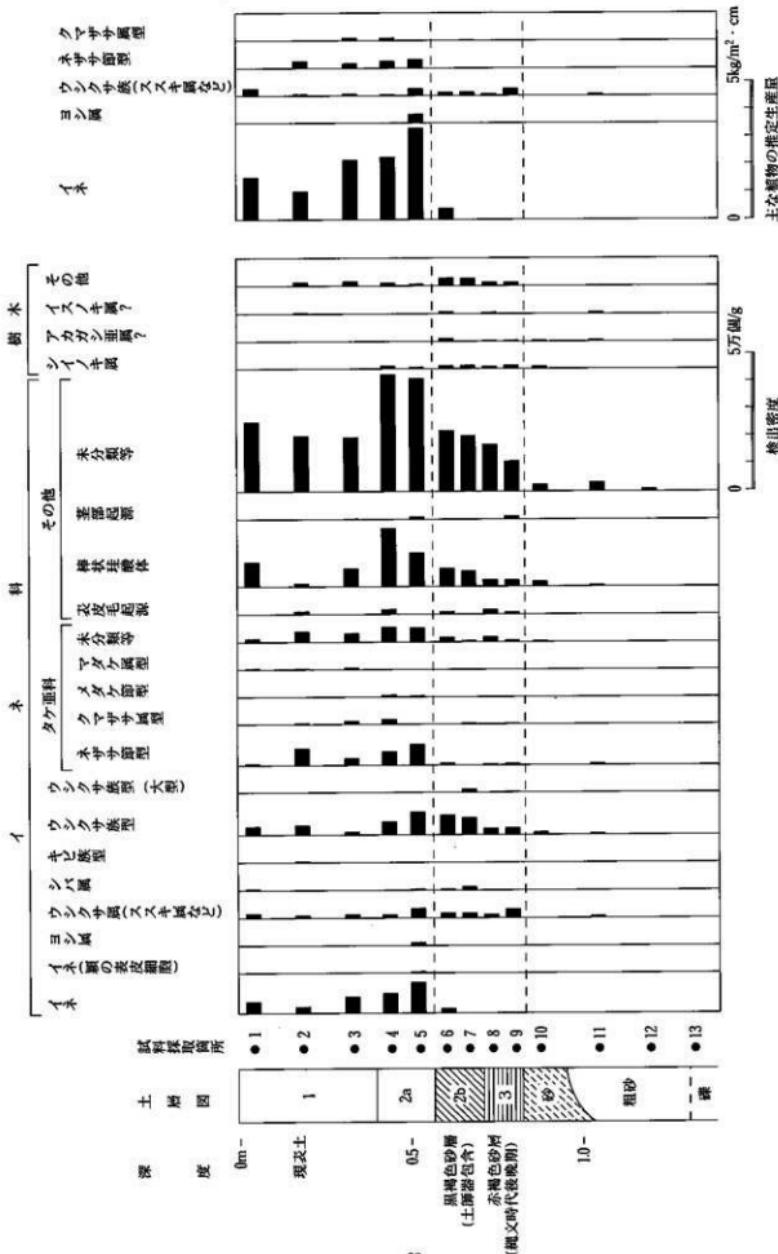


図3 遺跡D地点における植物有機酸分析結果

表1) 遺跡の植物珪穀体分析結果

(単位: ×100個/g)

分類群	A地点										C地点											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
イネ科																						
イネ、 イネ形態(種の表皮細胞)	22	43	30	15									67	7	23							
ヨシ属																						
ウシクサ族(スキ属など)	30	7	30				8						7		8	8						
シバ属																						
キビ族型																						
ウシクサ族型(大型)	15	29	30	15	8	8							30	44	23	15						
ウシクサ族型(大型)																						
タケ科																						
ネギサ属型	59	21	74	8	15								45	29	8	23						
クマザサ属型				15									7									
メダケ属型				7									7									
マダケ属型				15									15									
未分類等	22	121	96	8									37	7								
その他のイネ科																						
表皮毛起原	15		30										37	44	8	15						
桿状柱體	126	114	140	15	23	8							90	36	30	8	8					
茎部毛起原													7									
未分類等	222	242	296	15	15	8							216	153	23	15	8					
根木起原																						
シイノキ属																						
コナラ属(アカガシ亞属?)																						
イスノキ属?																						
その他																						
(施肥骨針)																						
植物珪穀体总数	510	577	776	60	68	30	23						575	336	128	90	30					

(単位: ×100個/g)

分類群	D地点												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
イネ科													
イネ	55	37	73	80	115	14							
イネ類似(頸の表皮細胞)					7								
ヨシ属	21	7	7	7	29	14	13	7	23				
ウシクサ族(ススキ属など)	7				7	7	13						
シバ属													
キビ属	41	37	15	51	94	72	65	22	23	15	8		
ウシクサ族型(大型)						13							
タケ科													
ネササ属型	14	67	29	65	79	7	7	7	8	8			
クマザサ属型	7	22	22			7	7			8			
メダケ属型					15	7							
マダケ属型	7	7	7										
未分類等	21	45	44	58	58	22	7	22	8	8			
その他イネ科													
表皮毛起源	15		29		14		22	8					
棒状維管体	103	15	80	218	130	72	65	29	30	30	8		
茎部起源				7	7				8				
未分類等	260	215	204	443	425	237	203	176	120	38	38	15	
知木起源													
シイノキ属	7	15	7	14	7	7	15	15					
コナラ属(カガシ亞属?)	7			14		7	8	8	8				
イスノキ属?	15	15	15	7	22	26	15	15					
その他													
(海綿骨針)						7		7		23			
植物主体總数	533	483	502	1017	981	524	418	322	278	113	83	15	

表(2) 道跡における主な分類群の推定生産量

(単位: kg/m³・cm)

分類群	A地点										C地点											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
イネ科																						
イネ、 ヨシ属	0.65	1.26	0.87	0.44									1.97	0.21	0.66							
ウシクサ族(ススキ属など)	0.37	0.69	0.37										0.09		0.09	0.09						
タケ亜科																						
ネザサ類型	0.28	0.10	0.35	0.04	0.07								0.21	0.14	0.04	0.11						
クマザサ属型			0.11										0.06									

*表1の値に飼料の返比重(1.0と仮定)と各植物の換算係数をかけて算出。
 換算係数は、イネが2.94、ヨシ属が6.31、ウシクサ族(ススキ属)が1.24
 ネザサ節が0.48、クマザサ属が0.75である(単位は10万分の1g)。

(単位: kg/m³・cm)

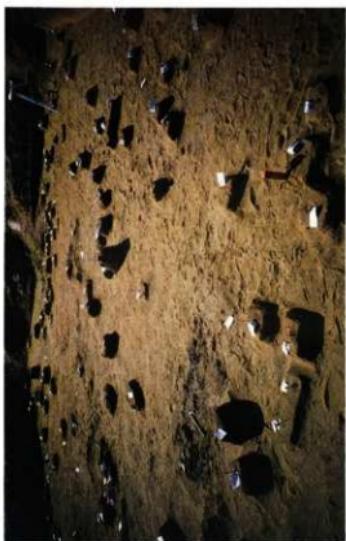
分類群	D地点												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
イネ科													
イネ、 ヨシ属	1.61	1.09	2.14	2.35	3.39	0.42							
ウシクサ族(ススキ属など)	0.25	0.69	0.09	0.09	0.36	0.18	0.16	0.09	0.28		0.09		
タケ亜科													
ネザサ類型	0.07	0.32	0.14	0.31	0.38	0.03	0.04	0.04	0.04		0.04		
クマザサ属型	0.06	0.16	0.16			0.05			0.06				

報告書抄録（記載様式案）

ふりがな	かどがわみなみまち いせき							
書名	門川南町遺跡							
副書名	一般国道10号門川拡幅南町地区事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	—							
シリーズ名	—							
シリーズ番号	—							
編著者名	山田洋一郎他							
編集機関	宮崎県教育委員会							
所在地	〒880 宮崎県宮崎市樋通東1-9-10 TEL 0985(26)7250							
発行年月日	西暦 1996年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在	コード		北緯 度	東経 度	調査機関	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
門川南町	門川町大字門川尾末			32度 28分	131度 39分 ～ 930201 940105 ～ 940208 940606 ～ 940617	921012 518 1970	3250	国道拡幅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
門川南町		縄文時代	住居跡・土壙		縄文土器			



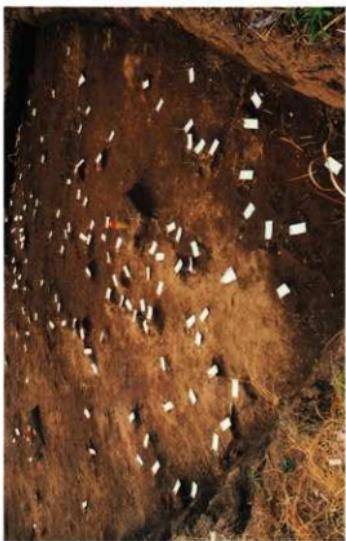
門川南町 全景(南から)



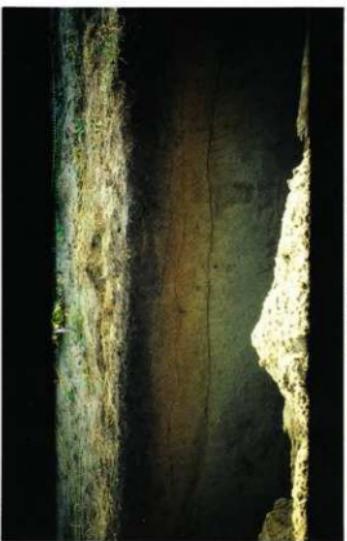
門川南町遺跡土器出土状況(2)



門川南町遺跡土器出土状況(3)



門川南町遺跡1区出土状況(1)



門川南町遺跡1区土層状況

図版2



門川南町遺跡作業風景(1)



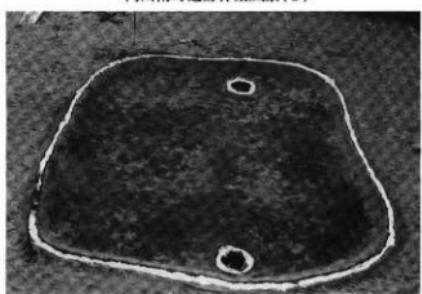
門川南町遺跡作業風景(2)



門川南町遺跡作業風景(3)



門川南町遺跡土器出土状況(4)

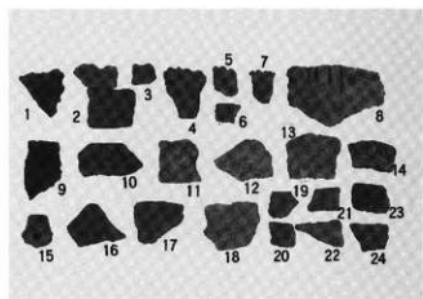


門川南町遺跡S A 1 完掘状況

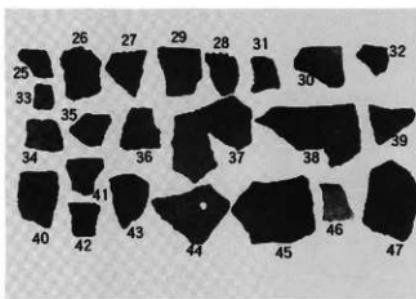


門川南町遺跡S C 6 検出状況(6)

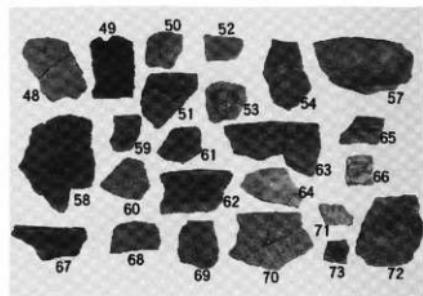
図版 3



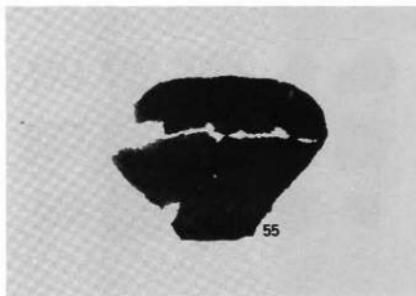
I類土器



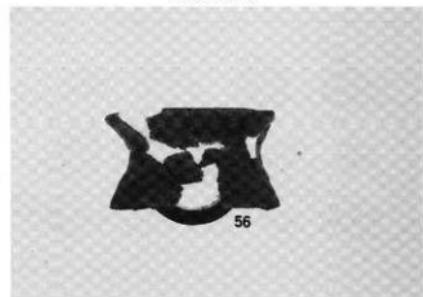
II類土器(1)



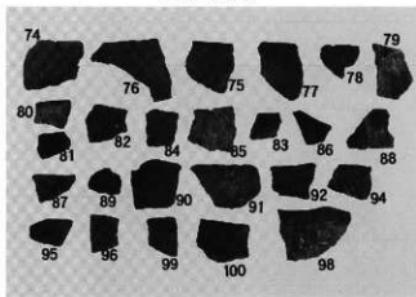
II類土器(2)



II類土器(3)

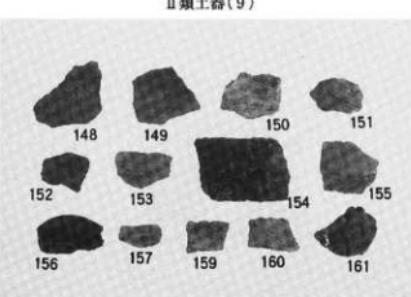
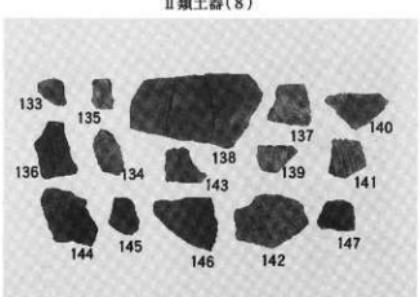
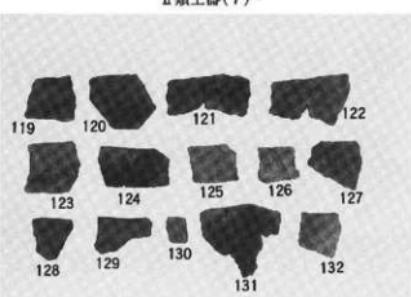
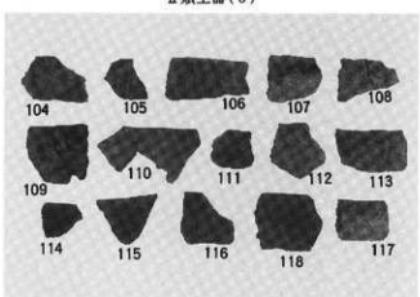
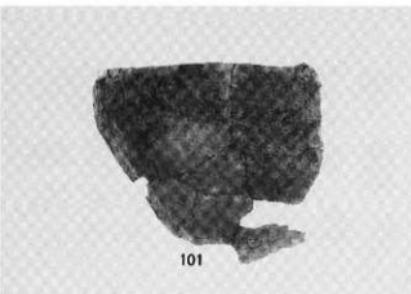
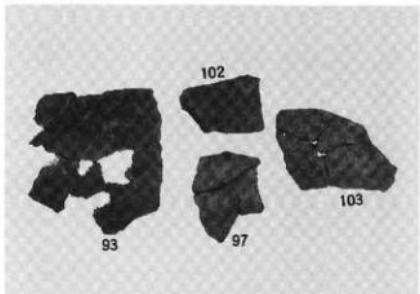


II類土器(4)

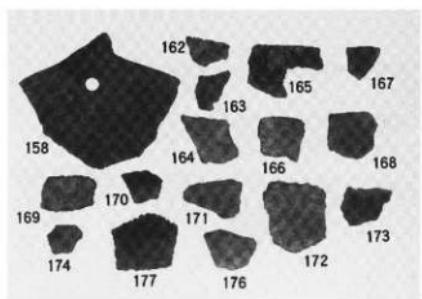


II類土器(5)

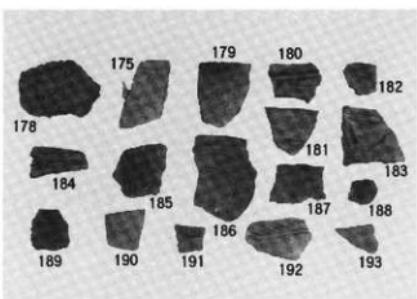
図版4



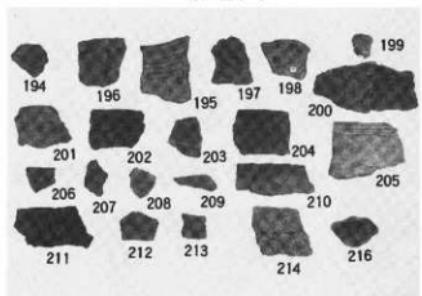
图版 5



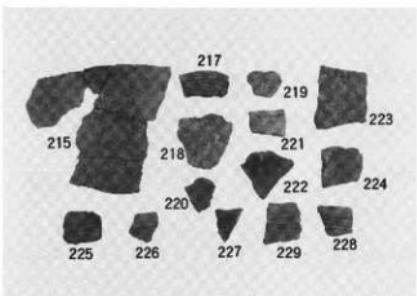
II類土器(12)



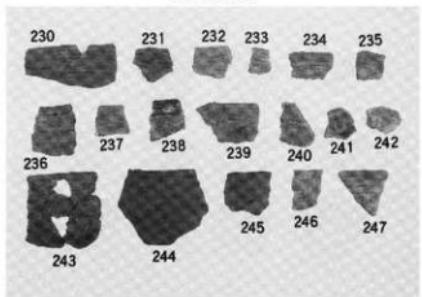
II類土器・III類土器



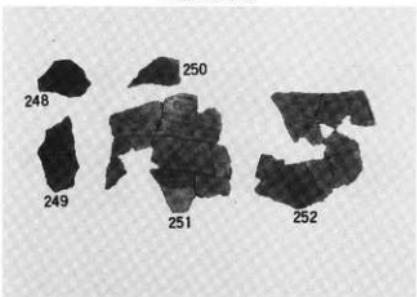
III類土器(1)



III類土器(2)

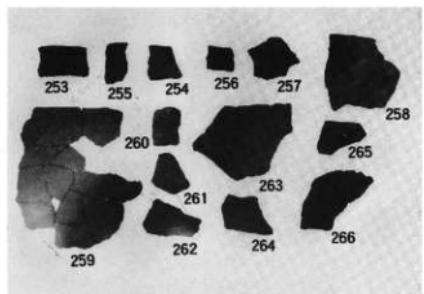


III類土器(3)

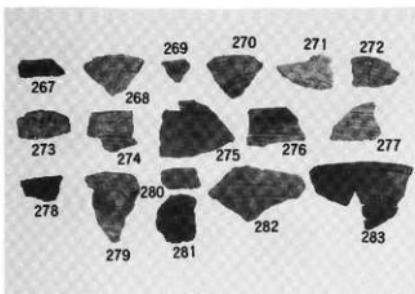


III類土器(4)

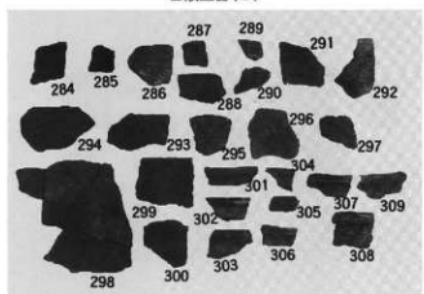
図版 6



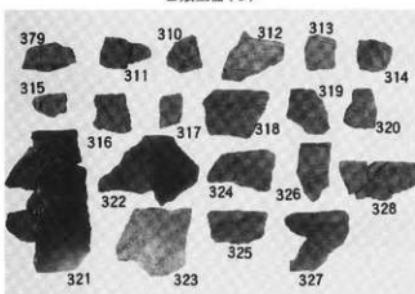
III類土器(5)



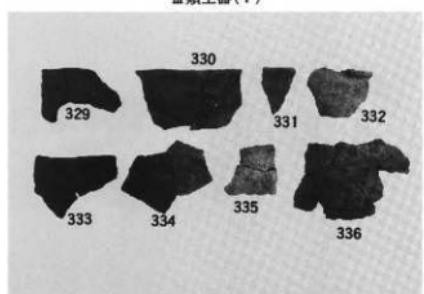
III類土器(6)



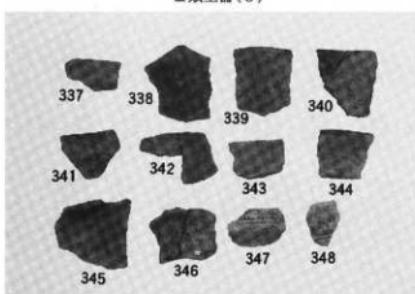
III類土器(7)



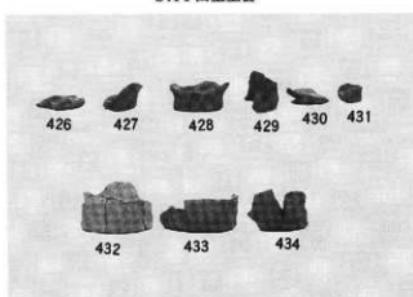
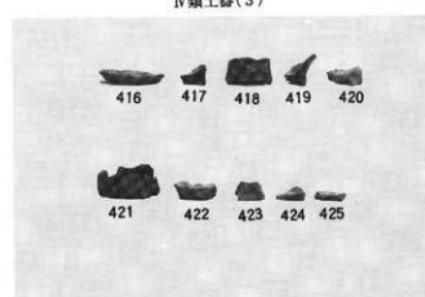
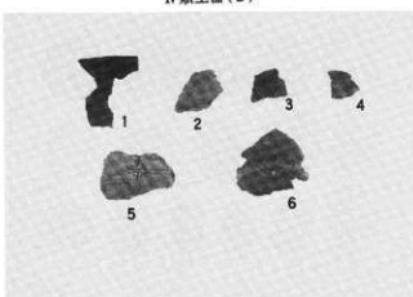
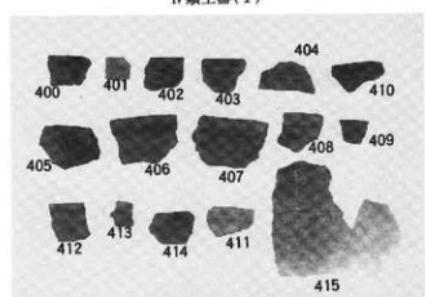
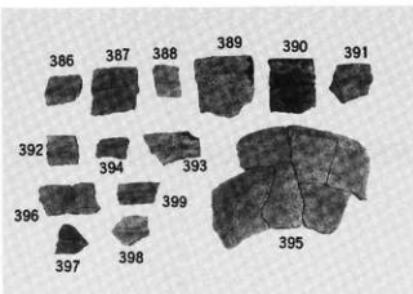
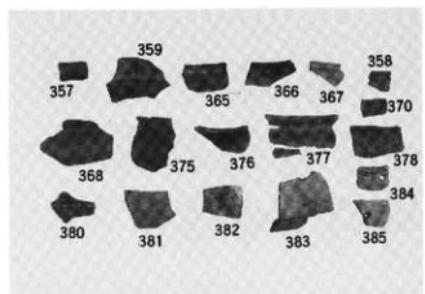
III類土器(8)



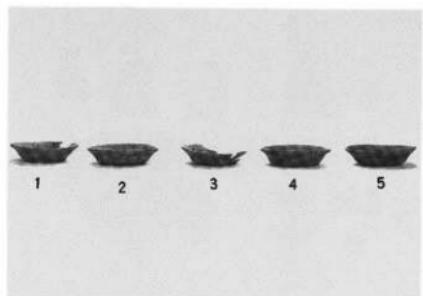
III類土器(9)



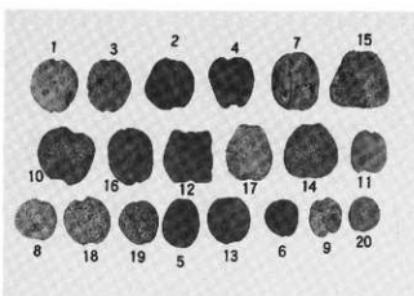
III類土器(10)



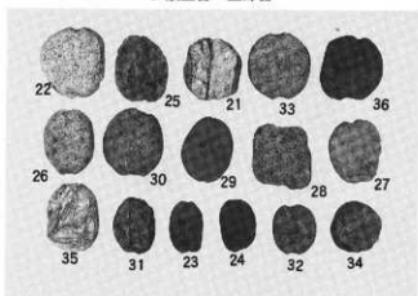
図版 8



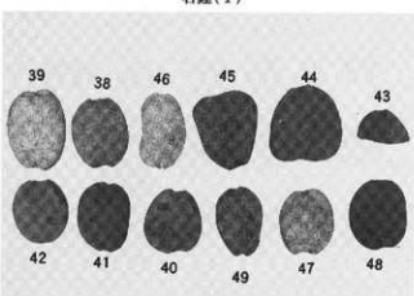
IV類土器・土師器



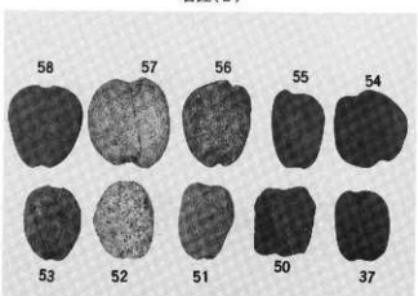
石錘(1)



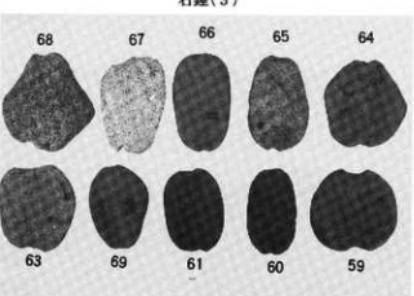
石錘(2)



石錘(3)

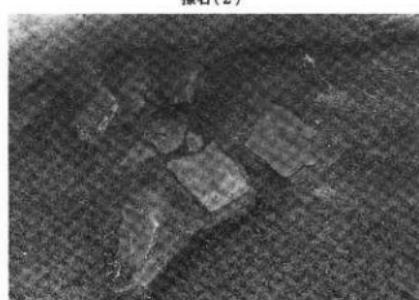
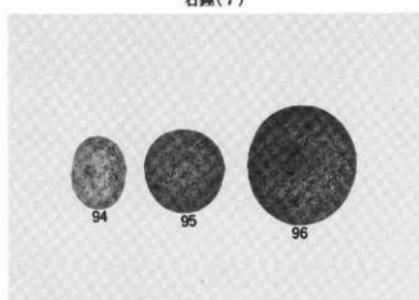
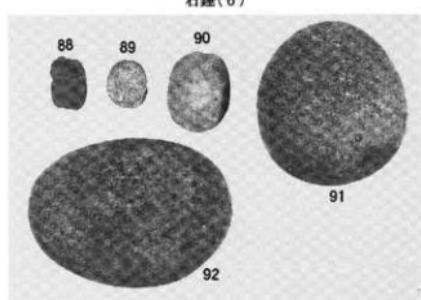
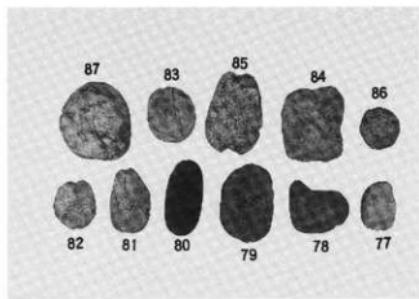
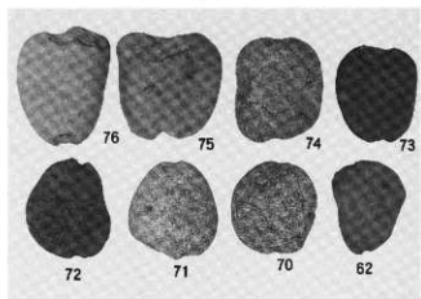


石錘(4)



石錘(5)

図版 9



図版10

門川南町遺跡

一般国道10号門川拡幅南町地区事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

発 行：宮崎県教育委員会

宮崎市橘通東1-9-10

印 刷：株式会社宮崎印刷